

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報

19

平成15年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2005年3月



C 地点南壁



D 地点 SD4 遺物出土状況
南上方から



D 地点 SD4 遺物出土状況
上部細片除去後 南西から



SD4 出土遗物

序

鹿児島大学埋蔵文化財調査室平成15年度の調査報告として、『鹿児島大学調査室年報Vol.19』を刊行いたします。平成15年度には郡元キャンパスで発掘調査2件、立会い調査24件、桜ヶ丘キャンパスでは、立会い調査1件が行われました。本年報には、それらの調査概要が掲載されています。

また、付編として平成5年度と平成7年度に実施した郡元団地K・L-5・6区(中央図書館増築地)の発掘調査報告も掲載しております。この地点は、古墳時代後半期の居住区で、住居跡と溝内に大量廃棄された土器群が発見されました。本書は古墳時代の研究に重要な、かつ良好な資料を提供できたものと思います。

キャンパス内では、年々、教育研究のための環境整備が進められ、それに先立って必要な埋蔵文化財の発掘調査が行われています。学内埋蔵文化財の調査事業の円滑な実施のため、また鹿児島大学の埋蔵文化財を大切にする姿勢を社会にアピールするため、関係の皆様方のご協力とご支援をお願い申し上げます。

平成17年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査室長 新田 栄治

例　　言

1. 本年報は、鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が2003（平成15）年度に行なった調査成果をまとめたものである。なお、1993・1995（平成5・7）年度に行なった郡元団地K・L-5・6区（図書館増築地C・D・E地点）における発掘調査報告を付録として掲載した。
2. 本書に掲載している発掘調査及び立会調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。調査時における図面・写真的担当は以下の通りである。なお、付録の中央図書館D地点SD4遺物出土状況実測では、本田道輝氏（鹿児島大学法文学部）に多大なご協力をいただいた。
2： 中村直子・新里貴之・青山奈緒・有村航平
付録： 中村・古澤生・大西智和・峰山いづみ・本田道輝
3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行なった。担当者は以下の通りである。

遺物実測　青山・有村

写真　中村・新里

製図　1：新里、2：新里、付録：中村・新里・青山・有村

作表　1：新里・中村、付録：有村・青山・中村

執筆　1：中村、2：新里、付録：中村（土器分類については、青山の観察・所見によるところが大きい）

概要訳文　中村

編集　中村

4. 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C・D・E地点）の出土遺物について、土器について本田道輝氏（鹿児島大学法文学部）、陶磁器は渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部）、石器は横手浩二郎氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）、石材については大塚裕之氏（鹿児島大学理学部）のご教授をいただいた。
5. 本書で報告している遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理のもと、学内の各部局が収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡　　例

1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地(旧宇宿団地)とに設定した。その設置基準は、以下の通りである。

(1) 郡元団地では、国土座標第2座標系(X=-158,200, Y=-42,400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった(Fig.3参照)。

(2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系(X=-161,600, Y=-44,400)を基点として一辺50 mの方形地区割りを行なった (Fig.4 参照)。

2 本年報において報告を行なった地点については、Fig.3～4にその位置を記してある。

3 本年報におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。

4 本書で使用した遺構の表示記号は、以下の通りである。

SK：土坑状遺構 SD：溝状遺構 P：ピット

5 土層の色調は「新版標準土色帖」(農林水産技術会議事務局監修)を使用した。

6 遺物に関しては観察表を作成した。その標記、表現については以下の通りである。

調整：調整名称の前の()は、調整方向を表す。(ー)：横位方向,(↑)：縦位,(↖)：左上がりの斜位,(↗)：右上がりの斜位,(?)：方向不明とした。ーは、調整の新旧関係を表す。

色調：「新版標準土色帖」(農林水産技術会議事務局監修)を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。

胎土：粒子の大きさで、砾(2mm～)・粗砂粒(1～2mm)・砂粒(0.2～1mm)・細砂粒(0.2mm以下)に分けた。また、砂粒の種類については、特定できないものは、その色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては、便宜的に1～9の9段階に分けた。9:20%以上, 8:15～20%, 7:15%前後, 6:10～15%, 5:10%前後, 4:5～10%未満, 3:5%前後, 2:1～5%未満1:1%以下とした。

7 遺物実測図中、←→はナデ方向を示し、—··—はスス付着の境界ラインを示す。←··—はススの範囲を示す。

8 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致している。

本文目次

第1章 平成15年度の調査概要	1	4.1 層位	94
		4.2 2b層上面遺構	95
第2章 平成15年度の立会調査	6	1) SD1	95
		2) 突状遺構	101
鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則	11	4.3 3層上面遺構	102
鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則	13	1) SK1	102
鹿児島大学埋蔵文化財調査室規則	13	2) SK2	102
		3) SK3	103
付録 郡元団地K・L-5・6区(中央図書館C・D・E 地点)における発掘調査報告-遺構と遺構出土遺物 の報告-	15	4) SK10	103
1 調査の概要	15	5) SK11	103
1.1 調査に至る経過	15	6) SK12	103
1.2 調査の期間と体制	15	7) SK13	103
1.3 調査の経過	15	8) SK16	103
1) 2次調査C地点	15	9) SK17	103
2) 3次調査D・E地点	15	10) SD2	104
2 C地点	16	11) SD3	105
2.1 層位	16	12) 突状遺構	106
2.2 V層上面遺構	18	4.4 4層上面遺構	107
1) SK3	19	1) SK4	107
2) SK4	19	2) SK5	108
2.3 VI層上面遺構	20	3) SK7	108
1) SK5	20	4) SK8	108
2) SK6	22	5) SK9	108
3) SK7	24	6) ピット群	109
4) SK8	25	7) 足跡状遺構	110
5) SK9	25	4.5 5層上面検出遺構	110
6) SD4	26	1) ピット群	110
3 D地点	30	5まとめ	113
3.1 層位	30	5.1 遺構について	113
3.2 II2層上面遺構	31	5.2 古墳時代の遺物について	114
1) SK3	31		
2) SD1	32		
3) SD2	33		
3.3 III1層上面遺構	34		
1) SK1	34		
2) SK2	35		
3) SK4	35		
4) SK5	35		
3.4 V・VI層上面遺構	36		
1) SD3	36		
2) SD4	40		
3) ピット	93		
4 E地点	94		

挿 図 目 次

Fig. 1	鹿児島市の位置	1	Fig. 46	D 地点 SD4 出土遺物状況(1)	42
Fig. 2	鹿児島大学構内遺跡の位置	3	Fig. 47	D 地点 SD4 出土遺物状況(2)	43
Fig. 3	郡元団地構内図 S=1/4000	4	Fig. 48	D 地点 SD4 土器接合状況	44
Fig. 4	桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000	5	Fig. 49	D 地点 SD4 出土遺物(1) 弥生土器	47
Fig. 5	2003-B 土層柱状図	6	Fig. 50	D 地点 SD4 出土遺物(2) 古墳時代の壺	
Fig. 6	2003-C 土層柱状図	6			48
Fig. 7	2003-E 土層柱状図	7	Fig. 51	D 地点 SD4 出土遺物(3) 古墳時代の壺	
Fig. 8	2003-F 土層柱状図	7			50
Fig. 9	2003-J 土層柱状図	7	Fig. 52	D 地点 SD4 出土遺物(4) 古墳時代の壺	
Fig. 10	2003-M 土層柱状図	7			53
Fig. 11	2003-O 土層柱状図	8	Fig. 53	D 地点 SD4 出土遺物(5) 古墳時代の壺	
Fig. 12	2003-P 土層柱状図	8			55
Fig. 13	2003-Q 土層柱状図	9	Fig. 54	D 地点 SD4 出土遺物(6) 古墳時代の壺	
Fig. 14	2003-R 土層柱状図	9			58
Fig. 15	2003-U 土層柱状図	9	Fig. 55	D 地点 SD4 出土遺物(7) 古墳時代の壺	
Fig. 16	2003-V 土層柱状図	10			62
Fig. 17	2003-X 土層柱状図	10	Fig. 56	D 地点 SD4 出土遺物(8) 古墳時代の鉢	
Fig. 18	2003-Y 土層柱状図	10			65
Fig. 19	各地点の位置	16	Fig. 57	D 地点 SD4 出土遺物(9) 古墳時代の壺	
Fig. 20	C 地点層位断面図	17			69
Fig. 21	C 地点 V 層上面遺構検出状況	18	Fig. 58	D 地点 SD4 出土遺物(10) 古墳時代の壺	
Fig. 22	C 地点 SK3	19			71
Fig. 23	C 地点 SK4	19	Fig. 59	D 地点 SD4 出土遺物(11) 古墳時代の壺	
Fig. 24	C 地点 VI 層上面遺構検出状況	20			73
Fig. 25	C 地点 SK5	21	Fig. 60	D 地点 SD4 出土遺物(12) 古墳時代の壺	
Fig. 26	C 地点 SK6	23			75
Fig. 27	C 地点 SK7	24	Fig. 61	D 地点 SD4 出土遺物(13) 古墳時代の壺	
Fig. 28	C 地点 SK8	25			77
Fig. 29	C 地点 SK9	25	Fig. 62	D 地点 SD4 出土遺物(14) 古墳時代の壺	
Fig. 30	C 地点 SD4	26			79
Fig. 31	C 地点 SK5・SK6・SD4 出土遺物	27	Fig. 63	D 地点 SD4 出土遺物(15) 古墳時代の壺	
Fig. 32	D 地点層位断面図	30			81
Fig. 33	D 地点 II 2 層上面遺構検出状況	31	Fig. 64	D 地点 SD4 出土遺物(16) 古墳時代の壺	
Fig. 34	D 地点 SK3	32			84
Fig. 35	D 地点 SD1	32	Fig. 65	D 地点 SD4 出土遺物(17) 古墳時代の高杯	
Fig. 36	D 地点 SD2	33			87
Fig. 37	D 地点 SD2 出土遺物	33	Fig. 66	D 地点 SD4 出土遺物(18) 須恵器と石器	
Fig. 38	D 地点 III 1 層上面遺構検出状況	34			91
Fig. 39	D 地点 SK1	34	Fig. 67	D 地点 ピット	
Fig. 40	D 地点 SK2	35			93
Fig. 41	D 地点 SK4・5	35	Fig. 68	E 地点層位断面図	
Fig. 42	D 地点 V・VI 層上面遺構検出状況	35			94
Fig. 43	D 地点 SD3	36	Fig. 69	E 地点 2b 層上面検出遺構	
Fig. 44	D 地点 SD3 出土遺物	36			95
Fig. 45	D 地点 SD4	37	Fig. 70	E 地点 SD1	
		37			96
		37	Fig. 71	E 地点 SD1 出土遺物	
		37			97
		37	Fig. 72	E 地点 3 層上面遺構検出状況	
		37			102
		41	Fig. 73	E 地点 SK1	
		41			102

Fig. 74 E 地点 SK2	102	Fig. 87 E 地点 SK5	108
Fig. 75 E 地点 SK3	103	Fig. 88 E 地点 SK7	108
Fig. 76 E 地点 SK10	103	Fig. 89 E 地点 SK8	108
Fig. 77 E 地点 SK11	103	Fig. 90 E 地点 SK9	108
Fig. 78 E 地点 SK12	103	Fig. 91 E 地点 5 层上面遺構検出状況	110
Fig. 79 E 地点 SK13	103	Fig. 92 E 地点 P215 出土遺物	112
Fig. 80 E 地点 SK16・SK17	103	Fig. 93 古墳時代遺構の配置	113
Fig. 81 E 地点 SD2	104	Fig. 94 鹿児島大学構内遺跡郡元団地の古墳時代の 遺構配置状況	114
Fig. 82 E 地点 SD3	105	Fig. 95 D 地点 SD4 出土の主な土器	116
Fig. 83 E 地点 SD2・3 出土遺物	106	Fig. 96 D 地点 SD4 出土壺のサイズ	116
Fig. 84 E 地点 4 层上面遺構検出状況	107	Fig. 97 壺と壺と鉢に付着したススの位置	116
Fig. 85 E 地点 SK4	107		
Fig. 86 E 地点 SK4 出土遺物	107		

表 目 次

Tab. 1 平成 15 年度の調査一覧	2	Tab. 15 D 地点 SD4 出土遺物観察表(8) 古墳時代の 壺	72
Tab. 2 調査期間と体制	15	Tab. 16 D 地点 SD4 出土遺物観察表(9) 古墳時代の 壺	76
Tab. 3 C 地点 SK5・SK6・SD4 出土遺物観察表(1)	29	Tab. 17 D 地点 SD4 出土遺物観察表(9) 古墳時代の 壺	83
Tab. 4 C 地点 SK5・SK6・SD4 出土遺物観察表(2)	29	Tab. 18 D 地点 SD4 出土遺物観察表(10) 古墳時代 の壺	86
Tab. 5 D 地点 SD2 出土遺物観察表	33	Tab. 19 D 地点 SD4 出土遺物観察表(11) 古墳時代 の高杯	90
Tab. 6 D 地点 SD3 出土遺物観察表	39	Tab. 20 D 地点 SD4 出土遺物観察表(12) 石器	91
Tab. 7 D 地点 SD3・SD4 種類別遺物出土数	45	Tab. 21 D 地点 ピット一覧表	93
Tab. 8 D 地点 SD4 出土遺物観察表(1) 弥生土器	47	Tab. 22 E 地点 SD1 出土遺物観察表(1)	100
Tab. 9 D 地点 SD4 出土遺物観察表(2) 古墳時代の 壺	52	Tab. 23 E 地点 SD1 出土遺物観察表(2)	101
Tab. 10 D 地点 SD4 出土遺物観察表(3) 古墳時代の 壺	57	Tab. 24 E 地点 SD2・3 出土遺物観察表	106
Tab. 11 D 地点 SD4 出土遺物観察表(4) 古墳時代の 壺	61	Tab. 25 E 地点 SK4 出土遺物観察表	108
Tab. 12 D 地点 SD4 出土遺物観察表(5) 古墳時代の 壺	64	Tab. 26 E 地点 4b 層上面検出ピット一覧	109
Tab. 13 D 地点 SD4 出土遺物観察表(6) 古墳時代の 鉢	67	Tab. 27 E 地点 5 层上面検出ピット一覧	111
Tab. 14 D 地点 SD4 出土遺物観察表(7) 古墳時代の 壺	70	Tab. 28 E 地点 P215 出土遺物観察表	112

写 真 目 次

PL. 1 C 地点南壁層位	18	PL. 37 D 地点 SD4 出土遺物(9) 古墳時代の鉢	66
PL. 2 C 地点 V 層上面検出状況 西側 (南東から)	18	PL. 38 D 地点 SD4 出土遺物(10) 古墳時代の鉢	67
PL. 3 C 地点 V 層上面検出状況 東側 (南から)	18	PL. 39 D 地点 SD4 出土遺物(11) 古墳時代の壺	70
PL. 4 C 地点 SK3	19	PL. 40 D 地点 SD4 出土遺物 (12) 古墳時代の壺	72
PL. 5 C 地点 SK4 埋土断面	19	PL. 41 D 地点 SD4 出土遺物(13) 古墳時代の壺	74
PL. 6 C 地点 SK3 (上) と SK4 (下) 完掘	19	PL. 42 D 地点 SD4 出土遺物(14) 古墳時代の壺	76
PL. 7 C 地点 SK5 (1)	21	PL. 43 D 地点 SD4 出土遺物(15) 古墳時代の壺	78
PL. 8 C 地点 SK 5 (2) 完掘 (南から)	22	PL. 44 D 地点 SD4 出土遺物(16) 古墳時代の壺	80
PL. 9 C 地点 SK6 (1)	22	PL. 45 D 地点 SD4 出土遺物(17) 古墳時代の壺	82
PL. 10 C 地点 SK6(2)	24	PL. 46 D 地点 SD4 出土遺物(18) 古墳時代の壺	85
PL. 11 C 地点 SK7	24	PL. 47 D 地点 SD4 出土遺物(19) 古墳時代の高杯	88
PL. 12 C 地点 SK8	25	PL. 48 D 地点 SD4 出土遺物(20) 古墳時代の高杯	92
PL. 13 C 地点 SK9	26	PL. 49 D 地点 SD4 出土遺物(21) 須恵器大甕	93
PL. 14 C 地点 SD4	26	PL. 50 D 地点 SD4 出土遺物 (22) 須恵器と石器	93
PL. 15 C 地点 SK5・SK6・SD4 出土遺物	28	PL. 51 D 地点 ピット	93
PL. 16 作業の様子 (西から)	31	PL. 52 E 地点 SD1 出土遺物 (1)	98
PL. 17 D 地点 II 2 層検出状況 (南西から)	31	PL. 53 E 地点 SD1 出土遺物 (2)	99
PL. 18 D 地点 SK3	32	PL. 54 E 地点 SK1 (北から)	102
PL. 19 D 地点 SD1	32	PL. 55 E 地点 SD2・3	105
PL. 20 D 地点 SD2	33	PL. 56 E 地点 SD2・3 出土遺物	106
PL. 21 D 地点 SD2 出土遺物	33	PL. 57 E 地点 SK4	107
PL. 22 D 地点 SK1	34	PL. 58 E 地点 SK4 出土遺物	107
PL. 23 D 地点 SK2 完掘状況 (西から)	35	PL. 59 E 地点 4 層上面検出状況	108
PL. 24 D 地点 SK4・5	35	PL. 60 E 地点 ピット完掘	109
PL. 25 D 地点 SD3	37	PL. 61 E 地点 4 層上面検出 ピット完掘状況 (東か ら)	109
PL. 26 D 地点 SD3 出土遺物	38	PL. 62 E 地点 4a 層中検出の足跡	110
PL. 27 D 地点 SD4(1)	40	PL. 63 E 地点 5 層上面検出 ピット	112
PL. 28 D 地点 SD4(2)	43	PL. 64 E 地点 P215 出土遺物	112
PL. 29 D 地点 SD4 出土遺物(1) 弥生土器	47		
PL. 30 D 地点 SD4 出土遺物(2) 古墳時代の甕	49		
PL. 31 D 地点 SD4 出土遺物(3) 古墳時代の甕	51		
PL. 32 D 地点 SD4 出土遺物(4) 古墳時代の甕	54		
PL. 33 D 地点 SD4 出土遺物(5) 古墳時代の甕	56		
PL. 34 D 地点 SD4 出土遺物(6) 古墳時代の甕	59		
PL. 35 D 地点 SD4 出土遺物(7) 古墳時代の甕	60		
PL. 36 D 地点 SD4 出土遺物(8) 古墳時代の甕	63		

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぼうじゅうく							
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報19							
編著者名	中村直子・新里貴之							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒890-8580 鹿児島市郡元一丁目21番24号 Tel 099-285-7270 Fax 099-285-7271							
発行年月日	2005年3月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内遺跡郡元団地K・L-5・6区	鹿児島市郡元一丁目21番35号	4620	I-23-0	31°34'11"	130°32'48"	平成5年5月13日～9月10日、 平成7年5月30日～8月30日	530m ²	校舎建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
鹿児島大学構内遺跡郡元団地K・L-5・6区		近代	溝状遺構複積み跡	陶磁器、青磁、笠貫式土器、 弥生中期土器、砥石、打製石斧、敲石、輕石製品、石核、 須恵器				
		近世	歟跡溝状遺構					
		中世	溝状遺構					
		古墳時代	住居跡、溝状遺構、ピット群					
		弥生時代						

第1章 平成15年度の調査概要

1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾(錦江湾)が広がり、他の三方は姶良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。本書に掲載する調査地点は、鹿児島大学構内の郡元団地と桜ヶ丘団地で、それぞれを、「鹿児島大学構内遺跡郡元団地」、「同、桜ヶ丘団地」と呼んでいる。

郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し、標高約7mである。從来から周知の遺跡として知られており、校舎などの建設に伴う事前の発掘調査も多く行われている。昭和59年までは字名などが遺跡の名称として用いられており、県立医大遺跡、付属中学校敷地内遺跡、釣田遺跡、木町遺跡も郡元団地内の遺跡である¹⁾。郡元団地では古墳時代の住居跡群が多く発見され、現在、3つの集住地域が把握できている(Fig. 94)。一つは郡元キャンパスのほぼ中央部、もう一つは南西部で、いず

れも微高地に形成されている。中央に位置する住居群のすぐ北側には河川流路が確認されている。河川の中からは弥生時代から古墳時代にかけての木製品や木杭が出土している。平成9年度の工学部における調査では、弥生時代の水田跡が検出されている。古墳時代の水田跡は現在のところ、構内ではまだ発見されていないが、古墳時代の包含層には多量のイネのプランツ・オバールが含まれており²⁾、稲作が継続的に行われていたことがわかる。

桜ヶ丘団地は郡元団地から南に約2.5kmの亀ヶ原台地上に位置し、標高約70mを測る。昭和16年に埋蔵文化財調査室が設置されてからは、鹿児島大学構内遺跡宇宿団地と呼称していたが、キャンパス名の変更に伴い、桜ヶ丘団地となった。近隣の台地上には、旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡が点在しており、桜ヶ丘団地でも同様の時期の遺物が出土している。また、縄文時代早期、弥生時代前期・終末期の住居跡も確認されている。

2 調査の概要

平成15(2003)年度は、発掘調査を郡元団地で2件、立会調査を郡元団地で24件、桜ヶ丘団地で1件実施した(Tab. 1)。

2.1 2002-2 郡元団地H-12・13区(VBL[ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ]棟建設地)

郡元団地西側に位置するVBL棟建設工事に伴い、平成15年3月3日～8月29日まで発掘調査を実施した。周辺の過去の調査によって河川跡が確認されていたが、この地点も弥生時代から近代にかけての河川跡であると判明した。

中近世と考えられる第2層からは、検出幅の狭い河川跡(約3m程度)や、烟跡が確認された。4層以下には、切り合ひ関係から見て、数回の潮流を伴う河川跡が確認されたが、これらは5m以上の幅がある。最下位の泥炭層に突き刺さる形で、数条の木杭列が確認された。そのうちの1本の放射性炭素年代測定分析の結果、 1860 ± 50 年BPとの年代が得られた。木杭列は泥炭層に刺さっている部分近くまでは残存しており、その配置と傾きから、合掌型壇である可能性がある。河川を利用した灌漑施設を設けていたと思われる。また、北側の川岸には古墳時代前期に位置づけられる東原式の壺を破碎し、埋めた遺構も確認された。河川に伴う祭祀行為である可能性が高い。遺物は、縄文時代前期末～中期初頭の深浦

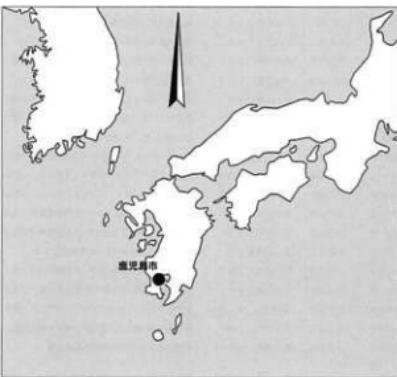


Fig.1 鹿児島市の位置

Tab.1 平成15年度の調査一覧

調査コード	調査の種類	調査名	地区	E名前	調査名	プライマー な層の有無	期間	備考
2003-2	発掘調査	郡元田地	B-1213	「E-1(シナチャーベジネスラボラトリー)」改修工事	鹿児島・青山	●	2003年3月23日-6月29日	
2003-1	発掘調査	郡元田地	E-9-10	鹿児島大学教育学部附属中学校改修施設工事	中村・有村	●	2003年4月13日-7月22日	
2003-3	立会調査	郡元田地	J-4	鹿児島大学(附)研究施設その他の工事(その2)	有村	×	2003年4月21日	
2003-5	立会調査	郡元田地	E-9	鹿児島大学(附)改修施設その他の工事(その2)	有村	●	2003年4月18-17日	
2003-6	立会調査	郡元田地	E-9	鹿児島大学(附)工場)改修施設新規電気設備工事	中村	●	2003年4月13日	
2003-9	立会調査	郡元田地	E-9-9	鹿児島大学(附)改修施設その他の工事(その2)	中村	×	2003年4月21-22日	
2003-7	立会調査	郡元田地	E-9	鹿児島大学(附)工場)改修施設新規電気設備工事	有村	●	2003年4月15日	
2003-7	立会調査	郡元田地	B-10	鹿児島大学教育学部附属中学校改修施設工事	中村	●	2003年4月9日	
2003-5	立会調査	郡元田地	E-6	(馬小屋)改修工事-産業用-倉庫(2)	有村	×	2003年6月13日	
2003-8	立会調査	郡元田地	E-9	鹿児島大学(附)改修施設(33号館)改修工事	有村	×	2003年7月6日	
2003-1	立会調査	郡元田地	H-11-12	鹿児島大学ベニチャーベジネスラボラトリー新設その他の施設改修工事	青山	●	2003年8月5-7日	130.検査報告提出予定
2003-7	立会調査	郡元田地	G-6-11-12	鹿児島大学ベニチャーベジネスラボラトリー新設その他の施設改修工事	中村・青山	●	2003年8月18-27日	
2003-5	立会調査	郡元田地	Q-10	鹿児島大学教育学部附属中学校改修電気設備工事	有村	×	2003年9月14日	
2003-1	立会調査	郡元田地	R-10	鹿児島大学教育学部附属中学校改修電気設備工事	中村	×	2003年9月25日	
2003-5	立会調査	郡元田地	F-11	鹿児島大学(附)工場)下槽改修施設工事	中村・青山	●	2003年11月14-6日	
2003-5	立会調査	郡元田地	E-9-10	鹿児島大学(附)改修施設工事	有村	×	2003年11月11日	
2003-9	立会調査	郡元田地	E-9	鹿児島大学(附)改修施設(33号館)改修工事	中村	●	2003年11月13-20日	
2003-7	立会調査	郡元田地	H-11-12	鹿児島大学ベニチャーベジネスラボラトリー新設その他の施設改修工事	青山・中村	●	2003年12月22-25日	
2003-9	立会調査	郡元田地	J-10	鹿児島大学(附)改修施設工事	中村	●	2004年1月15-16日	
2003-6	立会調査	郡元田地	F-6-9	鹿児島大学教育学部附属中学校改修施設工事	青山・中村	●	2004年1月21-22-27-29、 2月4-9日	
2003-5	立会調査	郡元田地	H-11-12	鹿児島大学ベニチャーベジネスラボラトリー新設その他の施設改修工事	青山・中村	●	2004年1月22-29-2月7日	130.検査報告提出予定
2003-1	立会調査	郡元田地	J-2-34	鹿児島大学部キャンパス電気設備(心の広場)工事	中村	×	2004年1月23日	
2003-5	立会調査	郡元田地	J-9-10	鹿児島大学(附)工場)改修施設新規電気設備工事	中村	●	2004年2月3日	
2003-5	立会調査	郡元田地	N-6	教育学部宿泊施設改修工事	有村	●	2004年2月10-12日	
2003-4	立会調査	郡元田地	F-5	鹿児島大学事務処理改修施設工事	青山	×	2004年2月12日	
2003-5	立会調査	郡元田地	H-12-13	鹿児島大学(附)テクニカルキットボスト等工事	有村	●	2004年3月6日	
2003-7	立会調査	郡元田地	I-8	鹿児島大学学舎改修外壁打診工事	青山	●	2004年3月21日	

式や晚期の黒川式、石匙なども確認されるが、これらはかなり摩滅しており、上流から流れてきたものであろうと考えられる。一方、刻目突帯文土器から古代の土器は完形品に近い形で出土することが多く、特に弥生時代後期から終末期の土器はその傾向が顕著であった。また、石鏡や三角形状の石庖丁も出土した。河川跡周辺の弥生時代前期～中期頃の土層からはプランツ・オパール分析によってヤイネやムギが検出されている。当時、この河川を利用した、生産体系が確立されていたと考えられる。

2.2 2003-1 郡元田地 R-9・10区(教育学部付属中学校体育館)

付属中学校体育館南側入り口の改修工事に伴い、発掘調査を行った。工事による掘削が地表下1mまでであったため、調査もそれ以上を対象範囲としたが、4c層上面で古墳時代の遺構を検出した。調査区周辺は過去の調査によって、古墳時代の住居跡が密集しているのが確認されているが、その一部になるものと推定される。検出面以下の調査は行わなかったが、住居跡5基、土坑2基を確認した。

2.3 立会調査

立会調査はVBL棟建設工事に伴うものが多かった。発掘調査区の周辺部にあたるが、掘削深度の浅い立会調査でも、烟の歴跡と考えられる遺構が検出するなど、発掘調査で検出した遺構と関連するものが認められた。他の立会調査での埋蔵文化財に対する深刻な影響はあまりなかったが、25件の調査のうち、16件で過去の発掘調査によって遺物が含まれていたプライマリーな層が確認できた。

注

- 松永幸男 1986「第Ⅱ章 鹿児島大学構内遺跡の位置と現 境」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』I 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 藤原宏志 2003「郡元田地 L-6区(中央国技館増築地 A地点北壁)におけるプランツ・オパール分析結果報告」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報」18 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 などによる。



Fig.2 鹿児島大学構内道路の位置

国土地理院発行の5万分の1地形図(鹿児島)より

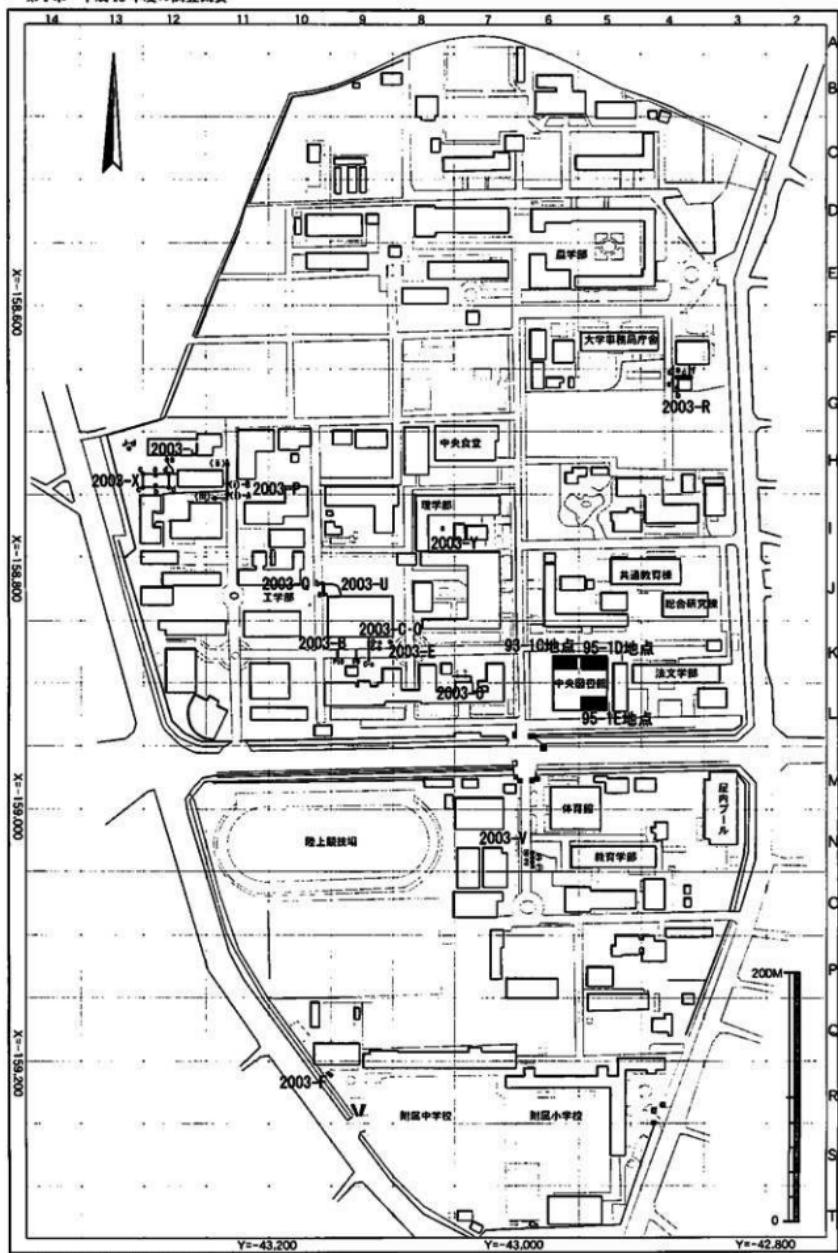


Fig. 3 鹿児島大学構内道路網元図地図 S=1/4000

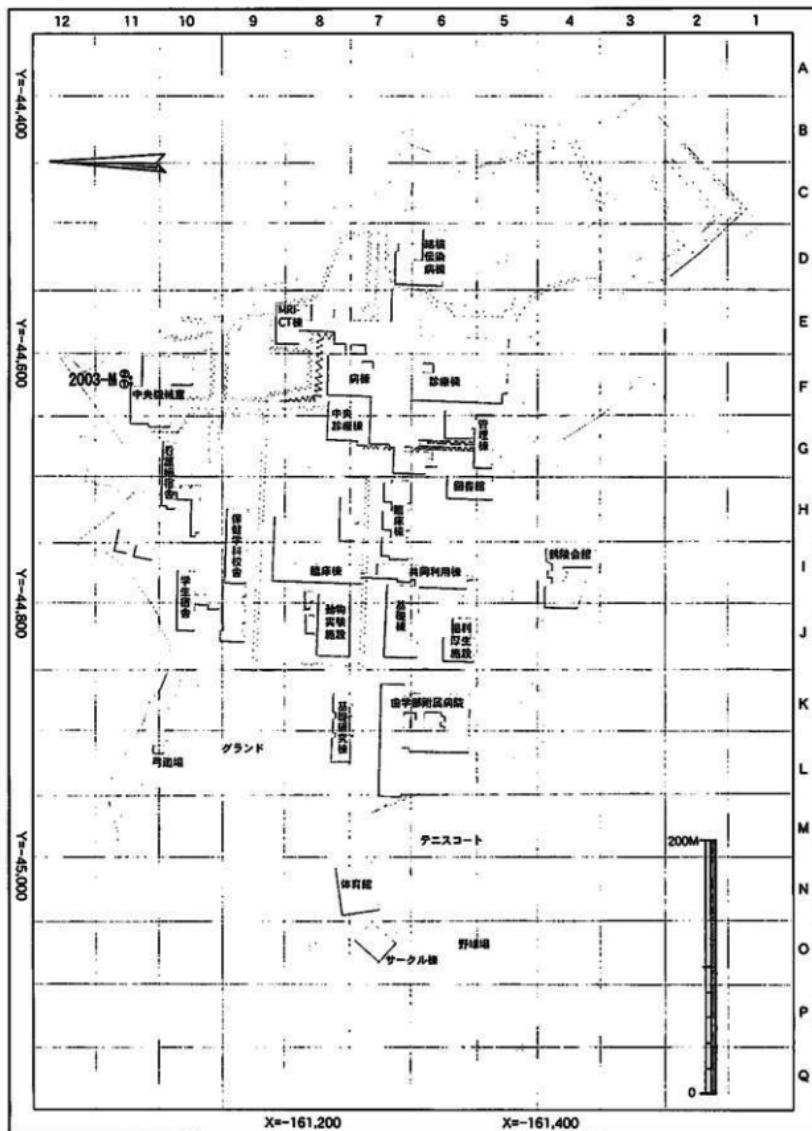


Fig.4 鹿児島大学構内道路桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000

第2章 平成15年度の立会調査

第1章 Tab.1 にあるように、平成15年度は、25件の立会い調査を実施した。団地別では、郡元団地が23件、桜ヶ丘団地が2件で、今回は、前々年度の理学部校舎改修工事に伴うものと、前年度のVBL棟に関わる立会調査が多い。これらのうち、2003-A・D・G・H・K・L・N・T・W立会に関しては、掘削部が表土・搅乱層の範囲でおさまり、埋蔵文化財への影響がなかった。しかし、表土・搅乱層より遺物が出土した地点もある。2003-Aでは、弥生時代-古墳時代と考えられる3cm大の無文陶片1点、2003-Kでも弥生時代-古墳時代と考えられる1-5cm大の無文陶片4点が出土している。また、2002-F地点では、2層より弥生時代-古墳時代のものと考えられる1-2cm大の無文土器片が4点出土している。2003-I・Sについては、VBL棟近隣の地点であり、遺構なども検出されているので、VBL棟の発掘調査報告とともに掲載することとする。

以下、プライマリーな土層が確認されたものについて、立会調査ごとに説明する。なお、鹿児島大学の独立行政法人化に伴い、平成16年度以降の立会調査は、鹿児島市教育委員会が行う旨、鹿児島県より指導があった。平成16年度は、大学側にもそれに応じた対策をとるべく、周知徹底している段階である。

2003-B 鹿児島大学(理)校舎改修その他工事 (Fig.5 構内図・Fig.3)

調査地点 理工系共通教育棟北隣の幹線道路 (郡元K-9区)

調査期間 2003年4月10-17日

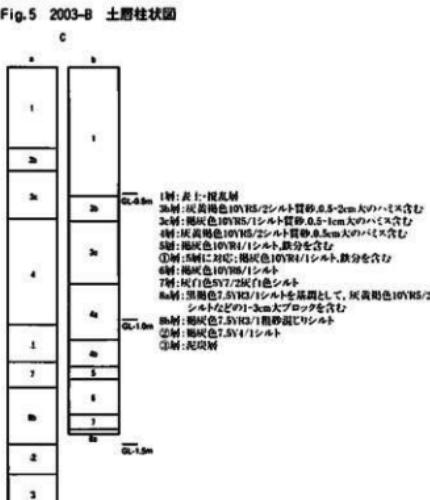
理工系共通教育棟北隣の幹線道路を横断するように、排水管設置のための掘削が11箇所で行われた。深さは55-80cmである。9箇所は表土・搅乱層であった。P3表土・搅乱層からは、1-2cm大の古墳時代土器小破片が3点出土している。プライマリーな土層は、P9-10で確認された。理工系総合研究棟の調査に対応し、2層は近世～近代、3層は中世以降、4・5層は古代以降に対応すると考えられる。

2003-C 鹿児島大学(理工系)総合研究棟新営電気設備工事 (Fig.6 構内図・Fig.3)

調査地点 理工系共通教育棟北隣の幹線道路 (郡元K-9区)

調査期間 2003年4月13日

理工系総合研究棟から理工系共通教育棟に配管するために、幹線道路を横断する形で、掘削が行われた。土層は、理工系総合研究棟に対応しており、A地点は深さ177cm、B地点は146cmである。2層は近世～近代、3層は中世以降、4・5層は古代以降、6層は弥生時代中期、7層が弥生時代前期以降、③層の泥炭層が縄文時代後期に対応するものと考えられる。



**2003-E 鹿児島大学(理工系)総合研究棟
新営電気設備工事 (Fig.7 構内図・Fig.3)**

調査地点 理工系総合研究棟入口付近 (郡元K-9)

調査期間 2003年5月15日

理工系総合研究棟の玄関部にあるビロウの移植のため、深さ130cmの掘削が行われた。移植先において、2層のプライマリーな土層を確認したが、おそらく、2層は近世～近代、3層は中世以降に対応するものと考えられる。

2003-F 鹿児島大学教育学部(附中)体育館改修その他工事 (Fig.8 構内図・Fig.3)

調査地点 附中体育馆前 (郡元R-10)

調査期間 2003年6月9日

附中体育馆前の花壇に、ソテツとキンモクセイの移植を行うため掘削された。キンモクセイは既掘部であったが、ソテツの掘削坑は、2.5m、深さ60cm程度であり、プライマリーな2層が確認された。同層において無文土器小片が少量出土した。

2003-J 鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー新営その他機械設備工事 (Fig.9 構内図・Fig.3)

調査地点 VBL棟建設予定地南東部 (郡元G-H-11・12)

調査期間 2003年8月18・27日

VBL棟建設予定地南東部に電気配管のため、深さ120cm程度の掘削が行われた。土層は、VBL棟に対応しており、3層上面が中世頃、4・5層は河の堆積物で構成されている。また、支線引き込み工事箇所(90×30cm、深さ80cm)のについても同様であると考えられる。

2003-M 鹿児島大学医学部6KV予備電源供給工事 (Fig.10 構内図・Fig.4)

調査地点 (桜ヶ丘F-11)

調査期間 2003年11月1・5・8・9日

中央機械室屋外キューピクル設置に伴う掘削工事が行われた。深さは60～70cm前後。どの地点においても、チョコ層(後期旧石器時代～縄文時代草創期頃)以上の層は、削平されており、遺物などの出土もなかった。

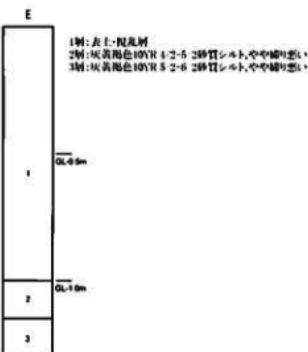


Fig.7 2003-E 土層柱状図



Fig.8 2003-F 土層柱状図

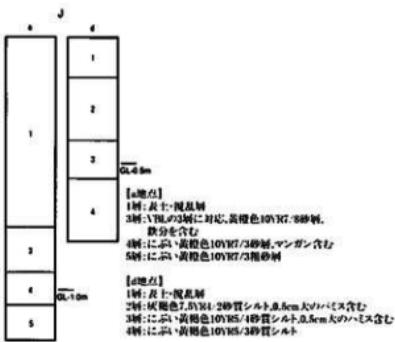


Fig.9 2003-J 土層柱状図



Fig.10 2003-M 土層柱状図

2003-O 鹿児島大学(理工系)総合研究棟新営電気設備工事 (Fig.11 構内図・Fig.3)

調査地点 郡元 (K-9)

調査期間 2003年11月13・20日

理工系総合研究棟の南側において、電気配管のための掘削が行われた。層の確認状況は、図11の通りであるが、異質な土層のため周辺地点との対応関係は不明である。

2003-P 鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー新営その他機械設備工事 (Fig.12 構内図・Fig.3)

調査地点 工学部情報工学科棟東側道路(郡元H-I-11-12)

調査期間 2003年12月22・25・26日

工学部情報工学科棟東側道路に配管工事のための掘削が行われた。道路地点をi-A・B地点・ 地点とし、情報工学科棟と海洋土木棟の間を、 地点としている。どの地点もVBL棟の土層に対応していると考えられるが、i-A地点6層より、1-4cm大の弥生時代・古墳時代のものと考えられる無文胴部片3点、 地点3層より、弥生時代・古墳時代の無文胴部片2点、 増の底部付近と考えられる土器片1点、 近世薩摩焼の擂鉢胴部片1点が出土した。したがって、

地点の3層は近世以降であると考えられる。

2003-Q 鹿児島大学(理工系)総合研究棟新営電気設備工事 (Fig.13 構内図・Fig.3)

調査地点 (郡元J-10)

調査期間 2004年1月15・16日

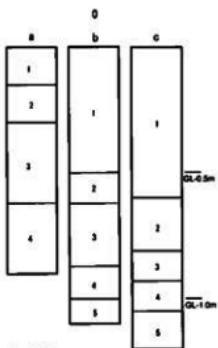
マンホールに接続する配管工事の掘削坑で、a地点が125cm、b地点が175cmの掘削坑である。a地点3層は古墳時代に対応し、4層は、河川の氾濫層であると考えられる。5層は弥生時代中期の層に対応する。b地点の3・4層は、弥生時代中期頃の水田層に対応する。

2003-R 鹿児島大学総合研究博物館改修工事 (Fig.14 構内図・Fig.3)

調査地点 (郡元F-G-3-4)

調査期間 2004年1月21・22・27-29、2月3・5・9日

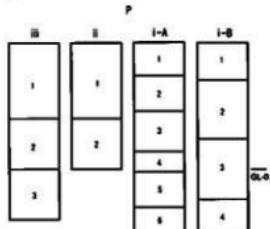
総合研究博物館の改修に伴う掘削工事である。a-d・e地点は70cm、b-c地点は、60cm、f地点は80cmの掘削坑である。土層の様子は、図14の通りであるが、他地点との対応関係は不明である。



【a-b地点】
1M: 壁上・荒丸層
2M: にじみ・黄褐色10YR1/3シルト質砂、鉄分を含む、縦まりよい。
3M: 黄褐色10YR1/3シルト質砂、鉄分を含む、0.5cm大のハシモト根を含む。
4M: 黄褐色10YR1/2シルト質砂、鉄分を含む、0.5-3cmの大のハシモト根を含む。
5M: 黄褐色10YR1/2シルト質砂、鉄分を含む、0.5-3cmの大のハシモト根を含む。
6M: 黄褐色10YR1/2シルト質砂、マンガンを含む、0.5cm大のハシモト根を含む。

【c地点】
1M: 壁上・荒丸層
2M: にじみ・黄褐色10YR1/3シルト質砂、鉄分を含む、0.5cm大のハシモト根を含む。
3M: 黄褐色10YR1/3シルト質砂、鉄分・マンガンを含む、0.5cm大のハシモト根を含む。
4M: にじみ・黄褐色10YR1/3シルト質砂、鉄分・マンガンを含む、0.5cm大のハシモト根を含む。
5M: 黄褐色10YR1/2シルト質砂、鉄分・マンガンを含む、0.5cm大のハシモト根を含む。

Fig.11 2003-O 土層柱状図



【a-b地点】
1M: 壁上・荒丸層
2M: 黄褐色10YR1/6砂質シルト質砂、鉄分を含む、縦まりよい。
3M: 黄褐色10YR1/2シルト質砂、0.5-1cmの大のハシモト根を含む。
4M: 黄褐色10YR1/2シルト質砂、鉄分を含む、七器小片が出土。

【c-d-e地点】
1M: 壁上・荒丸層
2M: 明黄色10YR1/1細砂層
3M: 黄褐色10YR1/2シルト質砂
4M: 明黄色10YR1/6砂層
5M: 黄褐色10YR1/6砂層
6M: 黄褐色10YR1/6砂質シルト質砂、鉄分を含む、七器小片が出土。

Fig.12 2003-P 土層柱状図

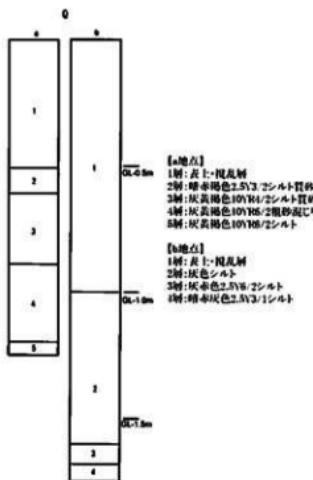


Fig.13 2003-0 土層柱状図



Fig.14 2003-R 土層柱状図

2003-U 鹿児島大学（理工系）総合研究棟新営電気設備工事 (Fig.14 構内図・Fig.3)

調査地点 (郡元J-9-10)

調査期間 2004年2月5日

外灯用埋設配管のための掘削工事に伴う調査である。配管部は既掘部であったが、外灯基礎部分を120cm掘削している。理工系総合研究棟とその明確な対応関係は不明である。

2003-V 教育学部幹線並木整備工事 (Fig.15 構内図・Fig.3)

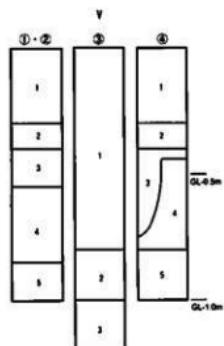
調査地点 (郡元N-6)

調査期間 2004年2月10-12日

樹木移植のための掘削工事に伴う調査である。5箇所を調査したが、1箇所は既掘部であった。100~120cm範囲の深さであり、黒色土層が弥生~古墳時代の層に対応すると考えられる。④地点では、3層から掘り込まれた遺構らしき落ち込みが認められた。



Fig.15 2003-U 土層柱状図



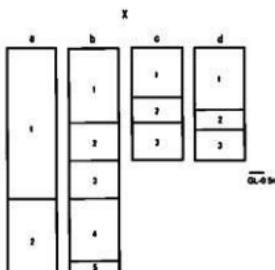
【①-②地山】

- 1層: 岩上・風化層
- 2層: 黄褐色(0V1R5/1シルト, 小-ハシス)を含む
- 3層: 黄褐色(0V1R7/8砂質シルト, 小-ハシス)を含む
- 4層: 黑色(10V2/1砂質シルト, 中-ハシス)を含む, 程く崎立る
- 5層: 砂質

【③地山】

- 3層: 泥ら込み: 道構?

Fig. 16 2003-Y 土層柱状図



【a地山】

- 1層: 岩上・風化層

- 2層: にら・黄褐色(10V1R5/3砂質シルト)
- 3層: 黄褐色(10V1R7/2砂質シルト)
- 4層: にら・黄褐色(10V1R7/2砂, 破り壊し)
- 5層: 黄褐色(10V1R5/6砂質シルト, 破り壊し)

【b地山】

- 1層: 岩上・風化層
- 2層: にら・灰黃褐色(10V1R1/3砂質シルト)

- 3層: 黄褐色(10V1R5/6砂質シルト)

【c地山】

- 1層: 岩上・風化層

- 2層: にら・灰黃褐色(10V1R1/3砂質シルト)

- 3層: 黄褐色(10V1R5/1/2砂質シルト, ベンガシ含む)

Fig. 17 2003-X 土層柱状図

2003-X 鹿児島大学工学部テニスコートネットボスト等工事 (Fig. 16 構内図・Fig. 3)

調査地点 (郡元 H-12・13)

調査期間 2004年3月4-5日

VBL棟に隣接した場所にテニスコートのネットボスト設営のための基礎工事が行われた。VBL棟に対応し、ほとんどが川砂で構成されている。

2003-Y 鹿児島大学理学部中庭外灯修繕 (Fig. 17 構内図・Fig. 3)

調査地点 (郡元 I-8)

調査期間 2004年3月31日

外灯の改修工事に伴う掘削である。125cmの深さで掘削され、2層以下は川砂で構成されている。理学部2号館の河の土層に対応するものと考えられる。

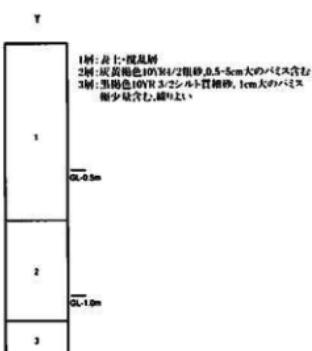


Fig. 18 2003-Y 土層柱状図

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

(設置)

第1条 本学に、鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議)

第2条 委員会は、本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

（1）基本計画の策定に関すること。

（2）調査結果に基づく対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

（1）学長

（2）各学部長、附属図書館長、医学部附属病院長および歯学部附属病院長

（3）事務局長

（4）学生部長

（委員長）

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の3分の2以上をもって決する。

（委員以外の者の出席）

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第7条 委員会は、本学の埋蔵文化財の調査を行なうため、埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置く。

第8条 調査委員会は次の事項を審議する。

（1）調査実施計画に関すること。

（2）第13条に規定する調査室の室長等の選任に関する事。

（3）第13条に規定する調査室の予算に関する事。

（4）その他埋蔵文化財及び第13条に規定する調査室の業務に関する事。

第9条 調査委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が任命する。

（1）各学部の教授、助教授、講師の中から

選任された者各1名

（2）第15条2項に規定する調査室長

2 前項第1号の委員の任期は2年とし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第10条 調査委員会に委員長を置き、前項第1項第1号の委員の中から互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

第11条 調査委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。

第12条 調査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

(調査室)

第13条 調査委員会に、本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

第14条 調査室は、次の業務を行なう。

（1）調査実施計画の立案

（2）発掘調査、分布調査及び確認調査

（3）調査報告書の作成

（4）その他必要な事項

第15条 調査室に、室長、主任及びその他必要な職員を置く。

2 室長は、本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し、学長が任命する。

3 室長は、調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4 室長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し、学長が任命する。

6 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7 職員は、調査室の業務に従事する。

(その他)

第16条 埋蔵文化財に関する事務は、事務局施設部において行なう。

付 則

1 この規則は、昭和 60 年 4 月 18 日から施行する。

2 この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は、第 9 条第 2 項及び第 15 条第 4 項の規定に かかわらず、昭和 62 年 3 月 31 日までとする。

3 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則（昭和 51 年 1 月 22 日制定）は、廃止する。

付則

この規則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（平成 15 年 4 月 1 日現在）

委員長 水田行博（鹿児島大学学長）

委 員 辰村吉康（法文学部長）

中山右尚（教育学部長）

面高俊宏（理学部長）

吉田浩己（医学部長）

愛甲 孝（医学部付属病院長）

西川殷雄（歯学部長）

三村 保（歯学部附属病院長）

長澤庸二（工学部長）

下川悦郎（農学部長）

上田耕平（水産学部長）

荒井 啓（連合農学研究科長）

谷口政敏（事務局長）

岩本義男（学生部長）

石田尚治（附属図書館長）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成 15 年 4 月 1 日現在）

委員長 佐々木修（農学部）

委 員 本田道輝（法文学部）

日隈正守（教育学部）

井村隆介（理学部）

岩橋法雄（医学部）

山崎要一（歯学部）

八野知博（工学部）

佐野雅昭（水産学部）

山崎要一（大学院医歯学総合研究科）

新田栄治（埋蔵文化財調査室長）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長（併） 法文学部教授 新田栄治

主任（併） 法文学部助教授 中村直子

（併） 法文学部助手 新里貴之

技術補佐員 青山奈緒

有村航平

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人鹿児島大学常設委員会規則（平成16年4月1日制定）第3条第3項に基づき、国立大学法人鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

（1）鹿児島大学埋蔵文化財調査室長（以下「調査室長」という。）

（2）各学部の教授、助教授又は講師のうちから選出された者 各1名

2 前項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

（1）調査実施計画に関する事項。

（2）埋蔵文化財調査室の予算に関する事項。

（3）その他埋蔵文化財の業務に関する事項。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、第2条第1項第1号をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員長は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査室規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学学則（平成16年4月1日制定）第7条第2項の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 調査室は、鹿児島大学（以下「本学」という。）の埋蔵文化財の調査に関する業務を行い、本学内に存在する埋蔵文化財の保護対策を講ずることを目的とする。

(業務)

第3条 調査室は、次の業務を行う。

（1）調査実施計画の立案

（2）発掘調査、分布調査および確認調査

（3）調査報告書の作成

（4）その他必要な事項

(職員)

第4条 調査室に、次の職員を置く。

（1）調査室長（以下、「室長」という。）

（2）主任

（3）その他必要な職員

第5条 室長は、本学の考古学に関する教員の中から国立大学法人鹿児島大学学内共同研究施設等人事委員会（以下「委員会」という。）が推薦し、学長が選考する。

2 室長は、調査室の業務を掌理する。

3 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 室長に欠員を生じた場合の補欠の室長の任期は、前任者の残任期間とする。

(主任等)

第6条 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を委員会が推薦し、学長が選考する。

2 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

3 職員は、調査室の業務に従事する。

(事務)

第7条 調査室に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、調査室

に関し必要な事項は、別に定める。

附則

1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則施行後、最初の室長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成 16 年 4 月 1 日現在）

委員長 新田栄治（埋蔵文化財調査室 室長）

委員 本田道輝（法文学部）

日隈正守（教育学部）

井村隆介（理学部）

岩橋法雄（医学部）

山崎要一（歯学部）

八野知博（工学部）

佐々木修（農学部）

佐野雅昭（水産学部）

山崎要一（大学院医歯学総合研究科）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長（併） 法文学部教授 新田栄治

主任 助教授 中村直子

助手 新里貴之

技術補佐員 青山奈緒

有村航平

付編 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館C・D・E地点）における発掘調査報告 - 遺構と遺構出土遺物の報告 -

1 調査の概要

1.1 調査に至る経過

鹿児島大学では、平成3年に中央図書館の建て替えが計画され、旧中央図書館建物の周辺が掘削工事範囲となつたため、埋蔵文化財発掘調査を実施することになった。調査は、平成4年・平成5年・平成7年に3回に分けて実施した（Fig.19）。1次調査ではA地点を、2次調査ではB・C地点を、3次調査ではD・E地点の発掘調査を行つた。

A・B地点の発掘調査については、すでに『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報18』で報告している。本稿では、2次調査C地点と、3次調査のD・E地点の遺構と遺構出土遺物についての報告を行い、各地点の包含層出土遺物については次号の年報に掲載する予定である。

1.2 調査の期間と体制

調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が行った。2次・3次調査それぞれの詳細な調査期間と体制については、以下のTab.2のとおりである。なお、3次調査では遺物出土状況実測において、法文学部本田道輝氏にご協力いただいた。

Tab.2 調査期間と体制

2次調査	3次調査
所在地 鹿児島市郡元一丁目21-25	
期間 平成5年5月13日～9月10日	平成7年5月30日～8月30日
面積 C地点180m ²	D地点220m ² E地点310m ²
主体者 埋蔵文化財調査室長 上村俊雄	埋蔵文化財調査室長 上村俊雄
担当 中村直子 畠山いづみ 大西智和 前幸男	埋蔵文化財調査室員 中村直子 大西智和 畠山いづみ 吉澤生
作業員 鶴川章子、池口洋人、上地浩、小八重峰子、小原愛、今村知子、鶴谷ミエ子、甲斐光代、岡分リカ、駒口ミエ子、坂本裕子、中村由美子、名越ヒデ子、西庄純、西谷朝、西川泉、福永花江、福永シノブ、吉澤生、星野忠英、松島恵子、盛岡アイ子、柳田キミ子、柳田二三子、横手浩二郎	安倍信伊都子、鶴川章子、池口洋人、石谷トキエ、鶴谷ミエ子、岩戸エミ子、岩戸トシ子、岩戸ミツ子、上原文代、諸國アキ子、諸國ナリ子、白田和吉、上林久美子、坂口ミエ子、寺光ミツ子、新井ミツ子、末吉ヤチ子、末吉ミヤ、黒田ミツ子、田村和祐、谷口ノリ、床次孝子、水里幸子、名越ヒデ子、中村いづ子、柳原千子、西正治、西村ヒコ子、野下ヨシエ、藤田紀子、福永シノブ、福永花江、松下修美、松下ミチ、松村恵子、盛岡アイ子、天住恵子、柳田二三子、柳田照子、黒山アヤ子、黒山由美子、吉永ゆき子、鷹カズ子、越川キエ、越川チヨ子、鷹ツルエ

1.3 調査の経過

1) 2次調査C地点

C地点の調査は、B地点で設定した5mのグリッド枠を基準として西から4-6、南北方向が南からh-jと設定した。表土を重機で掘削した後、II層以下は手堀による掘削を行つた。各層の上面で遺構確認を行つたが、VI層上面とVI層上面でそれぞれ遺構が検出された。特に、VI層上面からは古墳時代の住居跡を2基確認した。それ以下は無遺物層であるV層上面までを掘削し、層位断面図を作成して調査を終了した。

2) 3次調査D・E地点

D地点とE地点は旧図書館校舎をはさんで位置する。調査は、並行して作業を行つたが、層位が異なつてるので混同を避けるため、それぞれの地点で遺構や層の名称を付した。表土は重機によって掘削を行い、それ以下は手作業による掘削を行つた。

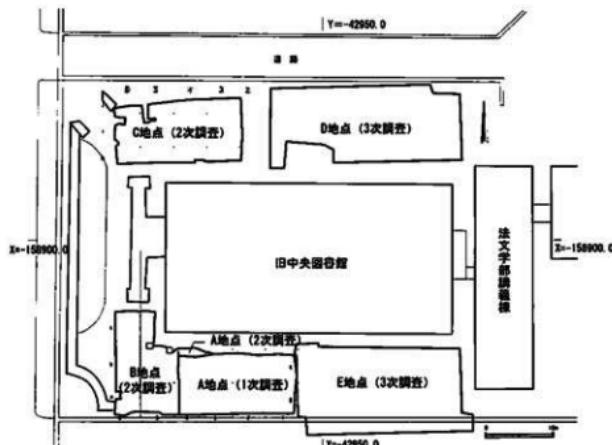


Fig. 19 各地点の位置 S=1/750

工事の都合上、両地点とも調査区の西側から先に掘削を行った。C地点と同じく、各層の上面で遺構の確認を行った。

D地点では、II～VI層までを確認したが、II2層・III層・VI層上面でそれぞれ遺構を確認した。VI層上面では、溝状遺構SD3とSD4を検出した。これらは、平面的に重なり合っている。SD4はその埋土中から多量の土器片が出土した。SD3からも小片の土器が多く出土したが、遺物は同時期のもので、遺構の重なり具合から、SD3は、SD4が埋まつた後のくぼ地であると判断した。したがって、SD3はSD4埋土の最上部にある可能性が高い。本稿では、調査時に取り上げた状況を踏襲し、SD3・SD4と別に分けて報告している。

SD4埋土中からは多量の土器が出土した。小さな胴部片は50cm間隔で設定したグリッドごとに取り上げ、部位や器種が判別できるものはポイント測量をして取り上げた。グリッドは、D地点の基準点4 ($X=158888.850, Y=-42926.929$) を基準とした調査区北東隅を基点として、南へa～p、西へ1～27と設置した。埋土上部の土器は小片であったが、それを取り上げると、ある程度まとまった破片が重なり合っていたため、10分の1の縮尺で平面図を作成し、取り上げ作業を行った。

E地点では、1～5層までを確認した。遺構は、2b・3・4・5層の上面で確認した。それぞれ、近代～弥生時代までの遺物が出土した。

両地点とも、無遺物層である砂層の上面までの掘削を行い、層位断面図を作成して調査を終了した。

2 C 地点

2.1 層位 (Fig. 20, PL. 1)

C地点では、基本層位としてI～VI層までを確認した。このうち、I～VI層までが遺物包含層で、V層上面、VI層上面で遺構を検出した。各層は、以下のとおりである。

I層 表土。

II層 灰色 (5Y5/1) 砂混じりシルト質砂。1cm大の軽石を含む。

IIIa層 明褐色 (10YR6/8) シルトと黄灰色 (2.5Y6/1) の混土。

IIIb層 上部が灰白色 (5Y7/1) の砂とIIIa層との混土。下部は、灰オリーブ色 (5Y6/2)。上下層の境界ははっきりしない。

IVa層 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト。鉄分の浸透あり。西壁付近褐灰色 (10YR 4/1) 粘質のシルトに鉄分浸

付図 都元团地K・L-5・6区（中央図書館C・D・E地点）における発掘調査報告

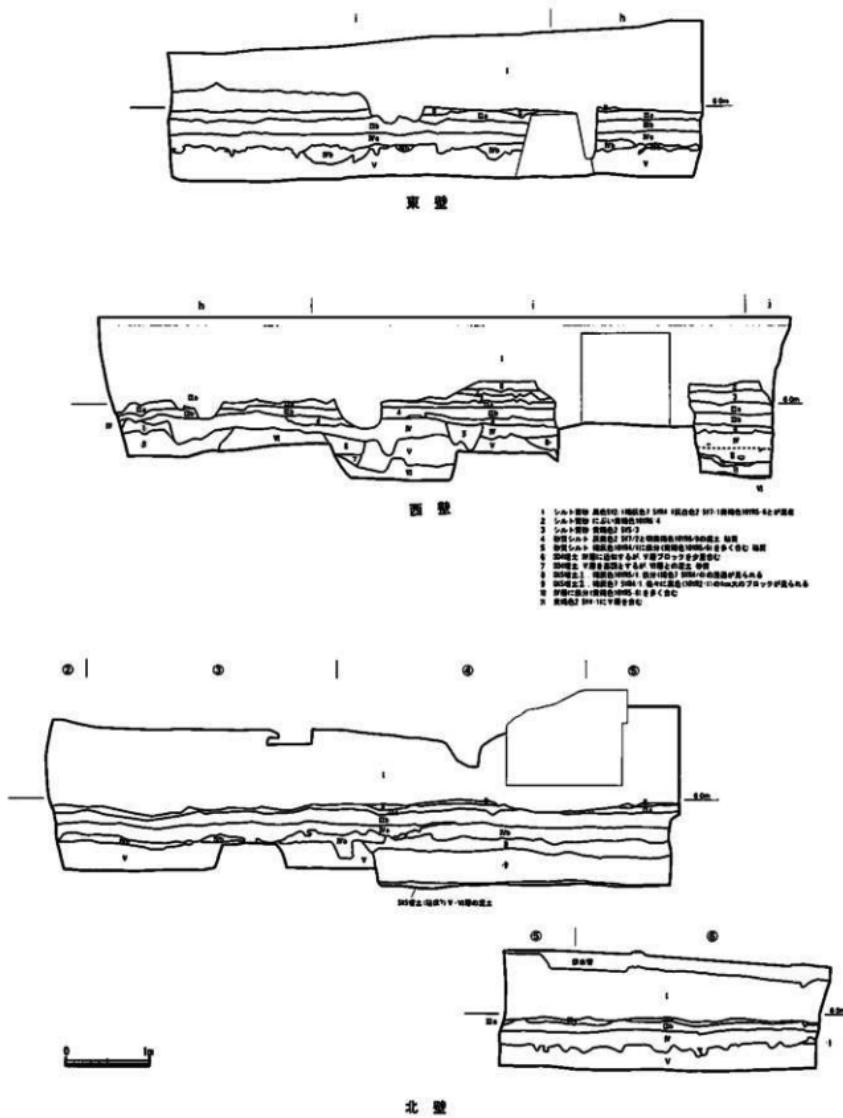


Fig.20 C地点位置断面図 S=1/60

透。

IVb層 暗灰色(10YR4/1)砂質シルト。

V層 オリーブ黒(5Y3/1)砂混じりシルト質砂。黒色(7.5YR1.7/1)シルト。

VI層 上部 暗灰黄色(2.5Y4/1)砂、下部 黄褐色(2.5Y5/4)砂。



PL.1 C地点南壁層位

2.2 V層上面遺構

V層上面では、調査区南東部でSK3・4を検出した (Fig.21・PL.2・3)。これらは細長い土坑で、並行している。南側は、擾乱によって削平されている。どちらも浅く、上面を削平されている。

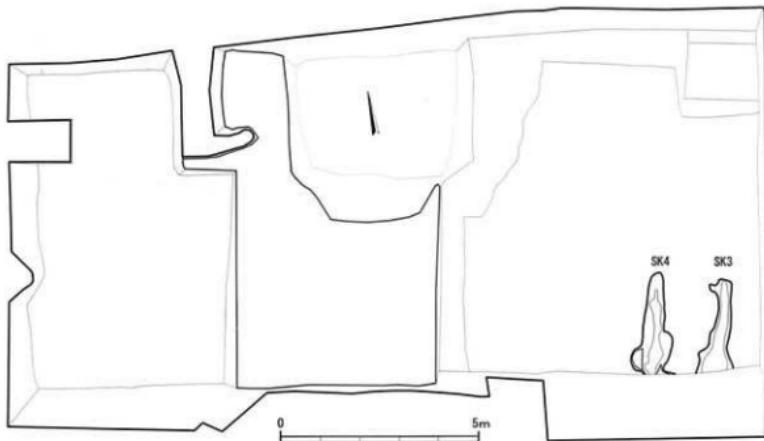


Fig.21 C地点 V層上面遺構検出状況 S=1/125



PL.2 C地点V層上面検出状況 西側 (南東から)



PL.3 C地点V層上面検出状況 東側 (南から)

1) SK3 (Fig. 22 · PL. 4)

現状での長さは2.62m、幅0.5mで、南側の突出している部分は0.8mほどである。南側は調査区外に伸び、溝状を呈するが、北側で収束している。深さは、最深部で5cm前後と浅いため、上部がかなり掘削されたものと推定できる。埋土は上層のIV層土である。SK3に隣接し、並行している。

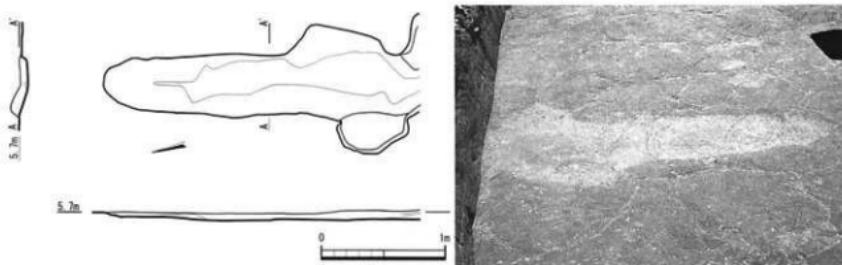
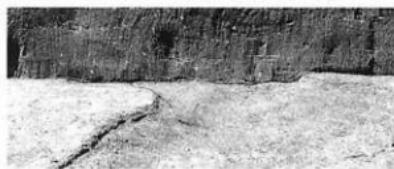


Fig.22 C地点 SK3 S=1/40



PL.4 C地点 SK3

上：検出状況、下：埋土断面

2) SK4 (Fig. 23 · PL. 5 · 6)

現状での長さは2.3m、幅0.4mだが南側が太く0.9mほどである。南側は調査区外に伸び、溝状を呈するが、北側で収束している。深さは、5cm前後で浅い。埋土は上層のIV層土である。SK3に隣接し、並行している。

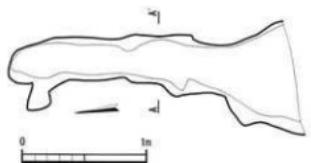
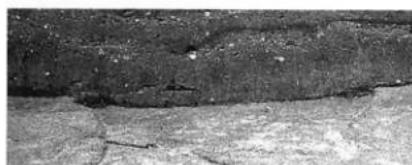


Fig.23 C地点 SK4 S=1/40



PL.5 C地点 SK4 埋土断面



PL.6 C地点 SK3 (上) と SK4 (下) 実掘

2.3 VI層上面遺構

VI層上面では、SK5～10とSD4を検出した(Fig.24)。C地点は、中央部が搅乱のため遺物包含層が残存している部分は東西に分かれていたが、両地点とも遺構が確認できた。

このうち、SK5・6は住居跡である。これら住居跡と、SD4の遺構の向きはおおよそ同じ方向で配置されている。SK7・8・10はSK6・SD4に切られている。C地点東側の層の残存状況が良好なのに間わらず、SK5以外に遺構は確認できなかった。

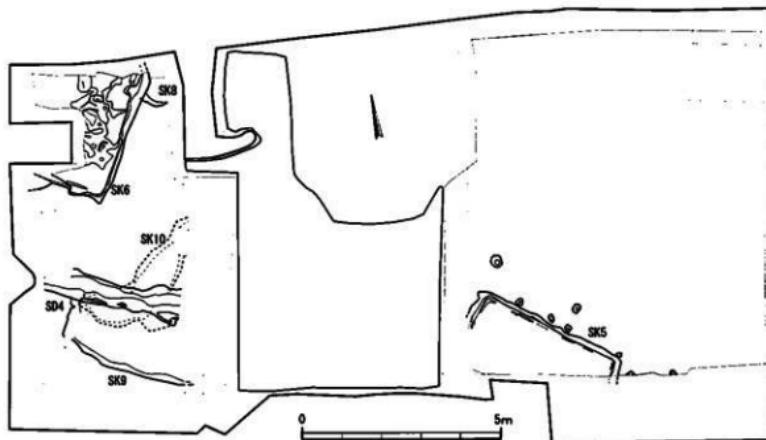


Fig. 24 C地点VI層上面遺構検出状況 S=1/125

1) SK5 (Fig. 25, PL. 7・8)

C地点の東側、南壁に接して位置する。遺構の南半分は調査区外に広がり、未検出である。平面形は方形を呈する竪穴住居跡である。現状で、一辺が4m、検出面から床面までの深さは50cmである。床面中央部と考えられる位置に、炭が広がっており、炉跡であると推定される。

V層とVI層土の混土である埋土の貼床を持ち、その深さは10cmほどである。床面の壁際に幅5cm前後の浅い溝が廻る。長さは40cm前後である。床面には柱穴がなく、竪穴外にピットが7基確認できた。ピットは直径20cm前後、深さは5～20cmと浅いが、これらが柱穴であろう。

床面以上の埋土は、褐灰色(10YR4/1)砂質シルトを基調とする。鉄分を少量含む。V層土に類似し、VI層土とVII層土の2～3cm大のブロックを含む。

遺構出土遺物 (Fig. 31, PL. 15, Tab. 3)

SK5からは、弥生土器、古墳時代の土器、軽石製品が出土している。軽石製品以外は、小片である。ほとんどが床面より上位で出土している。このうち、実測できるものは11点であった。1は、弥生時代中期の壺胴部片である。2～5は古墳時代の壺の口縁部だが、小片のため詳細な時期が判別しがたいが、4は古墳時代後半期だと考えられる。18は薄手で比較的丁寧なつくりで、色調が白っぽいという特徴があり、壺の口縁部と推定できる。

10・11は軽石製品である。10は外形はあまり丁寧に調整していないが、くぼみ部分とその面は、意図的に磨ったような面が認められる。11の外面は滑らかである。

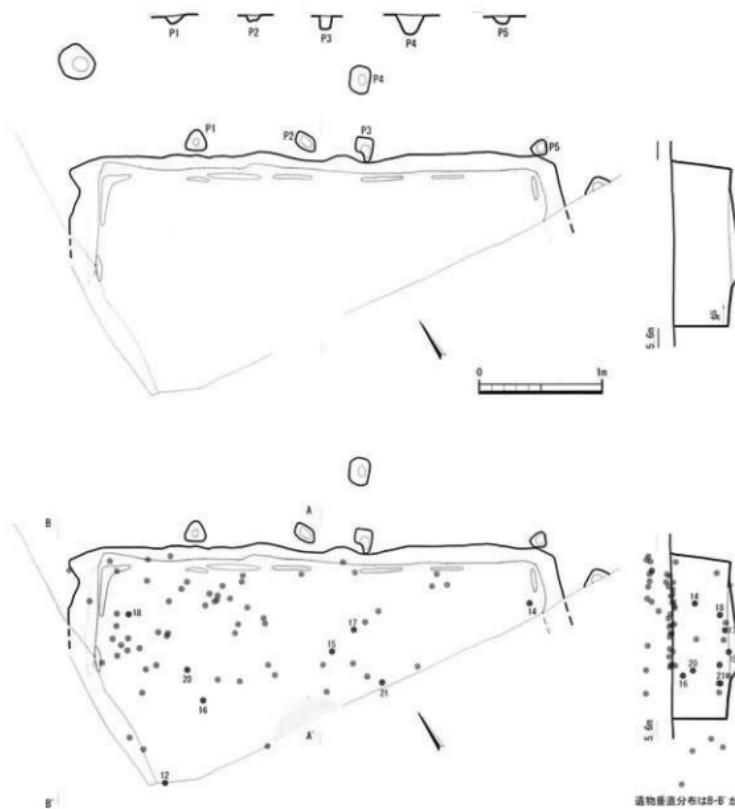


Fig.25 C地点 SK5 S=1/40



PL.7 C地点 SK5

左：床面検出状況（南から）、右：埋土断面（東から）





PL.8 C地点 SK5 実掘（南から）

2) SK6 (Fig. 26, PL. 9)

SK6は、C地点の北西すみで検出した。西側半分は調査区外に広がり、未検出である。現状から、平面形が一辺3.5m以上の方形を呈する竪穴住居跡であると考えられる。床面の遺構北側に炭の広がりが認められる。検出面から床面までの深さは約20cmで、深さ10～20cmの貼床を持つ。床面壁際に、長さ60cm、幅5cmほどの浅い溝が認められる。埋土は、以下のとおり上下2層に分かれる。

遺構出土遺物 (Fig. 31, PL. 15, Tab. 3)

埋土中より古墳時代の土器、黒曜石の石核が出土しているが、いずれも埋土上部から出土している。土器は、12以外は古墳時代後半期に位置付けられるものである。SK5と同じく小片が多いが、15や20などある程度まとまった形のものも出土している。15は壺の下半部で低い脚台を持つが、一部が脚台接合部で欠損している。20は鉢で、丁寧なつくりのものである。広口で、少し上げ底気味の平底を持ち、外面は赤色顔料が塗布され、主に横方向の細かいミガキが施されている。

21の石核は、縄文時代の遺物であろうと考えられる。本調査区付近では、稀に縄文時代の遺物が出土することから、住居埋土中に混入したものと推察する。



PL.9 C地点 SK6(1)

左：床面検出状況、右上：検出状況（南東から）、右下：床面検出状況（東から）

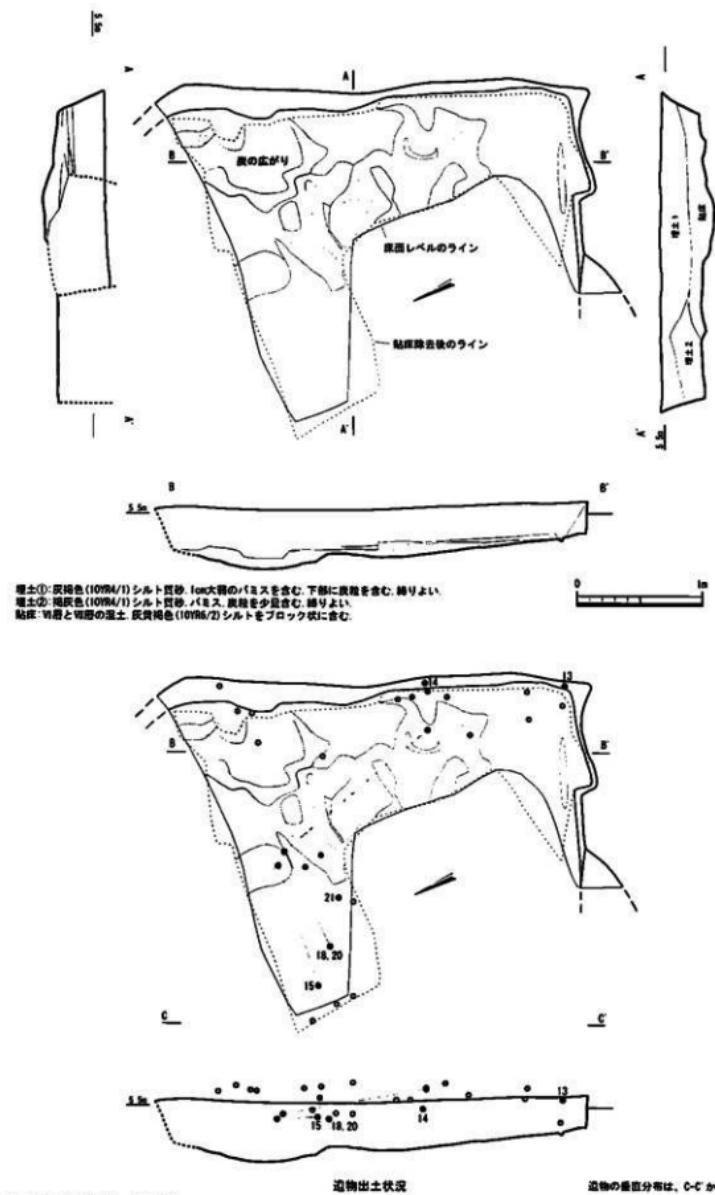


Fig.26 C地点 SK6 S-1/40



PL.10 C地点SK6

左：埋土断面（北東から）。右：発掘状況（南東から）

3) SK7 (Fig. 27, PL.11)

調査区西側に位置する。SD4に切られている。北側は幅約1mだが、南側は幅が広がり、立ち上がりも緩やかである。深さは最深部で35cmである。

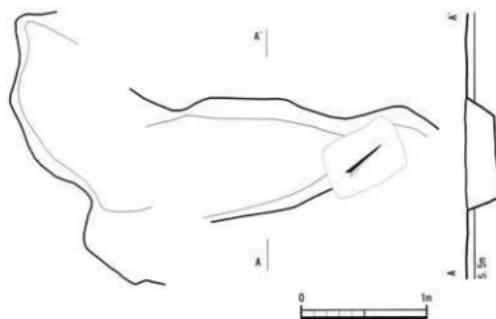


Fig.27 C地点SK7 S=1/40



PL.11 C地点SK7

左：露出状況（北から）、右：発掘状況（北から）

4) SK8 (Fig. 28, PL. 12)

調査区西側、北壁に接して位置している。造構北側は調査区外に広がり、西側はSK6に切られているので、全形は判然としない。深さは約20cmで、埋土は黒色シルト (=V層土) である。

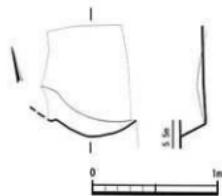


Fig. 28 C地点 SK8 S=1/40



PL. 12 C地点 SK8

上：検出状況（西から）。下：実掘状況（北から）

5) SK9 (Fig. 29, PL. 13)

調査区西側に位置する。造構北側はSD4に切られ、東側は搅乱によって削平されている。現状では、長さ3.6m、幅1.6mを測る。平面形は長方形を呈すると推定される。深さは約15cmで黒色シルト (=V層土) が埋土となっている。

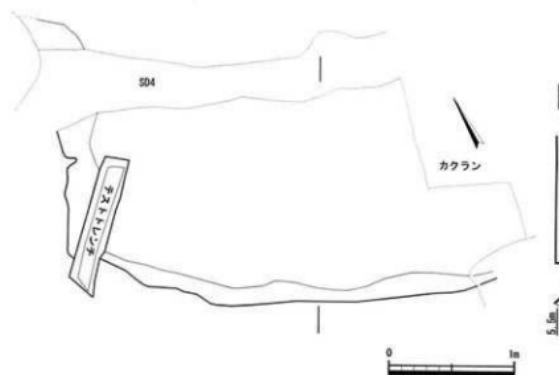


Fig. 29 C地点 SK9 S=1/40



PL.13 C地点 SK 9

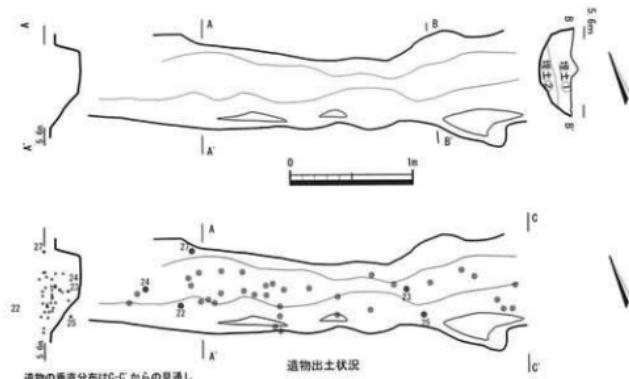
左：検出状況（北から）。右：発掘状況（北から）

6) SD4 (Fig. 30, PL.14)

調査区西側に位置する。幅60～90cmを測る。断面は南側が緩やかに立ち上がる、台形もしくはレンズ状を呈し、深さは約30cmである。埋土は2つに分層できる。埋土①は、IV層土に類似するが、V層土のブロックを含む。埋土②は、V層土とVI層土との混土。

遺構出土遺物 (Fig. 31, PL. 15, Tab. 3)

出土遺物は、埋土中より古墳時代の土器が出土している。いずれも小片だが、24・28から古墳時代後半期のものであるとわかる。23～26は壺の口縁部付近で、27は壺の口縁部である。



遺物の垂直分布はC-C'からの見通し

Fig. 30 C地点 SD4 S=1/40



PL.14 C地点 SD 4

左：検出状況（北から）。中：埋土断面（北から）。右：発掘状況（北から）

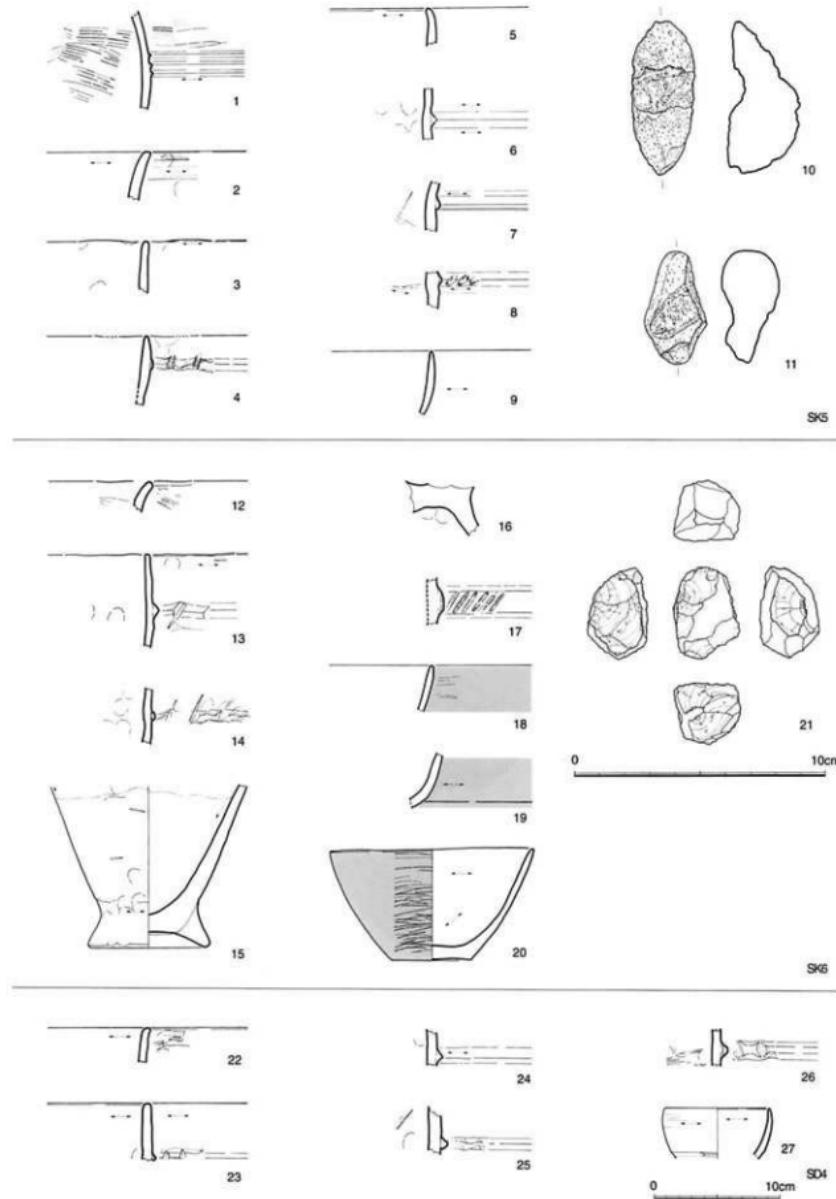
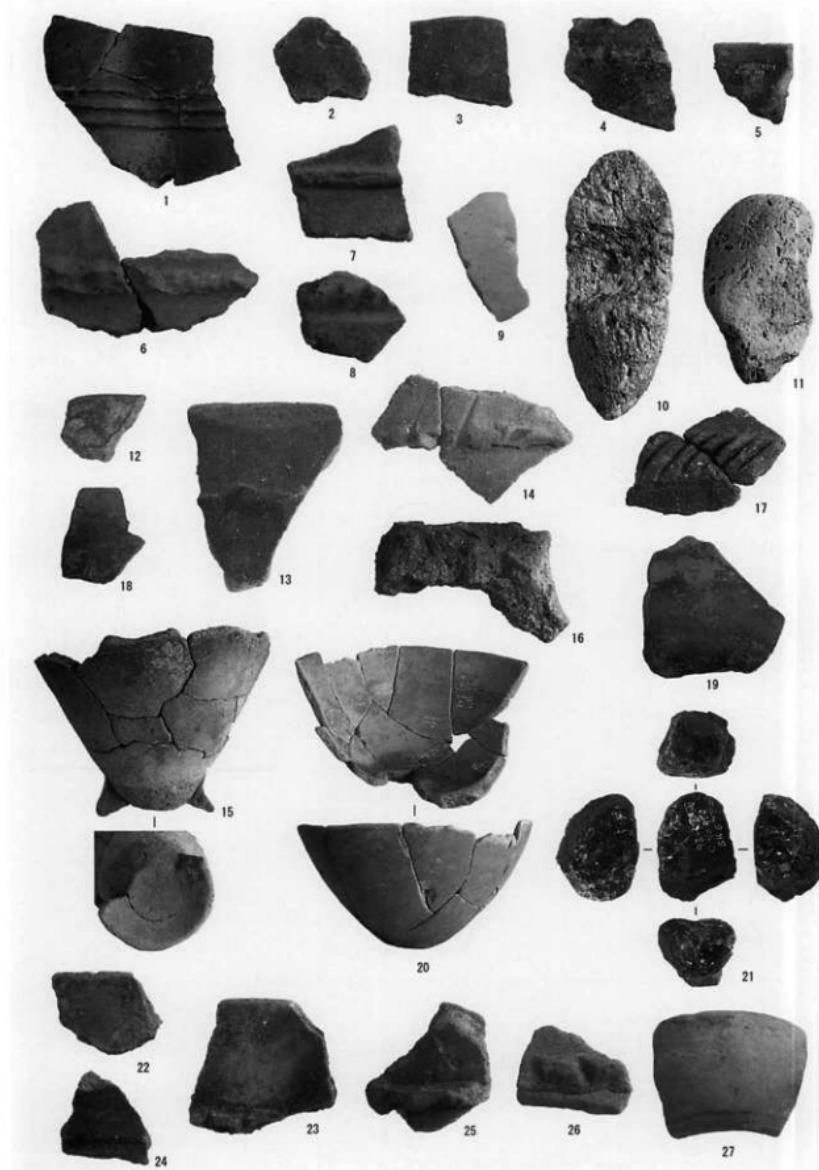


Fig. 31 C地点 SK5・SK6・SD4出土遺物 S=1/4, 21のみ1/2



PL. 15 C地点 SK5・SK6・SD4出土遺物

Tab. 3 C地点 SK5・SK6・SD4 出土遺物観察表

No.	層別	基層	部位	色調	出土		特徴	備考
					品目	形状の 歩合		
1 SK5 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰青色, 10mm/3, 内面:灰白10mm/1,	細粒:角閃石, 石英, 白色斑	2 外面:ハケ(-)→ナデ, ヨコナデ, 内面:端材突出3条,			
			端材:黒鉛石, 5mm/1		ハバ(-)→一ナデ			
2 SK5 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/4, 内面:灰白10mm/2,	細粒:石英, 彩色斑, 細粒:石英,	4 外面:ナデ, ヨコナデ, 内面:ナデ(-)	外表面スズ材質,		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:石英				
3 SK5 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰青色, 10mm/2, 内面:灰青色, 10mm/2,	細粒:石英, 彩色斑, 細粒:石英, 白色斑,	3 外面:ナデ(-), 内面:ナデ	外表面スズ材質,		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:角閃石				
4 SK5 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰青色, 10mm/4, 内面:灰白10mm/1,	細粒:石英, 彩色斑, 細粒:石英, 石英,	4 外面:ナデ, 内面:沿縫のため不明	端材突出1条, 外表面スズ材質,		
			端材:灰青色, 10mm/2	白色斑:石英				
5 SK5 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰青色, 10mm/2, 端材:灰青色, 10mm/2,	細粒:角閃石, 細粒:角閃石,	3 外面:ナデ, 内面:ヨコナデ	外表面スズ材質,		
			端材:黒鉛石, 5mm/1	石英, 白色斑				
6 SK5 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/6, 内面:白, 5mm/8, 内面:	細粒:角閃石, 細粒:石英, 石英	3 外面:ヨコナデ, 内面:ナデ	三角突起1条,		
			端材:灰青色, 10mm/1					
7 SK5 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/1, 内面:白, 5mm/2, 端材:灰青色, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑,	4 外面:ナデ, ヨコナデ, 内面:ハケ(△)→一ナデ	端材突出1条,		
			端材:灰青色, 10mm/2	角閃石, 石英				
8 SK5 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/3, 端材:灰青色, 10mm/2, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰青色, 10mm/2	細粒:角閃石, 細粒:石英, 細粒:石英,	4 外面:ナデ, ヨコナデ, 内面:ナデ	端材突出1条, 刻目中に斜目		
			端材:灰青色, 10mm/2	角閃石, 石英				
9 SK5 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰青色, 10mm/4, 端材:灰青色, 10mm/4, 内面:灰白10mm/1, 端材:灰青色, 10mm/1	細粒:石英, 角閃石	1 外面:ナデ(-), 内面:ナデ			
			端材:灰青色, 10mm/2					
10 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/3, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰青色, 10mm/2, 端材:灰青色, 10mm/2	細粒:白色斑, 白色斑, 細粒:白色斑,	3 外面:ナデ(-)→ユビオサエ, 内面:ナデ	端材突出1条,		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:角閃石, 石英, 白色斑				
11 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/4, 端材:灰白, 10mm/4, 端材:灰青色, 10mm/4	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 細粒:白色斑,	3 外面:ナデ(-), 内面:ナデ	端材突出1条, 外表面スズ材質,		
			端材:灰青色, 10mm/4	半色斑:角閃石, 石英, 白色斑				
12 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/3, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰青色, 10mm/2, 端材:灰青色, 10mm/2	細粒:白色斑, 白色斑, 細粒:白色斑,	3 外面:ナデ(-)→ユビオサエ, 内面:ナデ	端材突出1条,		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:角閃石, 石英, 白色斑				
13 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/4, 端材:灰白, 10mm/4, 端材:灰青色, 10mm/4	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 細粒:白色斑,	3 外面:ハケ(△), 内面:ナデ(-)(△)			
			端材:灰青色, 10mm/4	半色斑:角閃石, 石英, 透明化				
14 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/4, 端材:灰白, 10mm/2, 端材:灰青色, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑,	3 外面:ナデ, 内面:ナデ	端材突出1条,		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:角閃石, 石英				
15 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰青色, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 細粒:白色斑,	4 外面:ハケ(△)→ナデ, 内面:ナデ	内表面および外表面にスズ材質に付着, 灰青色, 5cm		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:角閃石, 石英				
16 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰青色, 10mm/4, 内面:灰青色, 10mm/4, 端材:灰白, 5mm/4, 端材:灰白, 10mm/4, 端材:灰青色, 10mm/4	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 細粒:白色斑,	3 外面:ナデ, 内面:ナデ			
			端材:灰青色, 10mm/4	半色斑:角閃石, 石英				
17 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/4, 端材:灰白, 10mm/4, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑,	4 外面:ヨコナデ, 内面:剥落のため不明	端材突出, ハバ工具による刻め平行文を施す		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:角閃石, 石英				
18 SK6 古墳 高坏	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/4, 端材:灰白, 10mm/4, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 細粒:白色斑,	1 外面:ミガキ(-), 内面:ナデ	外表面, 彩色斑跡微弱		
			端材:灰青色, 10mm/4	半色斑:角閃石, 石英				
19 SK6 古墳 高坏	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/4, 端材:灰白, 10mm/4, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 細粒:白色斑,	1 外面:ミガキ(剥落のため不明), 内面:ナデ(剥落のため不明)	外表面, 彩色斑跡微弱		
			端材:灰青色, 10mm/4	半色斑:角閃石, 石英				
20 SK6 古墳 脊	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/4, 端材:灰白, 10mm/4, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 半色斑:角閃石, 石英	1 外面:ミガキ(-), 内面:ナデ	底面5.4cm, 幅55.4cm		
			端材:灰青色, 10mm/4	半色斑:角閃石, 石英				
22 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/4, 端材:灰白, 10mm/4, 端材:灰青色, 10mm/4	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 半色斑:角閃石, 石英	4 外面:ハケ(△)→ナデ, 内面:ナデ	外表面スズ材質		
			端材:灰青色, 10mm/4	半色斑:角閃石, 石英				
23 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 半色斑:角閃石, 石英	4 外面:ナデ(-), 内面:ハケ(△)→ナデ	端材突出1条, 外表面スズ材質		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:角閃石, 石英				
24 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 半色斑:角閃石, 石英	4 外面:ナデ, ヨコナデ, 内面:ナデ	三角突起1条, 外表面スズ材質		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:角閃石, 石英				
25 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 半色斑:角閃石, 石英	4 外面:ナデ, 内面:ハケ(△)→ナデ	端材突出1条, 外表面スズ材質		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:角閃石, 石英				
26 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2	細粒:白色斑, 細粒:白色斑, 半色斑:角閃石, 石英	4 外面:ナデ, 内面:細かくハケ(-)→ナデ	端材突出1条		
			端材:灰青色, 10mm/2	半色斑:角閃石, 石英				
27 SK6 古墳 墓室	外側	石塊	外側:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2, 内面:灰白, 5mm/2, 端材:灰白, 10mm/2	細粒:白色斑, 透明化	1 外面:ミガキナナデ, 内面:ナデ(-), (△)	口徑8.3cm		

Tab. 4 C地点 SK5・SK6・SD4 出土遺物観察表

No.	層別	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重積(g)	備考
10 SK5	怪石	怪石	12.0	4.9	5.5	61.3	中央部にくぼみがある, 使用痕か。
11 SK5	怪石	怪石	8.8	4.9	4.5	28.3	表面に擦ったような加工面をもつ。
21 SK6	怪石	墨端石	2.5	3.5	2.3	23.2	石板, 気泡が多い, 三船産か?

3 D 地点

3.1 層位 (Fig. 32)

D地点の南側と西側は近年のカクランを受けており、プライマリーな遺物包含層が確認できたのは北側約2/3の部分である。基本土層として、I～VI層まで確認した。遺物はI層からV層まで出土している。

I層 盛土。シラスと砂利。

II層 暗灰黄色 (2.5YR5/2) 砂混じりシルト。0.5cm大のバミスを含む。

III層 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂混じりシルト。0.5cm大のバミスを含む。西側：灰褐色 (7.5YR4/2) シルト。東壁：暗灰黄色 (2.5YR5/2) 砂混じりシルト。0.5cm大のバミスを含む。

IV層 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂混じりシルト。0.5cm大のバミスを含む。西側：にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルト。

V層 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト。0.5cm大のバミスを含む。西側：褐灰色 (10YR5/1) シルト。

VI層 黒褐色 (10YR2/3) シルト。粘性ややあり。2cm大以下のバミスを含む。東壁：褐灰色 (7.5YR4/1) シルト。

VII層 黒 (2.5Y2/1) シルト。粘性ややあり。2cm大以下のバミスを含む。東壁：黒 (7.5Y2/1) シルト。

VIII層 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂層。5cm大以下のバミスを含む。東壁：暗褐色 (10YR3/4) 粗砂層。

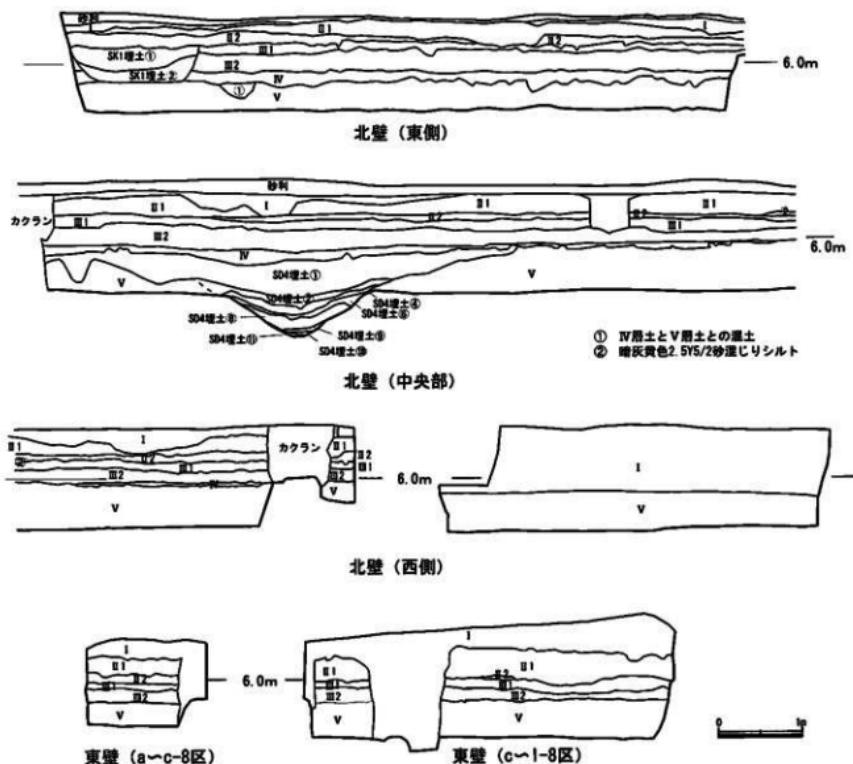


Fig. 32 D地点層位断面図 S=1/60

3.2 II 2層上面遺構

II 2層上面では、SK3とSD1・2を検出した(Fig.33)。SD1とSD2は途切れていはいるが、それぞれの延長上に位置し、幅や形状が似ていることから、同一遺構である可能性もある。

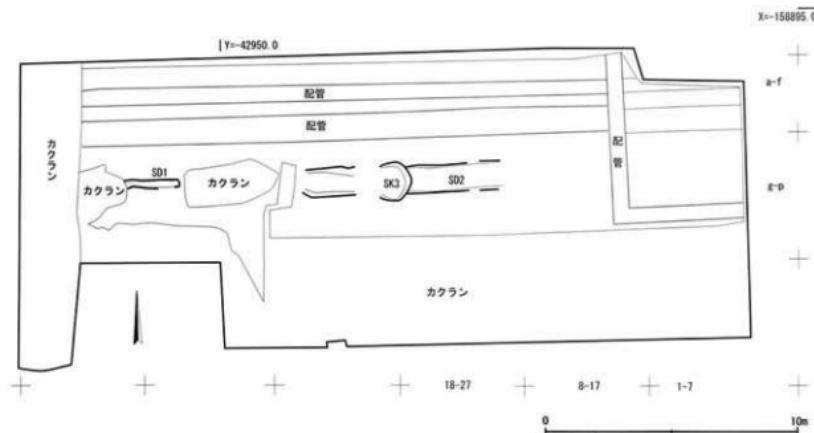


Fig. 33 D地点 II 2層上面遺構検出状況 S=1/200



PL. 16 作業の様子（西から）



PL. 17 D地点 II 2層検出状況（南西から）

1) SK3 (Fig. 34, PL. 18)

調査区のはば中央に位置する。西側が擾乱によって削平されているが、平面形は円形を呈する。直径が約1.6m、深さは40cmである。埋土は、II 1層土である。

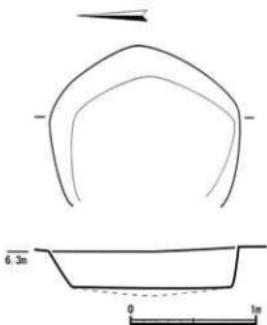
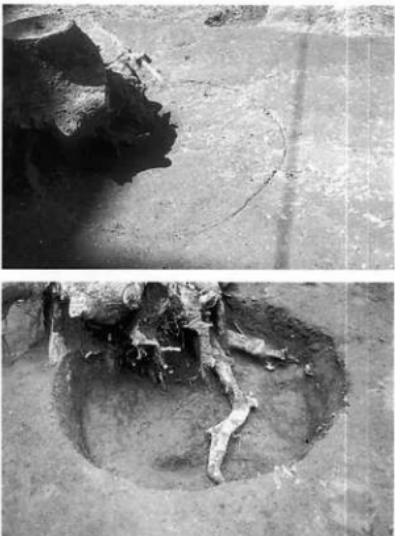


Fig. 34 D地点 SK3 S=1/40



PL. 18 D地点 SK3

上：検出状況（南東から）。下：完掘状況（南東から）

2) SD1 (Fig. 35, PL. 19)

調査区西側に位置し、東西方向に伸びる。幅約30cmで、深さは4cmと浅い。造構西側はカクラン土坑によって掘削され、上面もかなり削平されているようである。埋土は、黄褐色(2.5Y5/3)砂質シルトで、軟らかくばさばさしている。

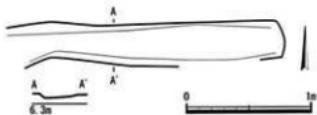


Fig. 35 D地点 SD1 S = 1/40



PL. 19 D地点 SD1

右上：検出状況（南西から）。左：埋土（西から）。右下：完掘状況（南から）

3) SD2 (Fig. 36, PL. 20)

調査区中央部に東西方向に横断するように位置する。幅約54cmで、深さは8cmと浅い。上面がかなり削平されているようである。SD1の延長上にあることから、SD1と同一の遺構の可能性も高い。埋土は、(2.5Y4/2) シルト質砂である。

遺構出土遺物 (Fig. 37, PL. 21, Tab. 5)

埋土中からはガラス瓶の破片や針金などが出土し、その中に土器が混入していた。そのうち、実測可能なものは1点である。28は古墳時代土器の高杯脚部で、かなり摩滅している。

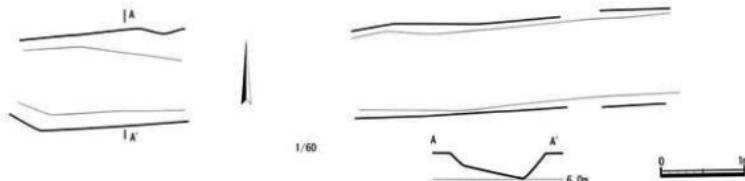


Fig. 36 D地点 SD2 S=1/60



PL. 20 D地点 SD2

上：埋土断面（東から）、下：実掘状況（西から）

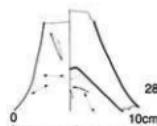


Fig. 37 D地点 SD2 出土遺物 S=1/4



PL. 21 D地点 SD2 出土遺物

Tab. 5 D地点 SD2 出土遺物観察表

No.	層別	器種	部位	色調	形状		砂粒の 多さ	調整	備考
					混和材	砂粒の 多さ			
28	SD2	古墳	脚部	外面：(2.5Y4/2) 黄褐色10YR7/4、内面：(2.5Y4/2) 黄褐色10YR7/4に褐色斑、脚肉：(2.5Y4/2) 黄褐色10YR7/4に褐色斑	粗砂：黑色粒、粉、石英、角閃石、赤色粒、细砂：黑色粒、透明粒	3	外面：ハケ(／)・打ち込み痕あり→ナ・杯部との接合痕あり。内面：ハケ(／)・打ち込み痕あり・ナ(／)。		

3.3 III 1層上面遺構

III 1層上面からは、SK1・2・4・5を検出した（Fig.38）。SK2・4・5は大きさや形状が類似しており、穗積跡ではないかと考えられる。

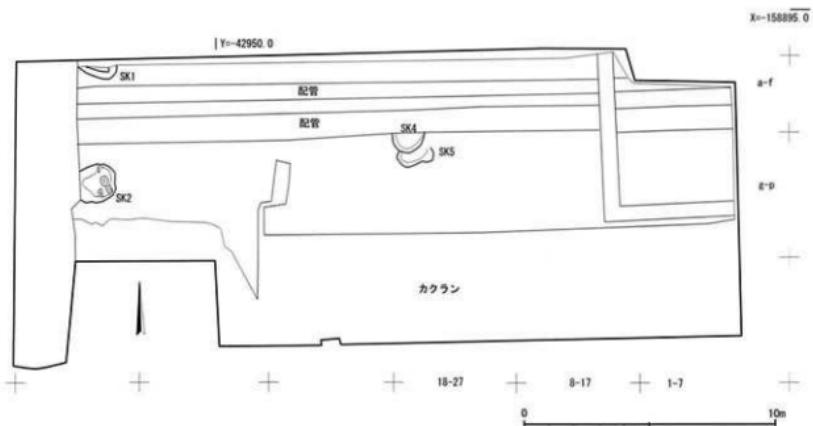


Fig.38 D地点III 1層上面遺構検出状況 S=1/200

1) SK1 (Fig. 39・PL. 22)

SK1は、調査区西すみに位置する。遺構西側は調査区外に広がっているので、未検出である。現状から、平面形は円形を呈する土坑であると考えられる。現状で、直径156cm、深さ42cmを測る。埋土は2層に分層できる（層位断面図Fig.32 北壁参照）。

埋土① にぶい黄褐色（10YR 5/4）シルト質砂と灰
黄褐色（10YR 5/2）シルト質砂の混土。

埋土② 埋土①と暗褐色（10YR 3/3）シルト質砂と
の混土

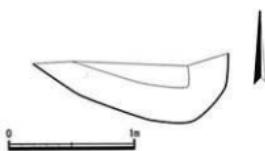
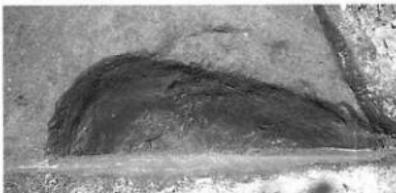


Fig.39 D地点SK1 S=1/40



PL. 22 D地点SK1
上：検出状況（北から）、下：実掘状況（北から）

2) SK2 (Fig. 40, PL. 23)

SK2は調査区北西すみに位置する。造構北側は調査区外に広がっているので、未検出である。現状から、平面形は円形を呈する土坑であると考えられる。現状で、直径157cm、深さ32cmを測る。底面に、小ピットが4個あり、底面からの深さは約10cmである。断面形は、底面がほぼ平らで、直線的に立ち上がる形状である。埋土は、にぶい黄褐色(10YR 5/4)シルト質砂と灰黄褐色(10YR 5/2)シルト質砂と暗褐色(10YR 3/3)シルト質砂との混土である。

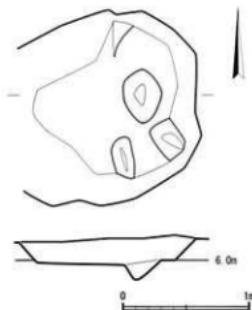


Fig. 40 D地点 SK2 S=1/40



PL. 23 D地点 SK2 完掘状況（西から）

3) SK4 (Fig. 41, PL. 24)

SK4は調査区中央部に位置する。造構北側は、配管による搅乱によって削平されているが、平面形は円形を呈すると考えられる。直径132cm、深さ12cmを測る。断面形は底面はほぼ平らで、緩やかに立ち上がる。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂である。

4) SK5 (Fig. 41, PL. 24)

SK5は、調査区中央部に位置し、造構北側をSK4に切られてい。平面形は、東側が少し飛び出る梢円形を呈する。径は150cm、深さ10cmを測る。断面形は底面はほぼ平らで、緩やかに立ち上がる。埋土はⅡ b層土である。

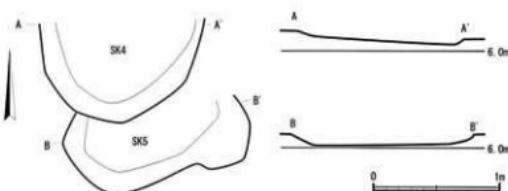


Fig. 41 D地点 SK4・5 S=1/40



PL. 24 D地点 SK4・5

左：検出状況（南から）、中：SK 4 完掘状況（東から）、右：SK5 完掘状況（北から）

3.4 V・VI層上面遺構

V層とVI層上面では、SD3・4とピット20基検出した(Fig. 42)。調査時には、V層上面でSD3を検出し、SD3完掘後にその下から多量の土器がまとまって出土した。また、土器群の平面分布とVI層上面で検出されたSD4の位置が重なった。壁面での土層観察から、SD4はV層中から掘り込まれていることが判明した。また、SD3はSD4が埋没した後、くぼ地となった場所に異なる土が堆積したと考えられ、SD4埋土最上部にあたる可能性が高い。これらの状況から、SD3・SD4は同一の遺構と捉え、VI層上面で検出されたピット群も含めて、同一層検出遺構としてまとめて扱う。

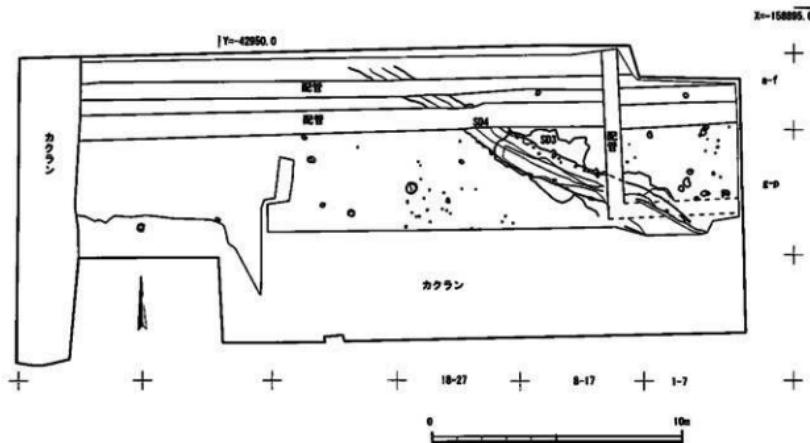


Fig. 42 D地点V・VI層上面遺構検出状況 S=1/200

1) SD3 (Fig. 43, PL. 25)

SD3は、調査区東側に位置する。北西から南東方向に伸びるが、平面形は不定形で、最大幅276cm、深さ12cmを測る。断面はなだらかなレンズ状である。SD4と位置がほぼ重なることから、SD4の埋土の窪みに溜まったものである可能性が高いが、検出時のまま、SD3として取り上げた。

埋土は、褐灰色

(7.5YR4/1) 粗砂混じ

りシルト。1~2cm大
のバミス含む。

出土遺物 (Fig. 44,
PL. 26, Tab. 6)

遺物は、古墳時代の
土器片が埋土中より出
出土したが、いずれも小
片である。そのうち、
実測可能なものは25
点であった。このう
ち、29~47は甕、49
~51が壺、52~54が
高杯であるが、圧倒的

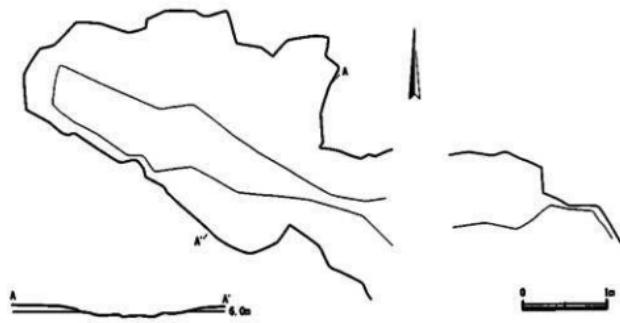
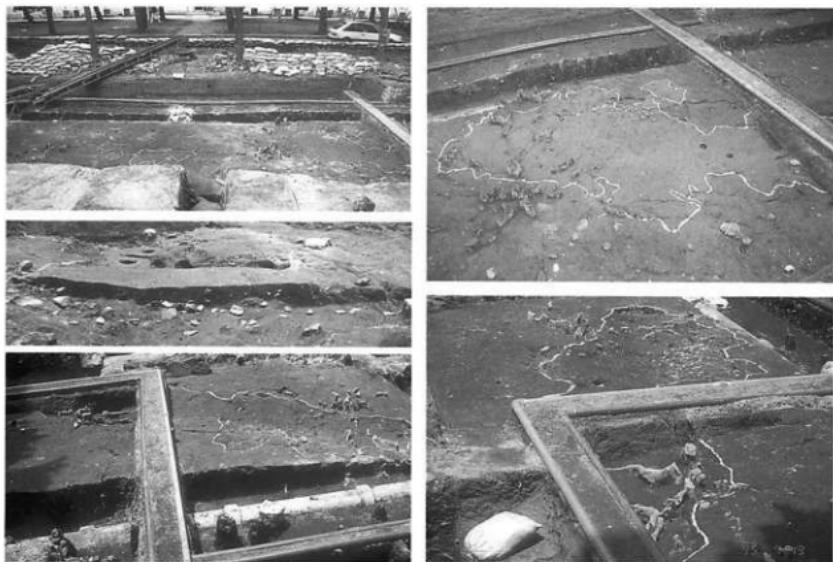


Fig. 43 D地点SD3 S=1/40



PL. 25 D地点 SD3

左上：検出状況（南から）、右上：検出状況（北から）、左中：埋土断面（西から）、右下：実掘状況（東から）

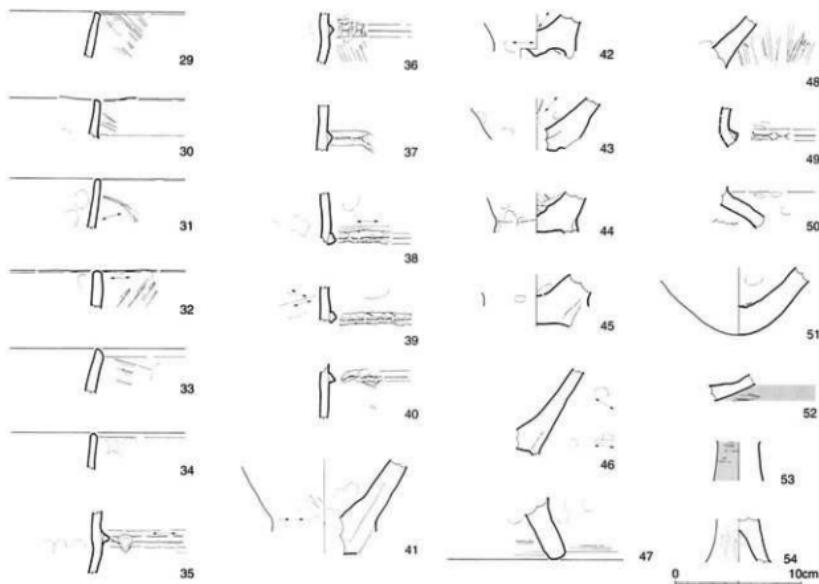
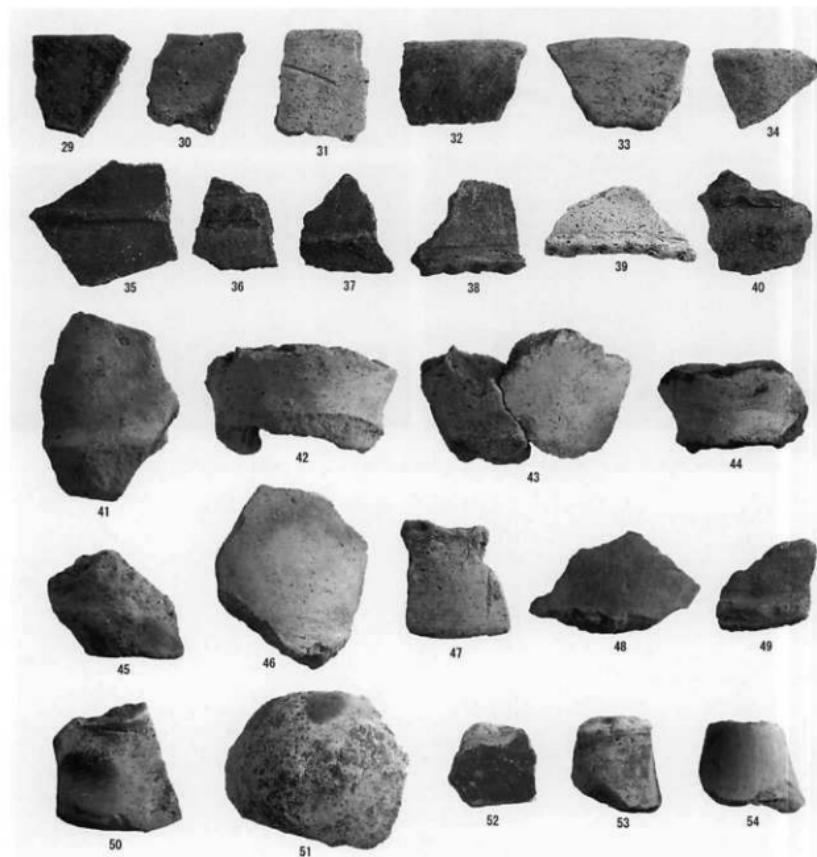


Fig. 44 D地点 SD3 出土遺物 S=1/4

付編 都元团地K・L-5・6区(中央図書館C・D・E地点)における発掘調査報告

に壺の破片が多い。遺物が小片のため、詳細な時期は判断しづらいが、壺は口唇部が指押さえによって波打っていたり、縦状突起で粗雑つくりであるという特徴が多いこと、高杯は外面に赤色顔料が塗布されていることなどから、古墳時代の後半期の時期のものがほとんどであると考えられる。



PL.26 D地点SD3出土遺物

Tab. 6 D 地点 S03 出土遗物列表表

種	属	種別	部位	色調	始上		調査	備考
					最初日	最終の 多さ		
29 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:に灰・黄褐色10%V/4, 内面:に灰・黄褐色10%	黒:茶・黄, 鮎色, 鳥糞石, 白色斑	1 外面:ハケ(八)~ナダ, 内面:ナダ	外壁ヌス材春,			
30 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:黄褐色2, 黄褐色10%V/2, 内面:に灰・黄褐色10%V/3	黒:茶・黄, 白色斑, 鳥糞石, 鮎色, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ハケ(八)~ナダ, 内面:ナダ	突起あり,			
31 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:白・灰10%V/2, 白:10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	白:白, 鳥糞石, 鳥糞石, 黄, 黄褐色, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 石青	4 外面:ハケ(八)~ナダ(レ), 内面:ナダ				
32 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・黄褐色10%V/2, 内面:浅黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 灰, 鳥糞石, 黄, 黄褐色, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ハケ(八)~ナダ(コナダ), 内面:外壁ヌス材春,				
33 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 黄, 鳥糞石, 黄, 黄褐色, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ハケ(八)~ナダ, 内面:ナダ				
34 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・黄褐色10%V/4, 内面:浅黄褐色10%V/4, 黄褐色10%V/4, 黄褐色10%V/4	黒:茶・黄, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ナダ(ナダ), 内面:ナダ				
35 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・黄褐色10%V/4, 内面:白・灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ナダ, ロコナダ, 内面:ナダ	輪郭突起1冬, 外壁ヌス材春,			
36 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	3 外面:ハケ(八)~ナダ, 内面:ナダ	明日葉突起1, 昼日中に布目狂			
37 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ナダ(ナダ), 内面:ナダ	三角突起1冬, 外壁ヌス材春,			
38 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ハケ(八)~ナダ(コナダ), 内面:外壁ヌス材春,				
39 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ハケ(八)~ナダ(コナダ), 内面:外壁ヌス材春,				
40 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ナダ(ナダ), 内面:ナダ	輪郭突起1冬, 外壁ヌス材春,			
41 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ナダ(ナダ), 内面:ナダ	輪郭突起1冬, 外壁ヌス材春,			
42 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	3 外面:ナダ(一), 内面:ナダ(一)	外壁の総合的明暗, 輪郭			
						内面の中心部が盛り上がる。		
43 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・黄褐色10%V/2, 内面:に灰・黄褐色10%	黒:茶・黄, 鳥糞石, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	3 外面:ナダ(八), 内面:ナダ(八)				
44 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・黄褐色10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・黄, 鳥糞石, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	3 外面:ナダ(ナダ), 内面:ハケ(八)~	輪郭突起部に系統が断続的に残る。			
45 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・白・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・白, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ナダ, 内面:ナダ	外壁ヌス材春,			
46 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・白・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・白, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	4 外面:ナダ, 内面:ナダ	外壁ヌス材春,			
47 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:に灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・白, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	3 外面:ナダ, ロコナダ, 内面:ナダ				
48 SGD 古墳 瓦?	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・白・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・白, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	3 外面:ナダ(ナダ)へによるナダ, 内面:				
					ナダ			
49 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・白・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・白, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	3 外面:ナダ, 内面:輪郭のため不明	用作突起1冬			
50 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・白, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	2 外面:ナダ, 内面:ナダ				
51 SGD 古墳 瓦	土器部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 内面:灰・白・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・白, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	2 外面:ナダ, 内面:ナダ				
52 SGD 古墳 高环	环部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 黄褐色10%V/2, 内面:に灰・黄褐色10%	黒:茶・白, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	2 外面:ミガキ(一), 内面:ナダ	外壁ヌス材春地帯			
53 SGD 古墳 高环	环部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 黄褐色10%V/2, 内面:灰・黄褐色10%V/2	黒:茶・白, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑, 鳥糞石, 白色斑	2 外面:ミガキ(一)	外壁ヌス材春地帯			
54 SGD 古墳 高环	环部	外壁:灰・白・灰10%V/2, 黄褐色10%V/2, 内面:に灰・黄褐色10%V/2, 黄褐色10%V/2	黒:茶・白, 鳥糞石, 鳥糞石, 白色斑, 鳟糞石, 白色斑	2 外面:ミガキ(一), 内面:ナダ	外壁ヌス材春地帯			

2)SD4 (Fig.45 ~ 48, PL.26 ~ 28)

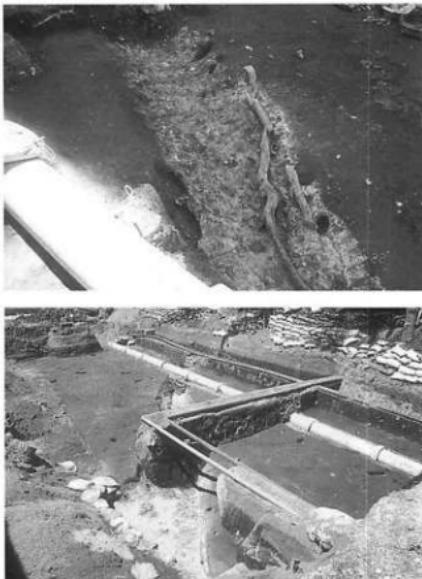
SD4は、調査区東側に位置する。SD4上場ラインはVI層上面で検出したが、壁面層位 (Fig.45 B-B') 観察の結果、V層中から掘り込まれていることが判明した。

北西から南東方向に伸びるが、南側は搅乱によって削平され、北側は調査区外に伸びているため未検出である。検出面での幅は1~1.2mだが、配管のため残していたベルト部分での層位観察によって、SD4の幅は2m以上に及ぶことが判明した。深さは検出面から70cm、ベルト部分では最深部で1.2mである。

埋土は、以下のように11に分層できた。断面形はV字状を呈する。また、溝壁面上部に、小ピットを検出した。ピットが多く検出した地点は、遺物がまとまっている範囲であり、関連するもの可能性もある。

埋土中上部から間層を挟むことなく多量の土器がまとまっている出土した。北側から南側へ傾斜しており、長さ3.3mの範囲にまとまっている。土器は破損しており、上層は小片が多く、下ほど大きな破片が多い傾向にある。中には、壺など広口のものは複数個重ねているものもある。

埋土①：黒褐色10YR7/1シルト。1~3cm大のシルト含む。埋土②：褐灰色7.5YR4/1シルト。1~2cm大のバミス含む。③と④が斑点状に混ざる。埋土③：①+③の混土。埋土④：10YR7/3にぶい黄橙色シルト。埋土⑤：にぶい黄橙色10YR7/3シルト。埋土⑥：黒10YR2/1シルト。埋土⑦：灰黄褐色10YR6/2細砂層。埋土⑧：シラス2次堆積 灰黄色2.5YR6/2細砂と灰黄褐色10YR6/2細砂が0.5~1cm厚さの縞状に交互に堆積。埋土⑨：褐灰色10YR4/1細砂まじりシルト。埋土⑩：シラス2次堆積 灰黄色2.5YR6/2細砂。埋土⑪：埋土⑨と同じ。



PL.27 D地点 SD4

左：遺物出土状況(上面)。右上：埋土①～③除去後、埋土④検出状況。右下：完掘状況

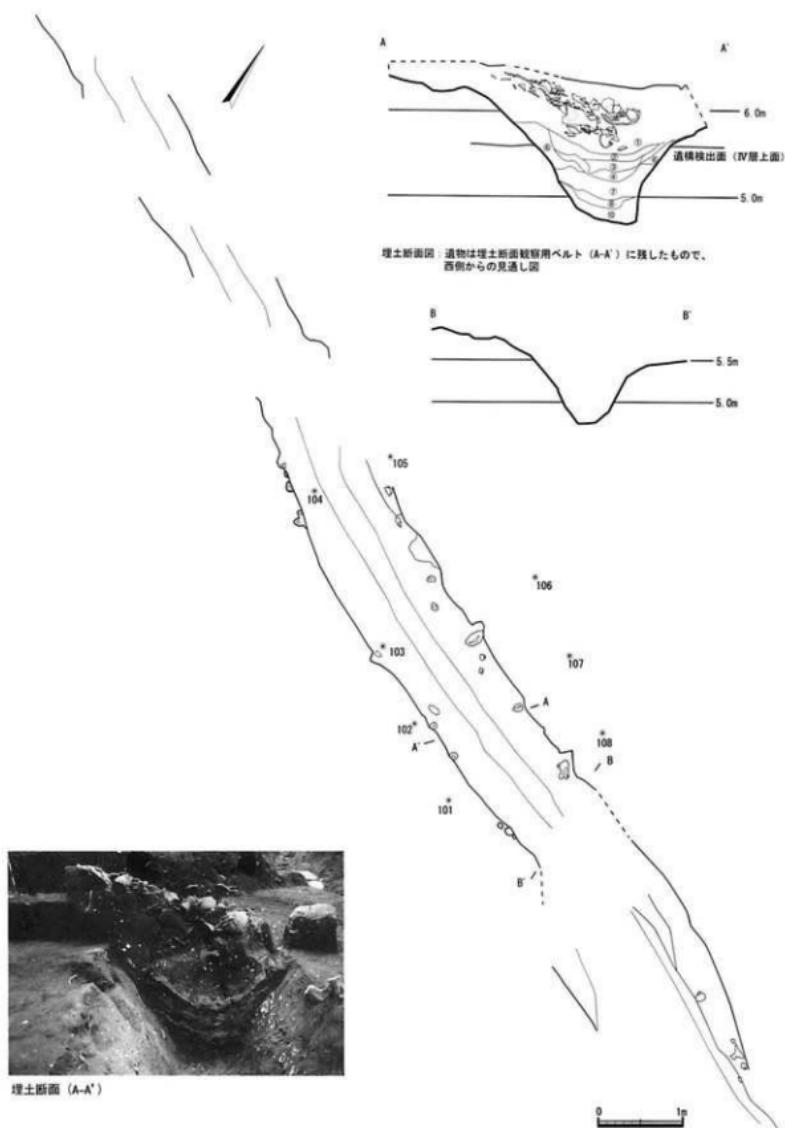
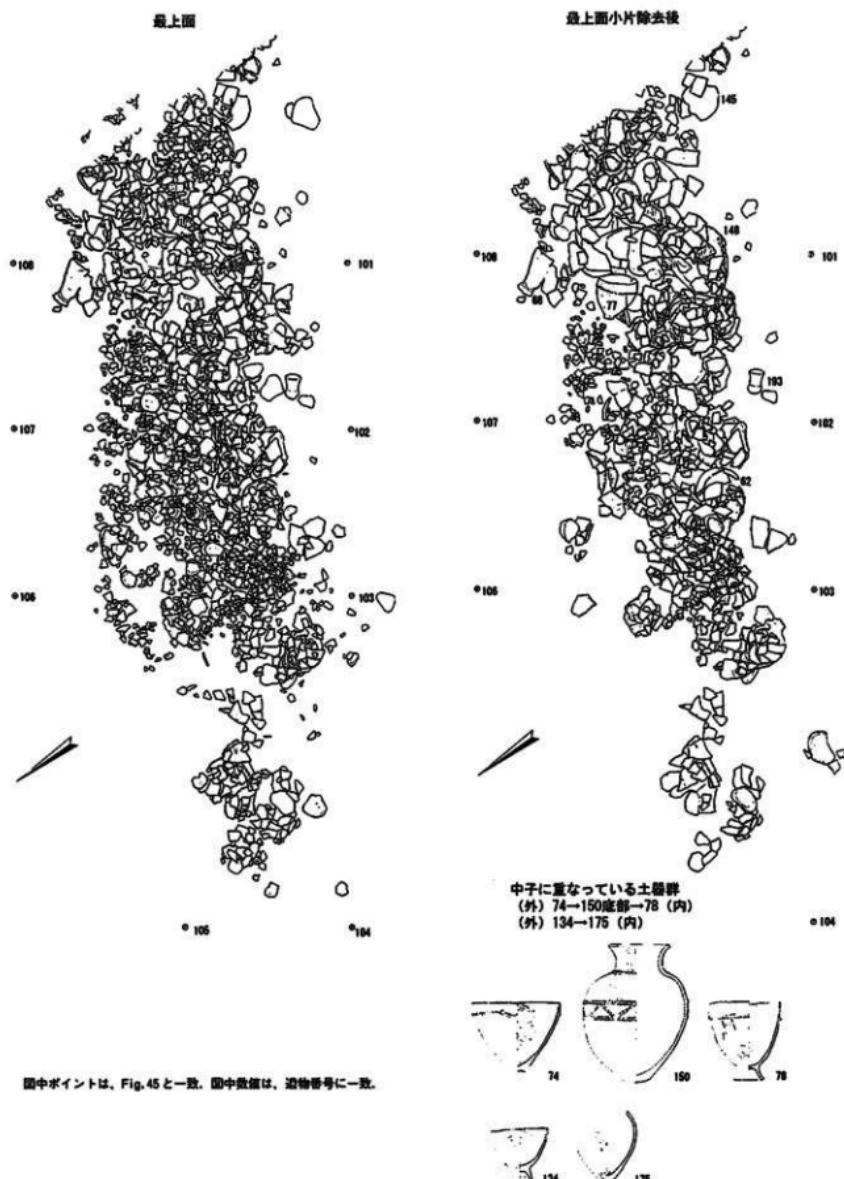
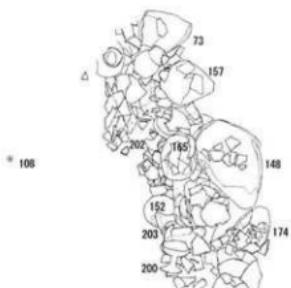


Fig. 45 D地点 SD4 S=1/60

付録 郡元町地K・L・5・6区(中央園古跡C・D・E地点)における発掘調査報告



最下面



* 101



* 103

* 106

* 104

図中ポイントは、Fig.45と一致。図中数値は、遺物番号に一致。上部の遺物 (Fig.46) に比べて破片が大きい。壺や高杯が目立つ。

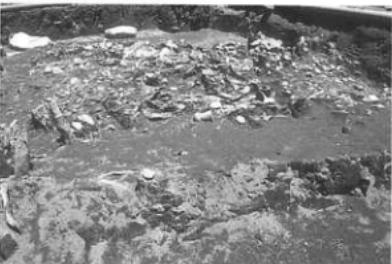


Fig.47 D地点SD4遺物出土状況(2) S=1/30

PL.28 D地点SD4

上：遺物出土状況 上面（南から）。2段目：遺物出土状況（南西から）、3段目：遺物出土状況西側。下：上層の土器除去後の遺物出土状況 東側（南から）

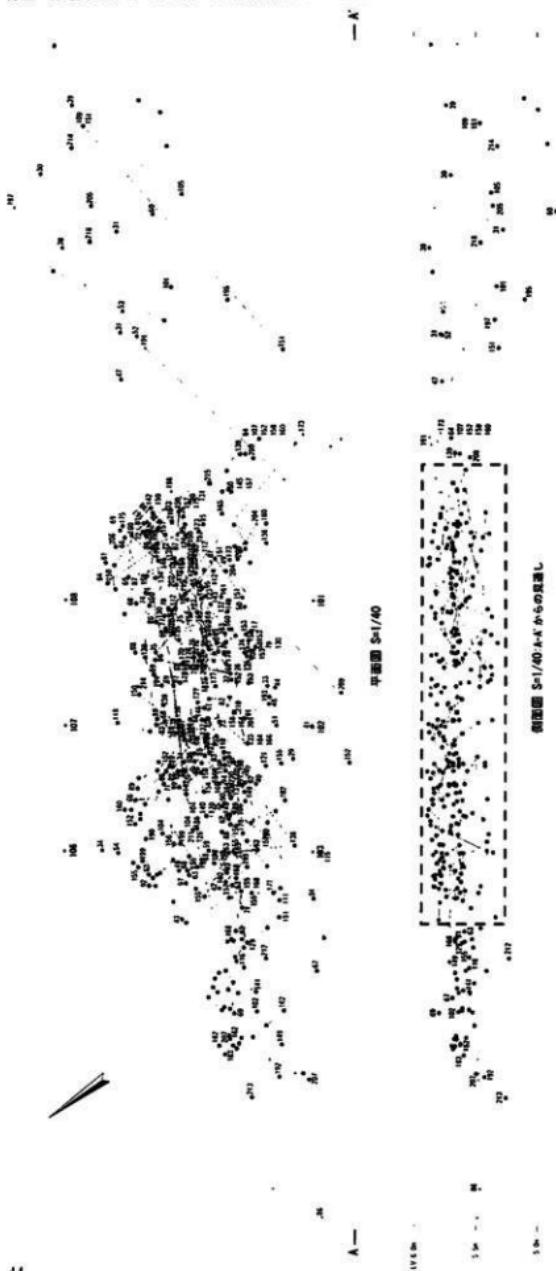
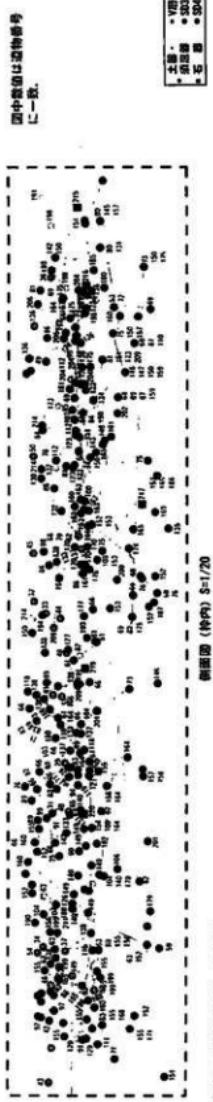


Fig. 4B D 地点 SD4 土器接合状况 S=1/40



出土遺物

SD4 から出土した遺物のうち、時期や器種などがわかる遺物数は Tab. 7 のとおりである。遺物は、弥生土器、古墳時代の土器、須恵器、叩き石、剥片石器、砥石、軽石製品などが出土している。

① 弥生土器 (Fig49, PL. 29, Tab. 8)

弥生時代中期の遺物が出土している。55～59は壺で、60は壺である。いずれも小片である。55～57は口唇部がくぼんだ特徴があり、入来Ⅱ式の壺の口縁部である。58は口唇部は丸いが、入来Ⅱ式と同時期で、黒髮式土器の影響を受けたものだろうと考えられる。59は口縁部下の絡繆突帯である。60は壺の肩部付近の突帯部である。比較的シャープな断面三角形状を呈する。

② 壺 (Fig50～55, PL. 30～36, Tab. 9～12)

SD4 の出土遺物の中でも、壺の破片数は多量だったので、特徴的なものを抜粋して掲載した。壺は、いずれも口縁部が広口で脚台を持つタイプで、ほとんど1条の絡繆突帯を持つ。鉢式である。

61～67は口径が30cm前後で、体部がやや横方向に膨らみながら口縁部に向かって立ち上がる形態を呈するものである。61～65は口縁部が比較的外に開くタイプである。61は、体部の大きさに比べると、脚台がやや小さい。口唇部の一部が肥厚している。内面には、外面突帯部よりやや上のラインから下の器壁が摩滅している。このような特徴は、他の壺にも見られた (66・69・70)。61・63・64は他の土器に比べて器厚が薄い。66・67は口縁部が直立するタイプである。66は口縁部から外面突帯部までの長さが、やや長い。67は器高が約37cmと他の壺に比べると高いタイプに属する。口縁部外面に、破裂痕のような不定形の剥落が横方向に並んでいる。

68～73は、口径が30cm前後で、脚部から口縁部に直線的に開く形態を呈するものである。68は脚台部内面天井部に、細長い一文字の突起が認められる。非常に粗雑な作りで、体部下半がゆがんでいる。脚台の調整も粗雑で、外面に指で縱方向になでつけた痕が顕著である。体部外面に2か所、内面に1か所、脚台内面に1か所、細長い梢円形の粘土を貼り付けた部分があり、ひびを直した補修痕と考えられる。このような粘土貼り付けによる補修の痕は71・108・163・166・169・201と各器種にわたって認められた。69は、口縁部が直線的に開く形態を呈するが、一部ゆがんで内湾している部分がある。外面には、輪積みの痕が顕著で、器面の凹凸が著しい。72は比較的薄手作りだが、器厚が一定せず、内面の器壁が特に波打っている。73は、口縁部外面の突帯より上部の器厚が少し肥厚している。

Tab. 7 D 地点 SD3・SD4 種類別遺物出土数

弥 生	古墳														増 赤 色 陶 料 片	鉢 白 付 平 底	須 石 器 器 品	軽 石 加 工 未 加 工 品	計					
	壺				壺				高杯															
	完形	体部	口縁	胴部	底部	完形	口縁	胴部	底部	完形	口縁	胴部	脚部											
	底 部					口縁	胴部	底部		口縁	胴部													
SD4	6	8	3	151	195	113	13	7	6	29	18	5	5	9	33	4	123	4	8	2	4	2	36	784
SD3				17	32	22				6	1			4	4		11						1	98
計	6	8	3	168	227	135	13	7	6	35	19	5	5	13	37	4	134	4	8	2	4	2	37	882

74～79は口径が約25cm以下で、小型のタイプである。74は口径は28cmと大きいが、器高が低い。75・76は外面に突帯を持たないタイプだが、本来突帯を付ける位置ぐらいに、粘土帶の接合痕明瞭が残っているものである。76はそれ以上が少し肥厚しており、ゆるやかな段を有する。どちらも器面調整は粗雑である。75は脚部を欠損しており、その接合部のユビオサエ痕が明瞭に残っている。77は低脚の底部を持つタイプである。78は体部のプロボーションが少し膨らみ、底が広いタイプである。脚部も幅広い。79は、口縁部が内溝するタイプである。これも、全体的に作りが粗雑である。外面の縦半分が剥落している。

80～84は口縁部片である。84は器壁が5mm以下と薄く、胎土も臺によくある砂粒が多いものではなく、高杯などの胎土のように、精緻なものである。

85は口縁部下の突帯部分で、1条の縦縫突帯の両端を著しくずらしたものである。これほど突帯の端がずれているものは少ないが、66・67・74・82などのように臺によく見られるものである。

94～132は脚台もしくは脚部である。94～105は脚台内面天井部が飛び出しているタイプである。丸底を呈する体部の外側に脚部を付けた結果であることと、脚部との接合部を強く指で押さえて脚台内面の中心部が飛び出す形態を呈するようである。107～126は天井部が平坦なもので、平底を呈する体部の外側に脚を貼り付けたもの、さらに脚部との接合部に粘土を足して、天井部をドーム状に仕上げたものがある。これには、低脚のタイプ（117・121～123・126）と、細長いタイプ（124・125）のものも含まれる。

127から132は脚部だが、ほとんど体部との接合部やその付近で欠損したものと思われる。131・132は薄い作りで、端部の仕上げもシャープなことから、鉢などの臺とは機能の異なる器種の可能性も考えられる。

③ 鉢 (Fig. 56, PL. 37・38, Tab. 13)

鉢には様々なバリエーションが認められる。ススが付着するものがあるなど、用途も一様ではないと推定できる。133は臺に類似した形態のもので、外面にススが付着していることから、小型の煮沸具として使用されていたと考えられる。134・135は、少し内溝気味の口縁部で、脚台がつくものと上げ底状のものである。どちらも、外面口縁部下に粘土帶を貼り付けた名残を残す。ちょうど、臺では突帯の位置であることから、意図的に残したものと考えられる。137も同様な特徴を持つが、非常に広口で浅い形態を呈する。底部は端部を細くつまんで、脚部のように仕上げている。外面の一部に縦方向の細い工具による粗いミガキ状のナデ痕があり、その裏側にも同様な調整を施している。内面は縦にひびが認められることから、これらも焼成前に入ったヒビを工具でなでつける事によって補修した痕であると考えられる。

136は若干外溝する口縁部と脚台を持つ。外面の一部に赤色顔料の付着が認められるが、これが意図的に付けられたものかどうかは判別できない。138・139は胴部が膨らみながら立ち上がる広口プロボーションで、底部は端部をつまんでわずかに張り出させ、脚台状を呈する。140は直線的に開く口縁部を持つものである。

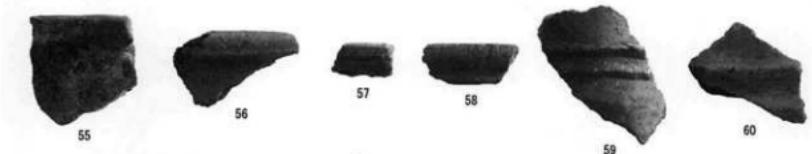
141～143は、平底で直線的に開く口縁部のものである。143はやや粗雑なつくりで、サイズも少し小さめである。

144はいわゆる「手づくり土器」で、ユビオサエ痕が明瞭で粗雑なつくりのものである。器壁も厚く、底面もユビオサエによる凹凸が著しい。

④ 壺 (Fig. 57～64, PL. 39～46, Tab. 14～18)



Fig. 49 D地点 SD4 出土遺物(1) 弥生土器 S=1/4



PL. 29 D地点 SD4 出土遺物(1) 弥生土器

Tab. 8 D地点 SD4 出土遺物観察表(1) 弥生土器

No.	基	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
						泥状	砂粒の 多さ		
55	SD4	弥生	甕	口縁部	外面:灰褐色7.5YR7/6, 内面:灰褐色7.5YR7/6 7/4, 器内:褐色7.5YR8/1	細緻:石英, 角閃石 7/4, 器内:褐色7.5YR8/1	3	外表面:ナダ, 口縁部ヨコナダ, 内面: ハケ(△)→ナダ(一)	
56	SD4	弥生	甕	口縁部	外面:褐色7.5YR7/6, 内面:褐色7.5YR7/6, 器内:褐色 7.5YR8/1	細緻:石英, 角閃石, 赤色粒, 褐色:石英, 角閃石, 赤色粒	4	外表面:ナダ+ヨコナダ, 内面:ナダ	
57	SD4	弥生	甕	口縁部	外面:灰褐色10YR6/2, 内面:灰褐色7.5YR7/5 7/4, 器内:深褐色7.5YR8/2	細緻:石英, 赤色粒, 粗緻:石英, 角閃石, 赤色粒	3	外表面:ナダ+ヨコナダ, 内面:ナダ	外表面スリット有。
58	SD4	弥生	甕	口縁部	外面:灰褐色10YR6/2, 内面:灰褐色10YR8/2, 器内:黄褐色9YR5/4	細緻:角閃石, 石英, 赤色粒, 褐色:角閃石, 石英	4	外表面:ヨコナダ	
59	SD4	弥生?	甕?	胴部	外面:灰褐色7.5YR7/4, 内面:褐色10YR8/1, 器内:灰褐色10YR7/2	細緻:白色粒, 石英, 粗緻:石英, 角閃石	3	外表面:ナダ+ヨコナダ, 内面:ナダ	三角突起2箇, 外表面スリット有。
60	SD4	弥生	甕?	胴上部	外面:褐色7.5YR6/6, 内面:灰褐色7.5YR7/3, 器内:黄褐色2.5YI4/1	細緻:白色粒, 相妙:石英, 角閃石, 白色粒, 粗緻:石英, 赤色粒	4	外表面:ナダ+ヨコナダ, 内面:ナダ	三角突起2箇, 赤色細粒垂直有。

付図 郡元閉地K・L-5・6区（中央図書館C・D・E地点）における発掘調査報告

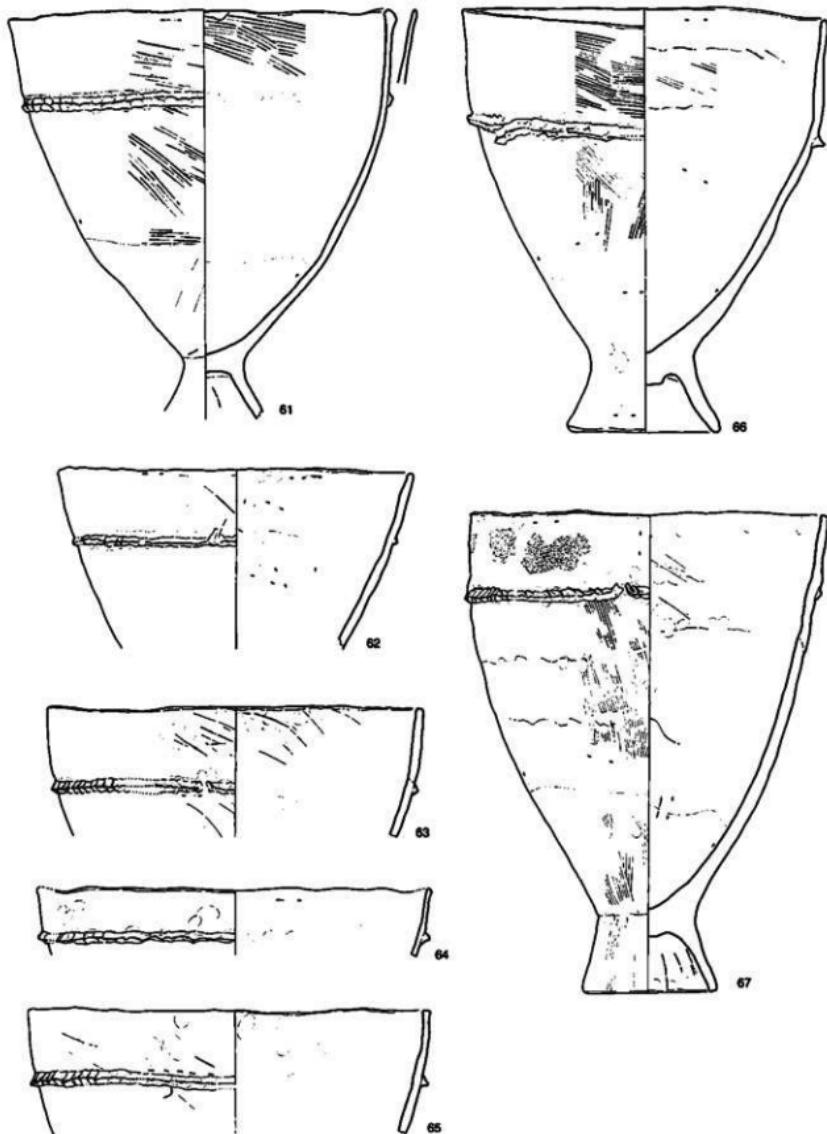


Fig. 50 D地点 SD4 出土遺物 (2) 古墳時代の壺 S=1/4



PL. 30 D 地点 SD4 出土遺物 (2) 古墳時代の甕

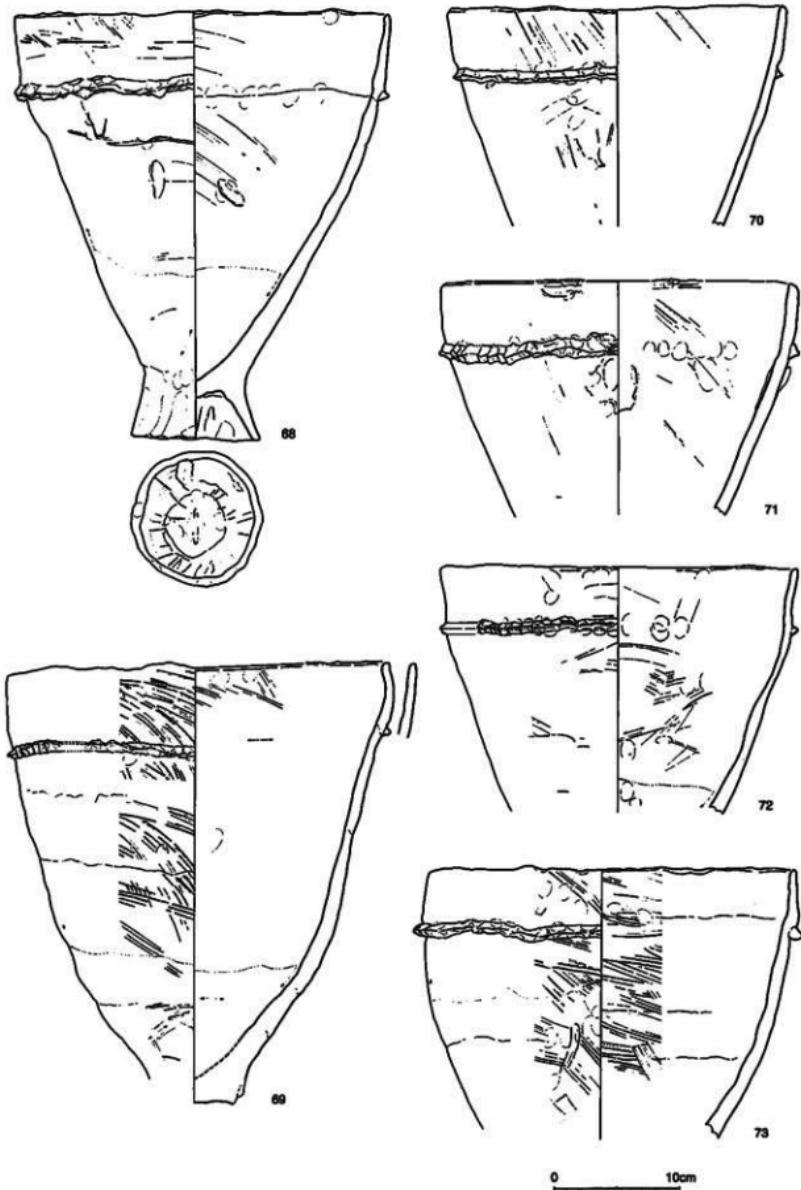
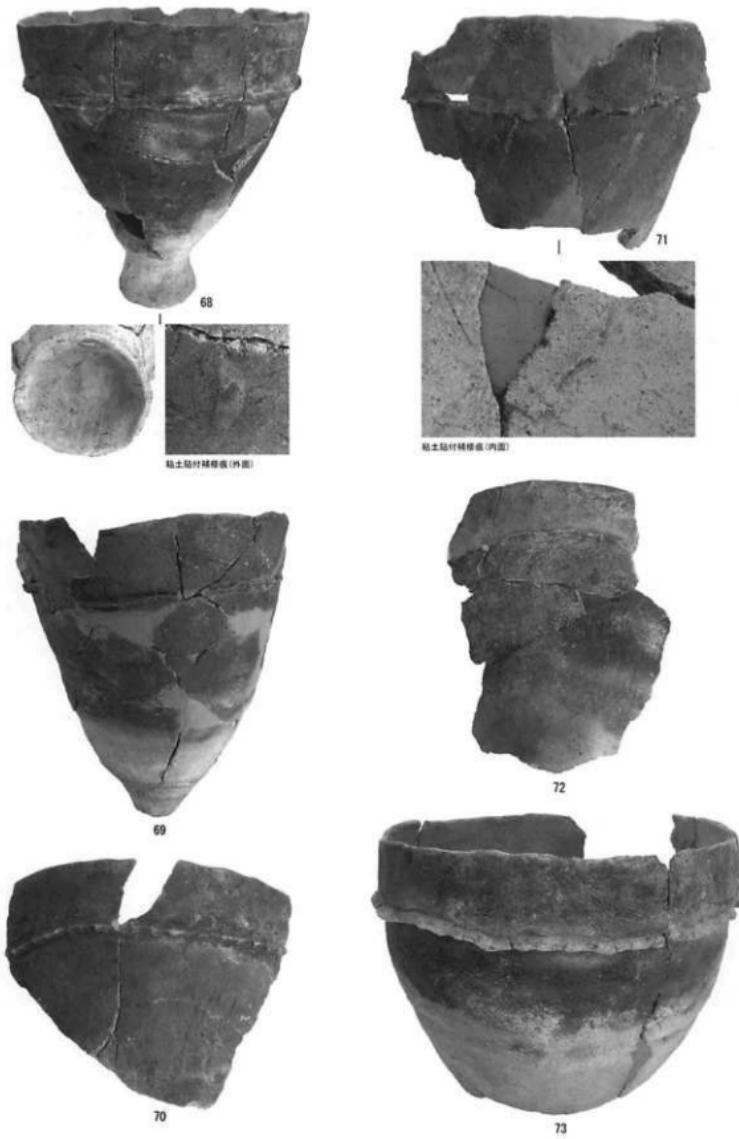


Fig.51 D地点SD4出土遺物(3) 古墳時代の壺 S=1/4



PL. 31 D地点 SD4 出土遺物 (3) 古墳時代の甕

付録 都元团地K・L-5・6区（中央团地前C・D・E地点）における発掘調査報告

Tab. 9 D地点SD4出土遺物類表（2）古墳時代の窯

No.	M	種別	形態	色調	断土		特徴の 多様性	調査	参考
					裏面	前面			
61	SD4	古墳	窯 完形	外側:にごり、内側:灰白色/4、内面:にごり、黄褐色/10cm/3、	白灰色、赤色、黑色、灰色、灰白色、		5	外側:口部部ハケ(→)→ナゲ(→)、 灰褐色/10cm、内面灰、にごり	粘土質砂利土、内面灰、にごり
				7/3、内面:灰褐色/10cm/1	石英、赤、石英、角閃石、赤色灰、 白色灰、黑色灰、細砂:白色灰、 黑色灰			灰褐色ハケ(→)→(→)ナゲ(→)、 外面上半部にスス付着、口部 脚部ハケ(→)、内面:口部部ハケ (→)→(→)ナゲ、脚部エビオナニ、 脚部内面ハケ(→)。	
62	SD4	古墳	窯 口縁部	外側:灰褐色/10cm/1、内面:浅黄褐色/10cm/3、 ~脚部 背面:灰褐色/10cm/1	白灰色、黑色灰、角閃石、白色灰、 细砂:石英、角閃石、白色灰、 白色灰、黑色灰		4	外側:口部部コナギ、脚部ハケ ナゲ、口部:口部部コナギ、脚部ハケ ナゲ(→)、内面:脚部は墨のち 上部ヨコナギのため、三角窓状、 (直径28.8cm、高さ:25.2cm)	粘土質砂利土、内面灰および 外面上半部にスス付着、口部 26.8cm、長径29.7cm。
63	SD4	古墳	窯 口縁部	外側:灰褐色/10cm/2に凹部、内面:にごり、 ~脚部 7.5cm/4、背面:灰褐色/10cm/1	白色灰、黑色灰、細砂:石英、角 閃石、白色灰、黑色灰、細砂:		4	外側:ハケ(?)のちナゲ・コナギ 内面:ハケ(→)→ナゲ	粘土質砂利土、内面灰および 外面上半部にスス付着、(直径) 26.8cm、長径29.7cm。
64	SD4	古墳	窯 口縁部	外側:灰褐色/10cm/3に凹部、内面:にごり、 ~脚部 7.5cm/4、背面:灰褐色/10cm/1	白色灰、黑色灰、細砂:石英、角 閃石、白色灰、黑色灰、細砂:		4	外側:エビオナニ、内面:エビオナニ、 ナゲ(→)、口部:口部部ナゲ(→)、脚部ハケ ナゲ(→)、内面:脚部ナゲ(→)、脚部ハケ(→) 下部脚部は墨のち表面が赤、 口径29.6cm、底径22.3cm、高さ 23.6cm	粘土質砂利土、外面上半部 内面灰および外面上半部にスス付着、口部 31.2cm。
65	SD4	古墳	窯 口縁部	外側:浅黄褐色/10cm/2に凹部、内面:にごり、 ~脚部 10cm/2に凹部、背面:灰褐色/10cm/1	白色灰、黑色灰、細砂:石英、角 閃石、白色灰、黑色灰、細砂:		5	外側:ハケ(→)→ナゲ、ナゲ	粘土質砂利土、内面灰および 内面全体剥離、口径29.9cm
66	SD4	古墳	窯 完成	外側:浅黄褐色/10cm/3、内面:浅黄褐色/10cm/3、 背面:灰褐色/10cm/1	白色灰、石英、白色灰、赤色灰、 細砂:石英、角閃石、黑色灰		2	外側:口部部大穴のハケ(?)→(→)、脚 部ハケ(?)→ナゲ、脚部ナゲ(→)、 内面:口部部ナゲ(→)、脚部ハケ(→) 下部脚部は墨のち表面が赤、 口径29.6cm、底径22.3cm、高さ 23.6cm	粘土質砂利土、内面灰および 外面上半部にスス付着、口部 31.2cm。
67	SD4	古墳	窯 完成	外側:にごり、灰褐色/10cm/2、内面:浅黄褐色/7.5cm 8/4、背面:浅黄褐色/7.5cm/4	白色灰、赤砂:石英、白色灰、 黑色灰、白色灰、細砂:角閃石、 白色灰、黑色灰		5	外側:口部部エビオナニ・コナギ、 脚部ハケ(→)→ナゲ(?)・コナギ、 脚部ハケ(?)→ナゲ	粘土質砂利土、内面灰および 外面上半部にスス付着、口部 直徑29.5cm、底徑19.6cm 高さ27.3cm
68	SD4	古墳	窯 完成	外側:浅黄褐色/7.5cm/4に凹部、内面:灰褐色/10cm/2 2/2、背面:灰褐色/10cm/2	白色灰、角閃石、細砂:角閃石、 石、石英、赤色灰		5	外側:口部部ナゲ(→)、エビオナニ、 脚部ナゲ・コナギ、脚部ナゲ(→)、 脚部内面ハケ打ち込み跡と心材に 用いられた追造土り付けあり、 口径29.4cm、底径	粘土質砂利土、内面灰および 外面上半部にスス付着、口部 30.2cm、底径33.7cm
69	SD4	古墳	窯 口縁部	外側:浅黄褐色/10cm/3、内面:浅黄褐色/10cm/2 ~底部 背面:灰褐色/10cm/2に凹部	白色灰、角閃石、細砂:角閃石、 白色灰、細砂:角閃石、石英、赤色灰、 白色灰		3	外側:口部部ハケ(?)→ナゲ(→)、内面: ハケ(?)のちナゲ(→)	粘土質砂利土、内面灰および 外面上半部にスス付着、口径 4cmから全周、表面剥離、口部 (直径)25.6cm、長径30.3cm
70	SD4	古墳	窯 口縁部	外側:灰褐色/10cm/2、内面:浅黄褐色/10cm/2 ~脚部 背面:灰褐色/2.5cm/1	白色灰、角閃石、石英、赤色灰、 赤砂:角閃石、石英、白色灰、細砂: 黑色灰		3	外側:口部部ハケ(?)→エビオナニ、内 面:ハケ(?)、内面:口部部ハケ(?)	粘土質砂利土、外面上半部 内面灰および外面上半部にスス付着、 口径28.1cm
71	SD4	古墳	窯 口縁部	外側:灰褐色/10cm/2に凹部、内面:灰褐色/10cm/2 ~脚部 背面:灰褐色/2.5cm/1	白色灰、角閃石、石英、赤色灰、 赤砂:角閃石、石英、白色灰、細砂: 石英、角閃石		4	外側:口部部コナギ、脚部ハケ(?) ナゲ(→)、内面:ハケ(?)→ナゲ	粘土質砂利土、外面上半部にスス付着 あり、約1.5cm厚存、底部付近2.3cm (直径)25.6cm、長径30.3cm
72	SD4	古墳	窯 口縁部	外側:灰褐色/10cm/4、内面:浅黄褐色/10cm/4、 背面:灰褐色/10cm/4に凹部	白色灰、角閃石、赤砂:白色灰、 白色灰		4	外側:ハケ(?)→ナゲ、内面:ハケ(?) ナゲ(→)	粘土質砂利土、内面灰および 外面上半部にスス付着、 底部付近2.3cm
73	SD4	古墳	窯 完成	外側:にごり、灰褐色/10cm/3に凹部、内面:にごり、 石英、角閃石、赤砂:白色灰、黑色灰、 黑色灰/2.5cm/4、背面:灰褐色/2.5cm/4に凹部	白色灰、角閃石、赤砂:白色灰、黑色灰、 黑色灰		5	外側:口部部ハケ(?)→エビオナニ、 脚部ハケ(?)→(?)・エビオナニ エビオナニ、脚部ハケ(?)→(?)・エビオナニ (?)→ナゲ、脚部ハケ(?)→(?) エビオナニ→ナゲ	粘土質砂利土、外面上半部にスス付着、 口部25.4cm、

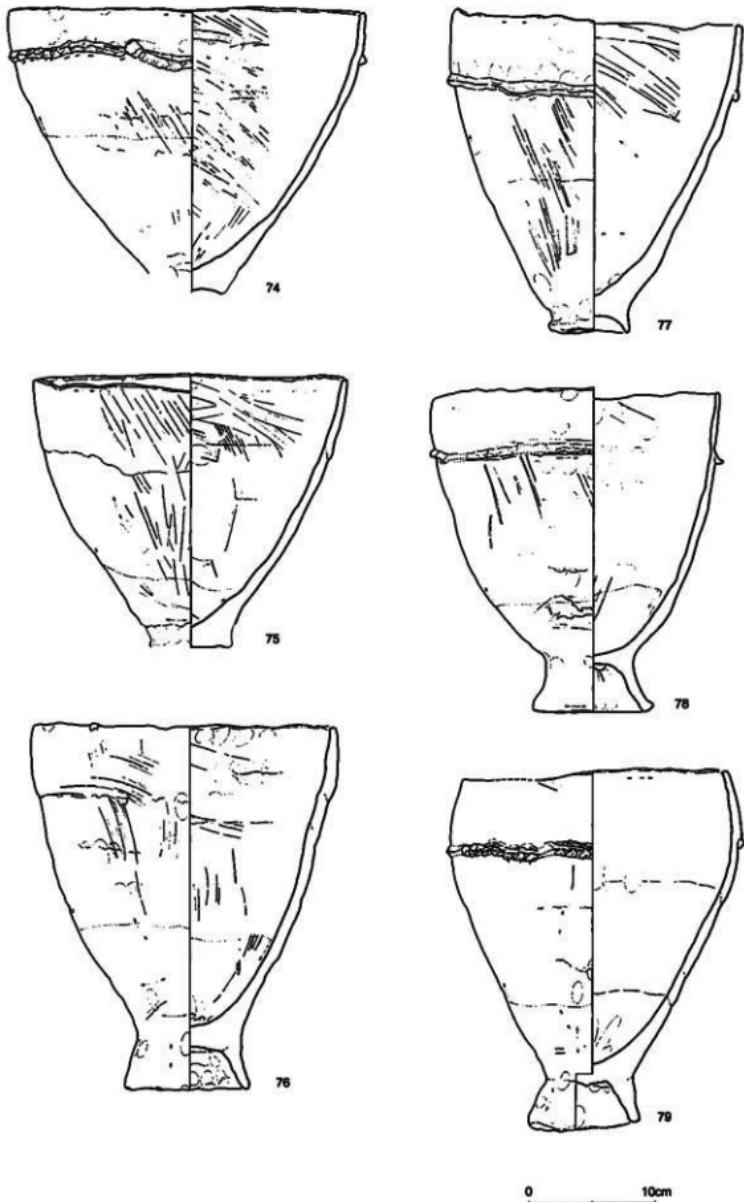


Fig. 52 D地点 SD4 出土遺物 (4) 古墳時代の壺 S=1/4



74



75



76



77



78



79



80



81

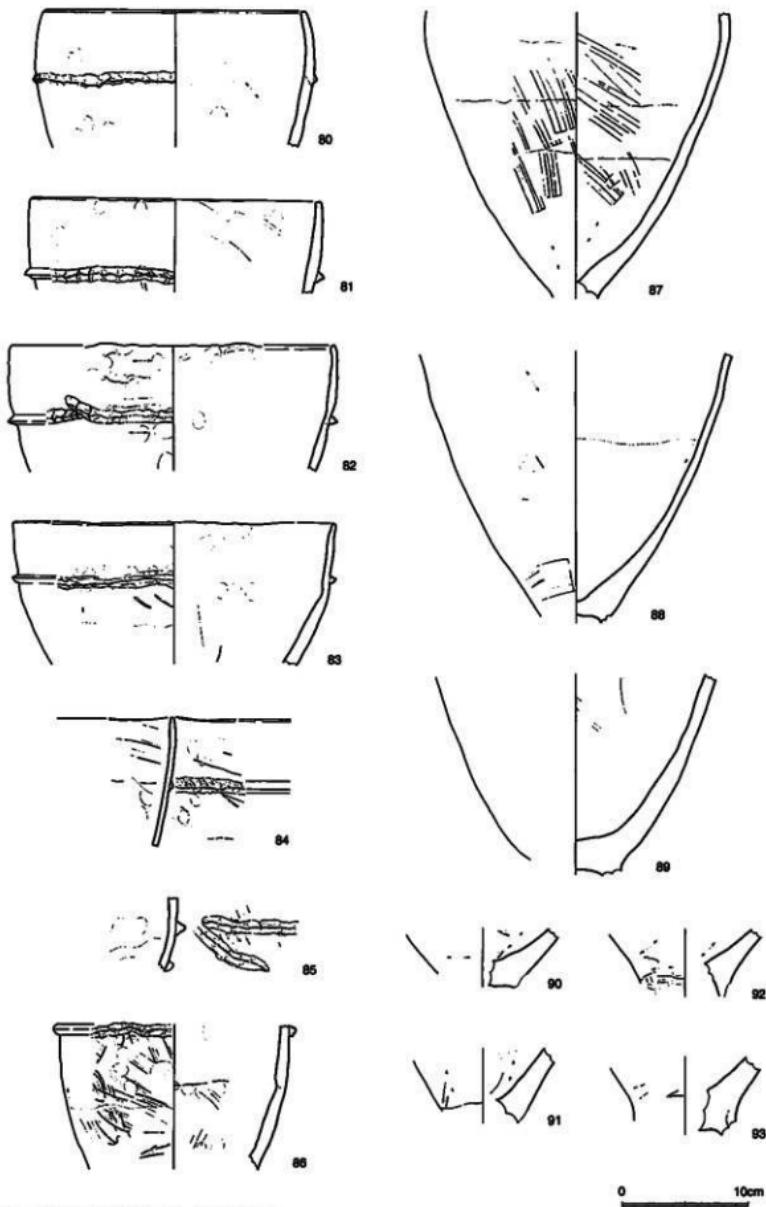
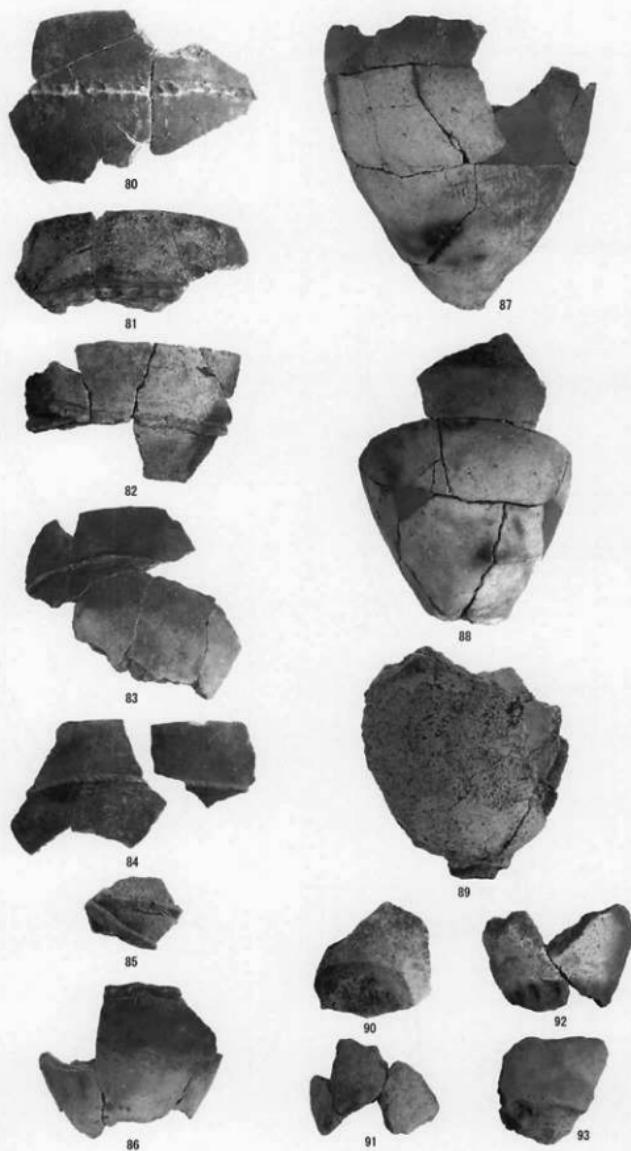


Fig.53 D地点SD4出土遺物(5) 古墳時代の壺 S=1/4



PL. 33 D地点SD4出土遺物(5) 古墳時代の壺

Tab. 10 D地点 SD4 出土遺物觀察表（3） 古墳時代の陶

付録 都元町地 K・L-5・6区(中央図書館C・D・E地点)における発掘調査報告

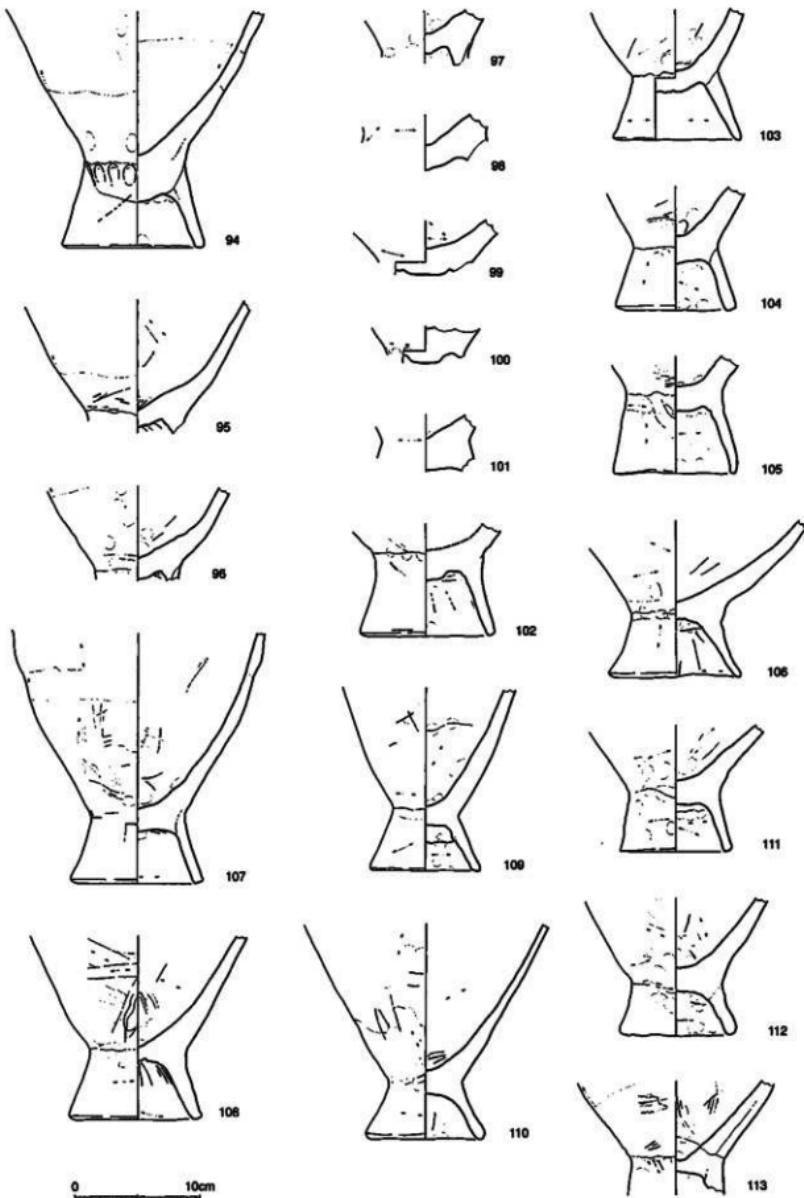
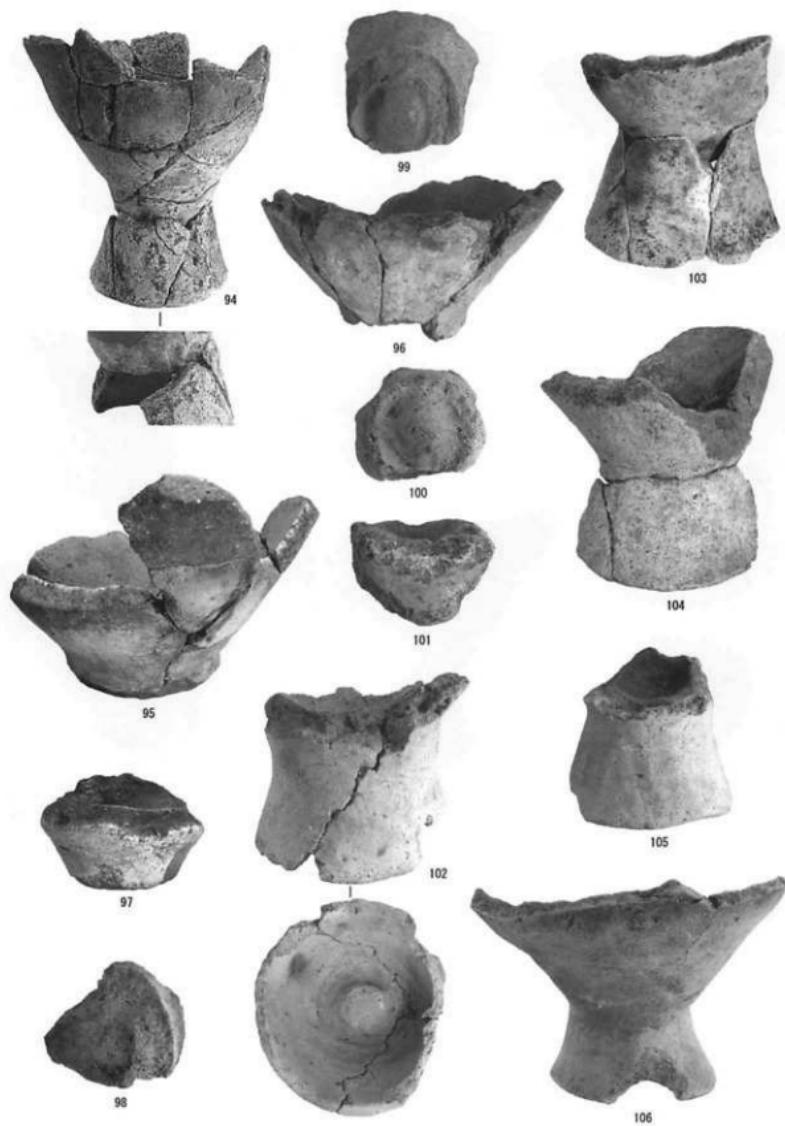
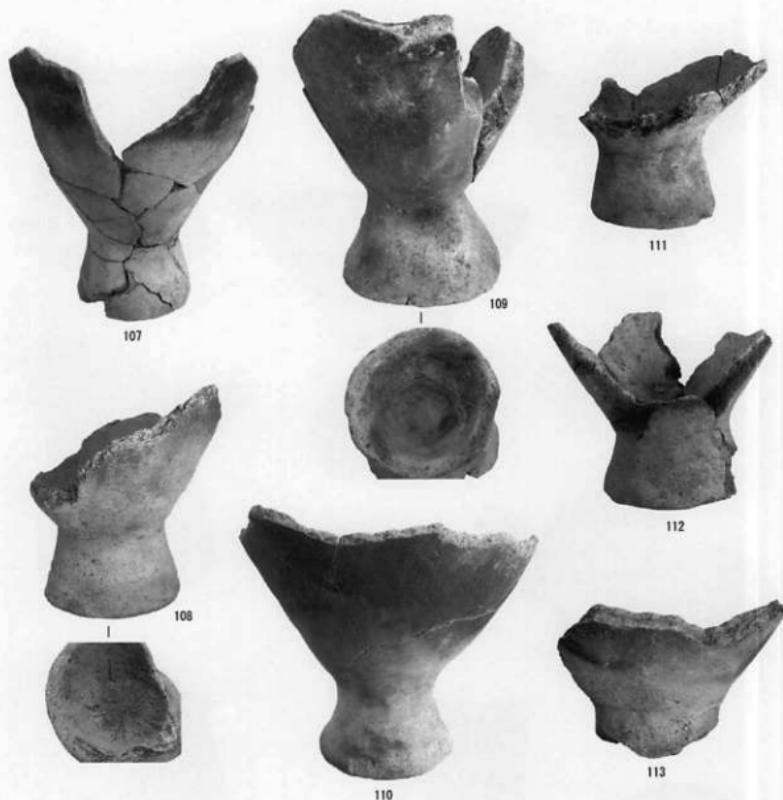


Fig. 54 D地点 SD4出土遺物(6) 古墳時代の壺 S=1/4



PL. 34 D地点 SD4出土遺物写真 (6) 古墳時代の甕



PL. 35 D地点SD4出土遺物写真(7) 古墳時代の甕

付録 那元町地 K・L・5・6区(中央団地のC・D・E地目)における登録調査報告

Tab. 11 ②地處 SD4 出土遺物調査表 (4) 古墳時代の陶

No	学名	種別	部位	色調	地上		備考
					葉被材	砂利の 多さ	
94	SM4	古墳	墓	褐色～ 黒褐色	外縁:灰褐色10W8/3、内面:灰白10W8/2、頂面: 灰白10W8/2	樹皮:白色地、斑状、石英、角閃石、 黑色地、赤色斑、角閃石、 白色地	4 外縁:ハケ(?)～ナード(?) 内面:樹皮のため不規則、薄面ナゲ 底径11.2cm
95	SM4	古墳	墓	下部	外縁:灰白2.5W8/2に細網、内面:灰白10W8/2 ～底部	樹皮:白色地、斑状、石英、角閃石、 黑色地、赤色斑、角閃石、 白色地	3 外縁:ハケの打ち込み感ありナード(?) (?)、内面:ハケ(?)～打ち込み感あり 結合面明瞭、薄面内面の中心が 盛り上がる。
96	SM4	古墳	墓	下部	外縁:黄褐色10W8/3、内面:灰黃褐色10W8/3 ～底部	樹皮:白色地、石英、角閃石、 黑色地、赤色斑、角閃石、 白色地	4 外縁:カーティダゾ(?)～(?)、内面:ハケ (?)～ナード(?)
97	SM4	古墳	墓	底部	外縁:灰白10W8/2、内面:灰白10W8/1、頂面: 灰白2.5W8/1	樹皮:白色地、石英、角閃石、 黑色地、赤色斑、角閃石、 白色地	4 外縁:ナード(?)～、内面:ナード
98	SM4	古墳	墓	下部	外縁:灰白2.5W8/2、内面:灰白10W8/2、 頂面:灰白2.5W8/2	樹皮:白色地、石英、角閃石、石英、 黑色地、赤色斑、角閃石、 白色地	4 外縁:ナード(?)～、内面:ナード
99	SM4	古墳	墓	底部	外縁:灰白10W8/2、内面:灰黃褐色10W8/3 ～鋸歯:灰白2.5W8/2	樹皮:白色地、石英、角閃石、 黑色地、白色地、赤色斑、 透明感	2 外縁:ナード(?)、内面:ナード(?)～ 鋸歯への接合面明瞭、薄面内面 の中心が盛り上がる。
100	SM4	古墳	墓	底部	外縁:灰白2.5W8/2、内面:灰白2.5W8/1、頂面: 灰白2.5W8/1	樹皮:白色地、石英、角閃石、 黑色地、石英、角閃石、 白色地、黑色地	3 外縁:ナード(?)～ 鋸歯への接合面の中心が盛り上がり、 隙間への接合感あり。
101	SM4	古墳	墓	底部	外縁:灰白2.5W8/1、内面:灰白10W8/2、 頂面:灰白2.5W8/2	樹皮:白色地、石英、角閃石、石英、 白色地、黑色地、角閃石、石英、 赤色斑	3 外縁:ナード(?)～、内面:ナード
102	SM4	古墳	墓	下部	外縁:灰黃褐色10W8/4、灰黃褐色2.5W8/4、内面: ～鋸歯:灰白2.5W8/4	樹皮:白色地、斑状、角閃石、白色地、 赤色斑、斑状、角閃石、石英、 白色地	3 外縁:ハケナード(?)、ヨコナード、 鋸歯内面:ハケ(?)～ナード
103	SM4	古墳	墓	底部	外縁:灰白10W8/2、内面:にぶい灰黃褐色10W8/4 ～鋸歯:灰白10W8/4	樹皮:白色地、斑状、石英、 黑色地、斑状、角閃石、 黑色地、黑色地、透明感	1 外縁:ナード(?)～、内面:ハケ(?)～打ち 込み感あり、ナード(?)～
104	SM4	古墳	墓	下部	外縁:灰白10W8/3、内面:灰黃褐色10W8/2、 ～鋸歯:灰白2.5W8/4	樹皮:白色地、角閃石、斑状、石英、 角閃石	4 外縁:カケ(?)～ナード(?)～(?)、内面: 内面スス付材、底径9.5cm ナード
105	SM4	古墳	墓	下部	外縁:灰白10W8/2、内面:灰黃褐色2.5W8/3、 ～鋸歯:灰白2.5W8/4	樹皮:白色地、石英、石英、白色地、 黑色地、斑状、角閃石、石英、 白色地	4 外縁:ハケ(?)～(?)～ナード(?)～(?)、 内面:ナード
106	SM4	古墳	墓	下部	外縁:灰白10W8/1、内面:灰黃褐色10W8/2、 ～鋸歯:灰白10W8/1	樹皮:白色地、石英、角閃石、白色地、 黑色地	3 外縁:樹脂ナード(?)～(?)～(?)、 樹脂と脚部との接合感が明瞭、 樹脂タマゴ(?)、(?)、脚部下端ナード (?)～ナード、脚部内側(?)～ナード (?)～ナード、内面:ハケ(?)～ 底径10.2cm
107	SM4	古墳	墓	M～S部	外縁:2.5W8/2、内面:灰黃褐色10W8/1、頂面: 灰白2.5W8/4に細網	樹皮:石英、白色地、斑状、石英、 角閃石、白色地	3 外縁:ハケ(?)～ナード(?)～(?)、内面: ハケ(?)～丁寧なナード、脚部内側ハケ 底径10.4cm ～ヨコナード、ズブリはハケ打ち込み感 明瞭。
108	SM4	古墳	墓	下部	外縁:灰黃褐色10W8/3、内面:灰黃褐色10W8/4、 ～鋸歯:鋸歯:灰白10W8/1	樹皮:角閃石、石英、白色地、 赤色斑、斑状、角閃石、石英、 白色地	4 外縁:ハケ(?)～ナード(?)～(?)、内面: ハケナード(?)、脚部内側ハケ (?)
109	SM4	古墳	墓	下部	外縁:にぶい2.5W8/4、内面:灰黃褐色10W8/4、 ～鋸歯:鋸歯:灰白10W8/1	樹皮:角閃石、石英、斑状、白色地 白色地	4 外縁:ハケ(?)～ナード(?)～(?)、 内面:ヨコナードナード(?)～(?)、 盛りあがり、底径8.9cm
110	SM4	古墳	墓	下部	外縁:灰白10W8/2、内面:灰白10W8/3、頂面: 灰白10W8/1	樹皮:黑色地、砂、角閃石、石英、 砂	5 内面:ナード(?)～ナード(?)～ナード(?) ヨコナード、ズブリはハケ内側ハケ (?)～ナード、ヨコナード、脚部内側 (?)～ナード、内面:ハケ(?)～ナード(?) ヨコナード、ズブリはハケ内側ハケ (?)～ナード、ヨコナード、脚部内側 ナード(?)
111	SM4	古墳	墓	下部	外縁:灰黃褐色10W8/3、内面:灰黃褐色10W8/4、 ～鋸歯:灰白10W8/2	樹皮:白色地、斑状、角閃石、石英、 角閃石、石英、石英	4 外縁:ハケ(?)～ナード(?)、内面:ハラ状 底径8.9cm
112	SM4	古墳	墓	下部	外縁:内面:灰黃褐色10W8/4、内面:灰白10W8/2、 ～鋸歯:鋸歯:灰白10W8/1	樹皮:石英、角閃石、白色地、斑状、 角閃石、石英、白色地、斑状、角閃石、 石英、白色地、白色地、斑状、 角閃石、石英	4 外縁:ハケ(?)～(?)～(?)、内面: ハケ(?)～ナード(?)
113	SM4	古墳	墓	下部	外縁:灰黃褐色10W8/3、内面:にぶい灰黃褐色10W8/4、 ～鋸歯:灰白10W8/4	樹皮:白色地、斑状、角閃石、石英、 白色地、白色地、斑状、角閃石、 石英、白色地	3 外縁:ハケ(?)～ナード(?)～(?)、内面: 内面:および外面上部スス付材、 ハケ(?)～ナード(?)

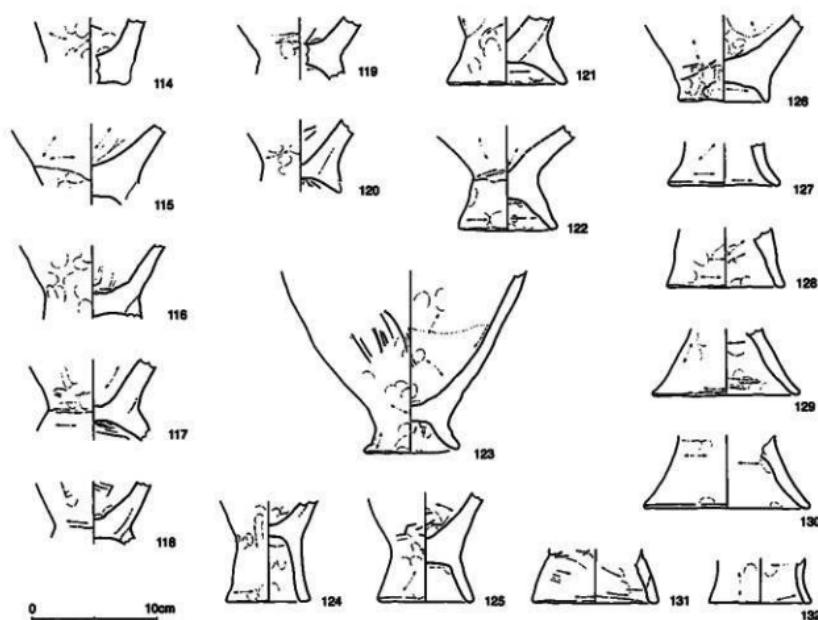
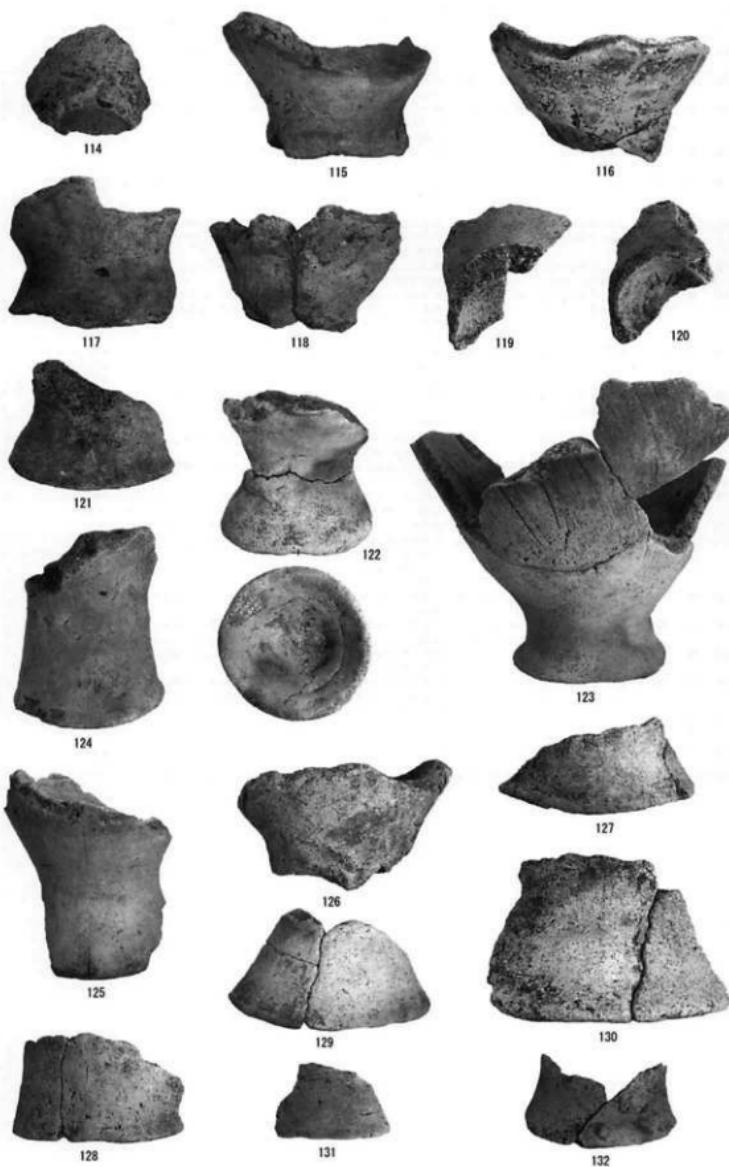


Fig.55 D地点SD4出土遺物(7) 古墳時代の甌 S=1/4



PL. 36 D地点 SD4 出土遺物写真 (8) 古墳時代の甕

付図 部分地図 K・L-5・6区（中央図書館C・D・E地点）における発掘調査報告

Tab.12 D地点SD4出土遺物観察表(5) 古墳時代の甕

No.	種別	器種	形状	色調	断面材	断面の 特徴	調査		備考
							内面	外面	
114 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約1070mm/2、内径:約黄緑7.57m/4、 脚内:約黄7.57m/1	縦切:角閃石、石英、白雲母、 横切:角閃石、石英、白色光	縦切:角閃石、石英、白雲母、 横切:角閃石、石英、白色光	4 外面:ハケ(?)一ナデ(?)一ハ	内面:ハケ一ナデ	
115 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約1070mm/2、内径:約黄7.57m/1、脚内: 約黄7.57m/1	縦切:角閃石、石英、白雲母、 横切:角閃石、石英、白色光	縦切:角閃石、石英、白雲母、 横切:角閃石、石英、白色光	4 外面:ユビオサエ-ナデ(?)一(?)、内 面:ユビオサエ-ナデ(?)、内 面:スス付着。		
116 SD4	古墳	甕	壺形下部	外径:約黄7.57m/3、内径:約黄7.57m/2、 脚内:約黄7.57m/1	縦切:角閃石、石英、白雲母、 横切:角閃石、石英、白色光	縦切:角閃石、石英、白雲母、 横切:角閃石、石英、白色光	3 外面:ナデ、内面:ハケ(?)一ナデ		
117 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約7.57m/6、内径:約7.57m/5、脚内: 約黄7.57m/2	縦切:角閃石、石英、白雲母、 横切:角閃石、石英、白色光	縦切:角閃石、石英、白雲母、 横切:角閃石、石英、白色光	2 外面:ナデ(?)一(?)一ユビオサエ、内面:底定径部:9.6m、 ナデ(?)一ハケ(?)一(?)打ち 込み痕あり。		
118 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約黄7.57m/3に膨らむ、内径:約黄7.57m/ 7.5、脚内:約白7.57m/2	縦切:白色光、灰色光、横切:石英、 灰岩、砂、石英、白雲母、 横切:透明	縦切:白色光、灰色光、横切:石英、 灰岩、砂、石英、白雲母、 横切:透明	4 外面:ナデ(?)一ナデ(?)一ナデ(?)、内面:ハ ナデ(?)一ナデ(?)、内 面:脚部への接合痕明瞭、 (?)一ユビオサエ-ナデ(?)。		
119 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約5.5、高さ約1070mm/3、内径:約黄7.57m/ 5.5、脚内:約白7.57m/2	縦切:出筋、角閃石、石英、 横切:角閃石、石英、白雲母、 砂:	縦切:出筋、角閃石、石英、 横切:角閃石、石英、白雲母、 砂:	5 外面:ナデ(?)、内面:ハケ(?)一ナデ 内面スス付着。		
120 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約白7.57m/2、内径:約黄7.57m/2に膨らむ、 脚内:約白7.57m/2	縦切:石英、灰色光、白色光、砂、 砂:	縦切:石英、灰色光、白色光、砂、 砂:	2 外面:ユビオサエ-ナデ(?)、内面:ハ 定径部:6.6m、 ケ(?)一打ち込み痕あり。		
121 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約5.5、高さ約1070mm/3、内径:約5.5、高さ 1070mm/3、脚内:約黄7.57m/2	縦切:白色光、灰色光、横切:石英、 灰岩、砂、石英、白雲母、 横切:白色光、角閃石、石英、 砂:	縦切:白色光、灰色光、横切:石英、 灰岩、砂、石英、白雲母、 横切:白色光、角閃石、石英、 砂:	3 外面:ナデ(?)一ナデ(?)一(?)、 内面:ナデ(?) 底定径部:9.6m		
122 SD4	古墳	甕	壺形下部	外径:約2.57m/2、内径:約黄7.57m/1、 脚内:約黄7.57m/1	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 石英、砂:	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 石英、砂:	3 外面:ナデ(?)一(?)一(?)一ユビオサエ、底径:7.9m 内面:ナデ(?)		
123 SD4	古墳	甕小付	壺形	外径:約黄7.57m/2、内径:約白7.57m/2、脚内: 約黄7.57m/1	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 石英、白雲母、石英、砂:	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 石英、白雲母、石英、砂:	4 外面:ハケ(?)一ナデ(?)一(?)、内面:内面下部スス付着、底径:7.7m、 ナデ(?)一(?)		
124 SD4	古墳	甕	壺形下部	外径:約2.57m/2、内径:約黄7.57m/2、脚内: 約黄7.57m/1	縦切:角閃石、石英、角閃石、 角閃石:	縦切:角閃石、石英、角閃石、 角閃石:	4 外面:ハケ(?)一ナデ(?)一(?)、内面:底径:6.7m、 ナデ		
125 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約5.5、高さ約1070mm/4、内径:約黄7.57m/4、 脚内:約白2.57m/1	縦切:白色光、灰色光、砂、石英、 砂:	縦切:白色光、灰色光、砂、石英、 砂:	3 外面:ユビオサエ-ハケの打ち込み痕、外側:一部赤色顔料が付着、底径 6.7m、内面:ハケ(?)一(?)、 内面スス付着。		
126 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約黄7.57m/2、内径:約5.5、高さ約1070mm/ 2.57、脚内:約2.57m/1	縦切:砂、角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	縦切:砂、角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	3 外面:ユビオサエ-ナデ(?)、内面:エ ヘラ状工具による軋突痕あ り、内面:コツ割があり、底径:7.0m、 内面スス付着。		
127 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約白2.57m/2、内径:約黄7.57m/4、脚内:砂 砂:	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	3 外面:ナデ(?)一(?)、内面:ナデ(?)、底径:8.8m、 透明		
128 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約黄7.57m/4に膨らむ、内径:約黄 7.57m/4に膨らむ、脚内:約黄7.57m/4に膨 らむ	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	3 外面:ユビオサエ-ナデ(?)一(?)、内 面:ユビオサエ-ハケ(?)一ナデ(?)、 内面スス付着。		
129 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約白2.57m/2、内径:約黄7.57m/1、脚内:約白 7.57m/1	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	4 外面:ナデ(?)一(?)、内面:ナデ(?)一(?)、 底径:11.6cm		
130 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約黄7.57m/2、内径:約5.5、 7/4に膨らむ、脚内:約黄7.57m/6	縦切:白色光、角閃石、石英、砂、 砂:	縦切:白色光、角閃石、石英、砂、 砂:	4 外面:ユビオサエ-丁寧なナデ(?)、脚部への接合痕明瞭、底径:13 cm、内面:丁寧なナデ(?)一(?)、 内面スス付着。		
131 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約5.5、高さ約1070mm/3、内径:約白7.57m/2 7/4、脚内:約白7.57m/6	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	3 外面:ハケ(?)一ナデ(?)一(?)、 底径:10.0cm、 内面:ナデ(?)一(?)		
132 SD4	古墳	甕	壺形	外径:約5.5、高さ約1070mm/3、内径:約黄7.57m/2 7/4、脚内:約白7.57m/6	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	縦切:角閃石、石英、砂、角閃石、 砂:	4 外面:ハケ一ナデ(?)、内面:ナデ(?)一(?)、底径:8.9cm		

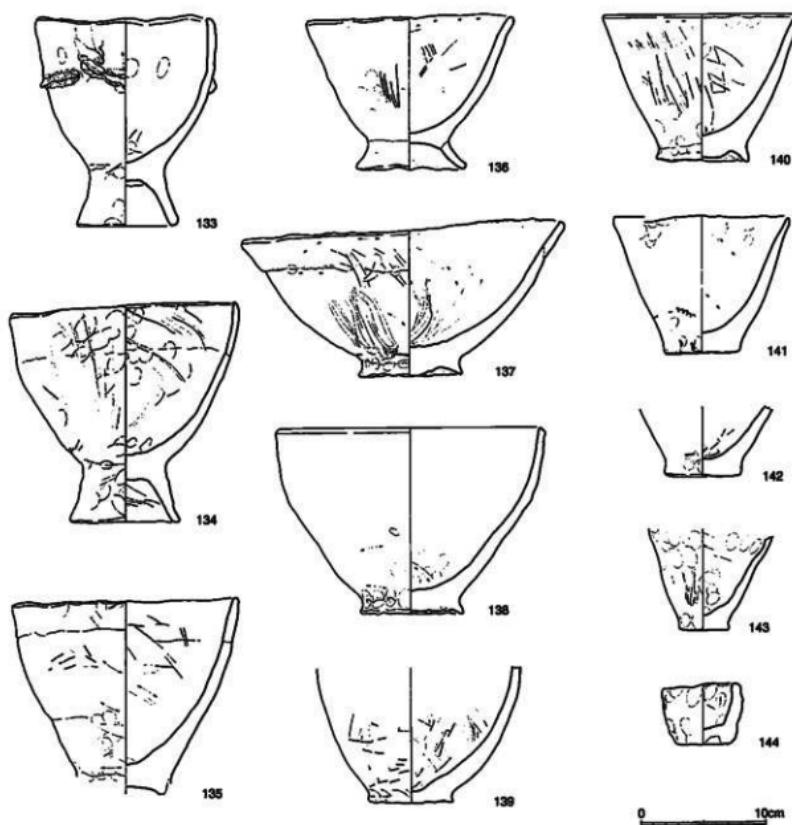
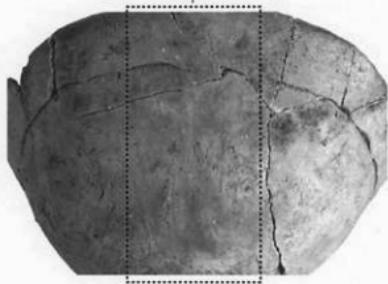
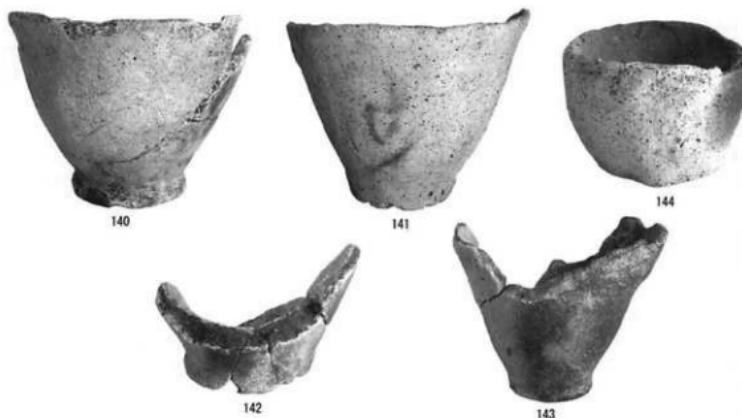


Fig. 56 D地点 SD4 出土遺物 (8) 古墳時代の鉢 S=1/4





PL. 38 D地点SD4出土遺物 (10) 古墳時代の鉢

Tab. 13 D地点SD4出土遺物観察表 (6) 古墳時代の鉢

番号	種別	器種	部位	色調	鉢土		調整	備考
					泥和材	砂利の 多さ		
133 SD4 古墳 台付鉢 完形	外面: 深黄褐色7.0BB/6, 内面: 深黄褐色7.0BB/6, 器内: 黄褐色10BB/3.	磚: 黑色粒, 石英, 白色粒, 相鉛: 黑色粒, 石英, 白色粒, 角閃石, 硫酸: 角閃石, 石英	5	外面: ナゲ・ヨコナゲ, 内面: ナゲ(+) 基礎突起1条, 表面, 受け土より上部にスズ付, 口径14.0cm, 高さ8.6cm, 器高16.2cm				
134 SD4 古墳 台付鉢 完形	外面: 深黄褐色7.0BB/6, 内面: 深黄褐色7.0BB/6, 器内: 深黄褐色7.0BB/6, 2	磚: 黑色粒, 白色粒, 角閃石: 角閃石, 白色粒, 黄褐色, 白色粒, 角閃石: 角閃石, 白色粒, 黄褐色, 白色粒, 石英, 白色粒	5	外面: 制作ハケ(+)・ナゲ(+)・1層 部: ハケ(+)・ナゲ(+)・1層, 内面: ハケ(+)・ナゲ(+)・1層, 器台部ナギ				
135 SD4 古墳 鉢	外縁: 暗7.0BB/6, 内面: 暗7.0BB/6, 器内: 暗7.0BB/6, 3	磚: 黑色粒, 角閃石: 白色粒, 石英, 角閃石: 白色粒, 黄褐色, 角閃石: 角閃石, 黄褐色, 白色粒, 石英, 黄褐色	3	外面: ハケ(+)・1層(+)・ナゲ(+)・1層, ハケ(+)・ナゲ(+)・1層				
136 SD4 古墳 台付鉢 完形	外面: 深黄褐色7.0BB/6, 内面: 深黄褐色7.0BB/6, 器内: 深黄褐色7.0BB/6, 2	磚: 黑色粒, 角閃石: 白色粒, 角閃石: 角閃石, 黄褐色, 白色粒, 角閃石, 黄褐色, 白色粒, 黄褐色	2	外面: ナゲ(+)・1層(+)・ナゲ(+)・1層, 内面: 黄褐色砂岩, 角閃石, 黄褐色砂岩, 角閃石(?)もしくは丁寧なナゲ(?)				
137 SD4 古墳 台付鉢 完形	外面: 深黄褐色7.0BB/6, 内面: 深黄褐色7.0BB/6, 器内: 深黄褐色7.0BB/6, 1	磚: 黑色粒, 角閃石, 石英, 白色粒, 角閃石: 角閃石, 黄褐色, 角閃石: 角閃石, 黄褐色, 角閃石, 黄褐色	3	外面: ナゲ(+)・ヨコナゲ, ハラ工具によるナゲ, 内面: ナゲ(+)・ハラ工具によるナゲ, 器台接合部2箇所破が断着, ハラ工具によるナゲ(?)				
138 SD4 古墳 鉢	外縁: 暗7.0BB/6, 内面: 暗7.0BB/6, 器内: 深黄褐色7.0BB/6, 3	磚: 黑色粒, 角閃石: 黄褐色, 角閃石: 角閃石, 黄褐色, 白色粒	2	外面: ナゲ(+)・1層(+)・ナゲ(+)・1層, 調整は整削用に精工を付けて, 平底に仕上げている, 口径21.4cm, 高さ8.2cm, 器高14.4cm, 制作に精緻(?)あり。				
139 SD4 古墳 鉢	胴部～外面: 深黄褐色7.0BB/6, 内面: 深白10BB/2, 肩部: 器内: 暗7.0BB/7, 1	磚: 黑色粒, 角閃石: 角閃石, 黄褐色	2	外面: ハケ(+)・ナゲ, 肩部はナゲ・ヨコナゲ, 内面: ハケ(+)・ナゲ				
140 SD4 古墳 台付鉢 完形	外面: 深黄褐色7.0BB/6, 内面: 深黄褐色7.0BB/6, 器内: 暗7.0BB/6, 1	磚: 黄褐色, 白色粒, 黑色粒, 角閃石: 角閃石, 黄褐色, 角閃石: 角閃石, 黄褐色, 角閃石: 角閃石, 黄褐色	5	外面: ハケ(+)・ナゲ・ヨコナゲ, 内面: 11壁14.6cm, 高さ7.3cm, 器高11.3cm				
141 SD4 古墳 鉢	外縁: 深黄褐色7.0BB/6, 内面: 深白10BB/1, 器内: 暗7.0BB/7, 2	磚: 黑色粒, 角閃石, 黄褐色, 角閃石: 角閃石, 黄褐色, 角閃石: 角閃石, 黄褐色	3	外面: ナゲ, 内面: ナゲ(+) 外縁に剥落あり, 口径13.9cm, 高さ8.9cm, 器高10.7cm				
142 SD4 古墳 鉢	胴部～外縁: 深黄褐色7.0BB/6, 内面: 深黄褐色7.0BB/6, 器内: 暗7.0BB/7, 1	磚: 黑色粒, 角閃石, 白色粒, 角閃石: 角閃石, 白色粒, 角閃石: 角閃石, 白色粒	4	外面: ハケ(+)・ナゲ, 内面: ハケ(+)・ナゲ				
143 SD4 古墳 鉢	胴部: 外面: 黄褐色5.5BB/1, 内面: 黄褐色5.5BB/1, 器内: 黄褐色2.5BB/1	磚: 黄褐色, 角閃石, 黄褐色, 角閃石: 角閃石, 白色粒, 角閃石: 角閃石, 白色粒	3	外面: ナゲ・ハラ(?)によるナゲ, 内面: 低径4.0cm, ハケ(?)・ナゲ(?)				
144 SD4 古墳 手付鉢 上器	外縁: 深白10BB/1, 内面: 深白2.5BB/1, 器内: 白色粒, 角閃石: 角閃石, 白色粒, 角閃石: 角閃石	磚: 白色粒, 角閃石: 角閃石, 白色粒, 角閃石	4	外面: ナゲ・ヨコナゲ, 内面: ナゲ(+)・1層(+)・ヨコナゲ, 低径4.5cm, 高さ4.8cm				

壺は、有文と無文のものがある。有文のタイプは、大型品が多い。145～147は同一個体であると推定される。口縁部は湾曲しながら開き、頸部に2条の刻目突帯を施す。刻みには、布目圧痕が認められる。146は胴部片で、幅広突帯を1条めぐらす。突帯には、斜めの沈線文が施されている。147は胴部下半だが、レンズ状に膨らむ底部を有する。148は口縁部が欠損しているが、頸部突帯が1条である以外は、サイズやプロポーションが145～147に類似する。

149から152は胴部が丸いプロポーションのものである。149・150は突帯の種類は異なるが、口縁部形態は口縁端部が少し太い特徴など、よく類似している。149の突帯の施文は指による刻み目、151は竹管文によるもの、152はヘラ描きによる斜格子文、150は刻目に布目圧痕が認められ、それぞれに異なっている。

153は1条の絡繩突帯を施し、更と同様に端部をずらしている。179は頸部に絡繩突帯を1条施す。43・46は胴部最大径付近に、ヘラ描きによって大きな×文を横方向に並べている。153～156は最大径が25cm以下で、中型タイプといってよい。

無文のものは、有文の大型品に比べると、口縁部が短く、細長いプロポーションを呈するものが多い。サイズによって、器高が40cm弱のもの（157～166）と30cm前後のもの（169～176）、25cm前後のもの（177～179）に分けることができる。前二者は、プロポーションや器面調整が大変類似している。また、調整はあまり丁寧ではなく、粘土接合線や補修痕が認められるほか、口縁部端部もゆがんでいたり、外面にケズリ痕が明瞭に残っているものもある。このタイプの中で、167は口縁部のみの破片だが、頸部内面にススが付着している。肩部接合部で欠損したと考えられ、破片はドーナツ状の形態を呈しているので、割れた後、転用した結果、付着したものと考えられる。159・161・166には、胴部外面にはススが付着しており、161は底部付近外表面が赤変していることからも、煮沸具として使用されたことがわかる。

177～179は無文だが、球状の胴部形態を呈し、底部は上げ底気味の平底である。178は外面に赤色顔料が塗布され、細かいミガキが施されている。他の土器も、つくりは比較的丁寧である。177と178は、底部が欠損しているが、177は内面から力を加えたと考えられる割れ方で、両者とも意図的に穿孔されたと思われる。

180～192は壺の底部である。181は、平底の底面に植物の圧痕が認められる。

⑤ 埋 (Fig. 64, PL. 46, Tab. 18)

193～197は埋である。193は完形品で、外面には赤色顔料が塗布され、主に横方向のミガキが施されてた精緻なつくりのものである。195は底部が厚く、立ち上がりの傾斜も弱いので、若干大きいサイズものと推定される。197は、胴部最大径付近に5条の並行細沈線によって、鋸歯文が施されている。

⑥ 高杯 (Fig. 65, PL. 47・48, Tab. 19)

高杯は、口径20cm前後で、外面に赤色顔料が塗布され、ミガキが施されているものがほとんどである。杯部形態は、屈曲部から直線的に開くもの（198～201）と内湾気味に立ち上がる形態（202～205）の2つに分けることができるが、それぞれの差異はあまり明瞭ではない。202は、杯部内面全面に赤色顔料が塗布されているが、ミガキは施されていない。なお、内面に顔料滴がはねて付着した痕跡が認められる。

脚部は、上半部は棒状で、下半部がスカート状に広がる形態を呈する。脚部のミガキの方向は、横方向のものが多い（201・204・207・208・210・212）。213は、壺部は欠損しているが、広がり部分が4つに分岐する形態を呈する。須恵器高杯の模倣とも考えられる。脚部は、杯部との接合痕で欠損したものが多く、接合面を明瞭に残している（206～210・212・213）。

203は、唯一赤色顔料が塗布されていないもので、器壁も厚く、粗雑なつくりのものである。

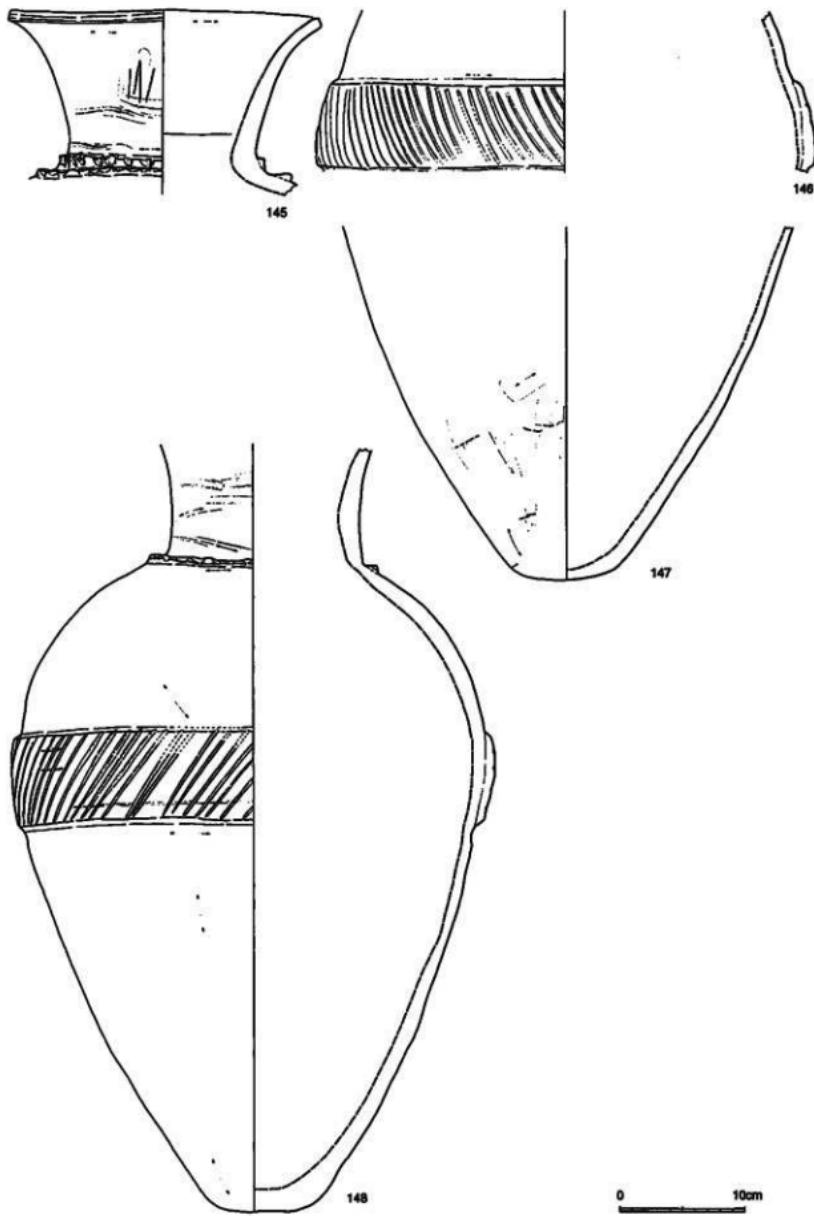
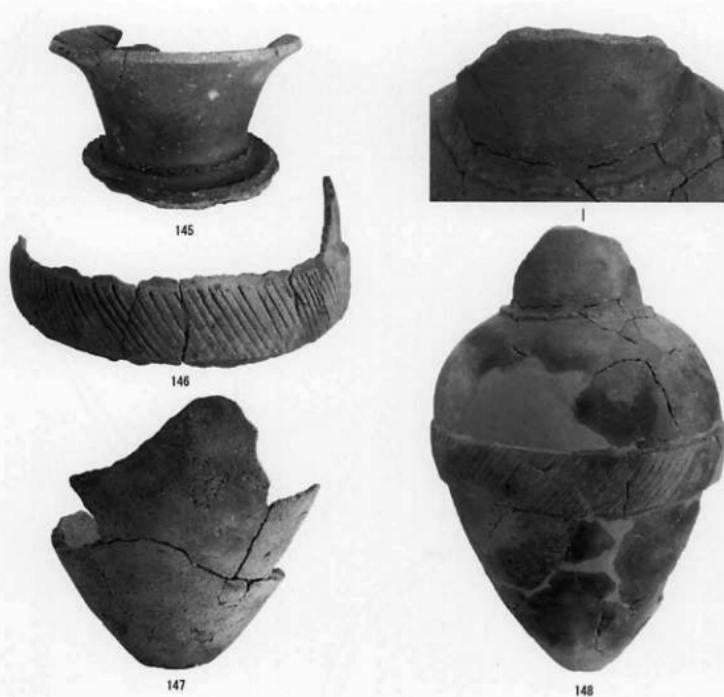


Fig.57 D地点 S04 出土遺物 (9) 古墳時代の壺 S=1/4



Pl. 39 D地点 SD4 出土遺物(11) 古墳時代の壺

Tab. 14 D地点 SD4 出土遺物観察表(7) 古墳時代の壺

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
						混和材	砂粒の 多さ		
145	SD4	古墳	壺	口縁部	外面:明赤褐色2, 深赤褐色6, 内面:暗赤褐色6, 器肉:	褐色:白色粒, 赤色粒, 粗砂:白色 ~瓶部 黄褐色2, 深褐色1	3	外面:ナデ(ー)(ー), 内面:ナデ(ー), 瓶部に割目突堤2条, 数箇所に布 り压痕が残る, 口径:24.4cm	
146	SD4	古墳	壺	側面	外面:褐色2, 深褐色6, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:	褐色:白色粒, 粗砂:角閃石, 石英, ~瓶部 灰白10YR8/2	4	外面:ナデヨコナゲ, 内面:全面剥落 壁広穴突起1条, 目め平行文を施す ため調整不明。	145と同一側体の側面最大絶縁3.2m
147	SD4	古墳	壺	側面	外面:褐色2, 深褐色6, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:	褐色:白色粒, 粗砂:角閃石, 石英, ~瓶部 灰白10YR8/2	4	外面:ハケ(ー)ナゲ(ー), 内面:全面 145と同一側体か。 剥落のため調整不明	
148	SD4	古墳	壺	底部	外面:明赤褐色2, 深赤褐色6, 内面:明赤褐色2, 深赤褐色6, 器肉:明赤褐色2, 深赤褐色6	褐色:白色粒, 黑色粒, 深色粒, 粗 砂:白色粒, 黑色粒, 石英, 角閃 石, 砂:白色粒, 黑色粒, 石英, 角閃石, 粗砂:白色粒, 黑色粒	2	外邊:ナデ(ー)(ー)(ー), 黒斑あり。 瓶部:剥目突出1条。 瓶部:幅広 内面:剥落。	~形状工具により引め平行文 を施す(ー), 瓶部縦:36cm, 瓶部 径:19.7cm, 器高(現存):40cm

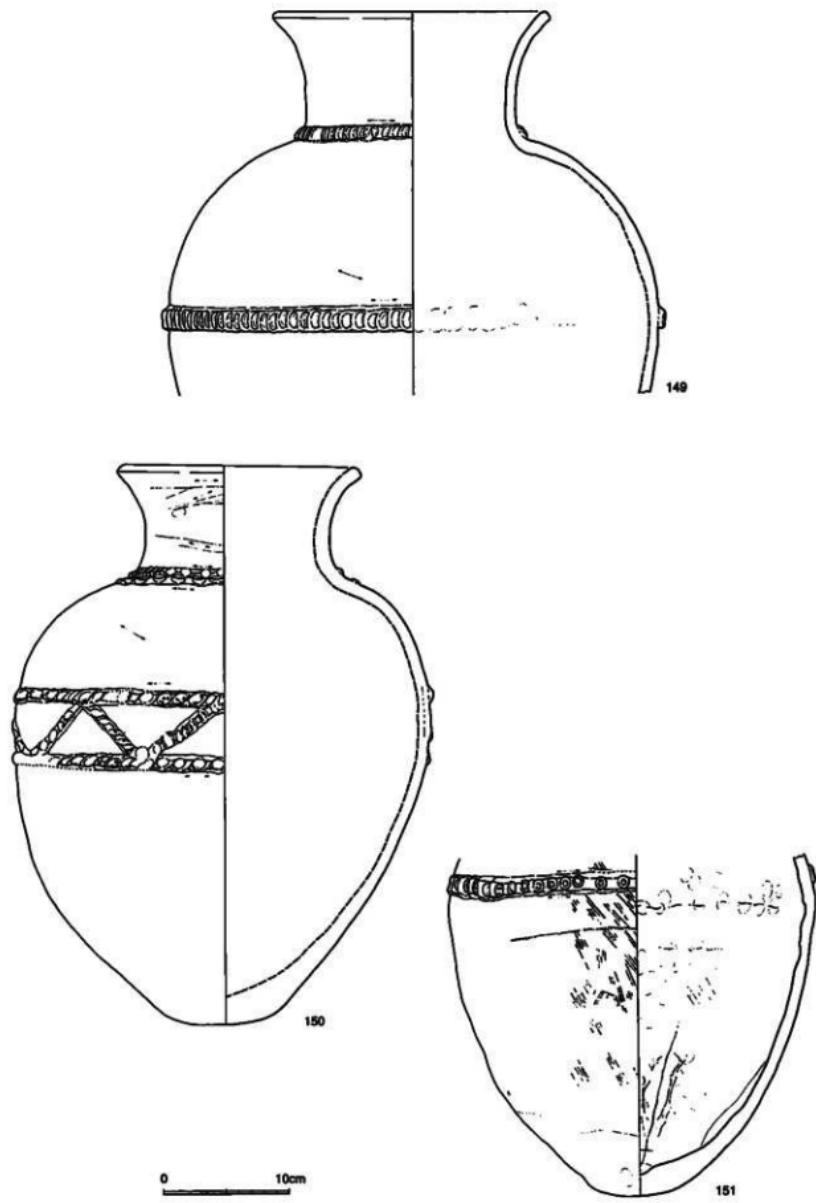


Fig.58 D地点 SD4出土遺物(10) 古墳時代の壺 S=1/4



149



150



151



PL.40 D地点 SD4 出土遺物(12) 古墳時代の壺

Tab.15 D地点 SD4 出土遺物観察表(8) 古墳時代の壺

No.	層別	器種	部位	色調	船上		鉢の 多様	調整	備考
					蓋和材	鉢身			
149	SD4	古墳	壺	口部部 外面: 橙5187/6, 内面: 橙5188/4, 壺内: 淡褐 ～褐色 5188/4	褐; 灰石, 白色粘, 錫砂; 石英, 白色粘, 角閃石, 錫砂; 角閃石, 白色粘。鉢底最大径約 28.4cm。	3	外表面: ナゲ(△) + ヨコナゲ。内表面: ナゲ 頭部にナゲ(△)、頭部に委母(△) ともに指屈縮の文様を有す。 口徑 22.0cm		
150	SD4	古墳	壺	完全 外面: にい(黄壁)10186/4, 内面: 橙7.5187/6, 蓋面: 橙7.5187/6	褐; 橙石, 黑色粘, 錫砂; 黑閃石, 石英, 白色粘, 錫砂; 角閃石, 石英, 白色粘, 錫砂	4	外表面: 白眉部ヨコナゲ, 口縁部ナゲ(△) (△), 脚部ナゲ(△) + ヨコナゲ, 内面: 実際の漆絞けで、その間にハヘの字 全面割落のため調整不明	口付付近2.2cm、脚部、刻目 が残る。太底が著しいため頂上 復元。口径 22cm。 推定底径 43.6cm、底径 6.0cm。	
151	SD4	古墳	壺	頭部～ 外面: 淡黃橙10188/4, 内面: 橙7.5187/6, 壺内: 褐; 底部: 淡灰10186/1	褐; 石英, 小赤色, 錫砂; 石英, 小赤色, 角閃石, 黑色粘, 錫砂; 石英, 角閃石, 白色粘。鉢底最大 径 28.8cm。	4	外表面: ヨイハケ(△) (△) → ナゲ, ヨコ ナゲ。内面: ハケ(△) → ナゲ	船形突唇1枚、竹管文を有す(竹 管径 0.9cm, 内径 0.6cm)。外側の 口は全面にスヌ付着。底径 6.0cm 内面に補修用の漆絞付箋 4箋。	

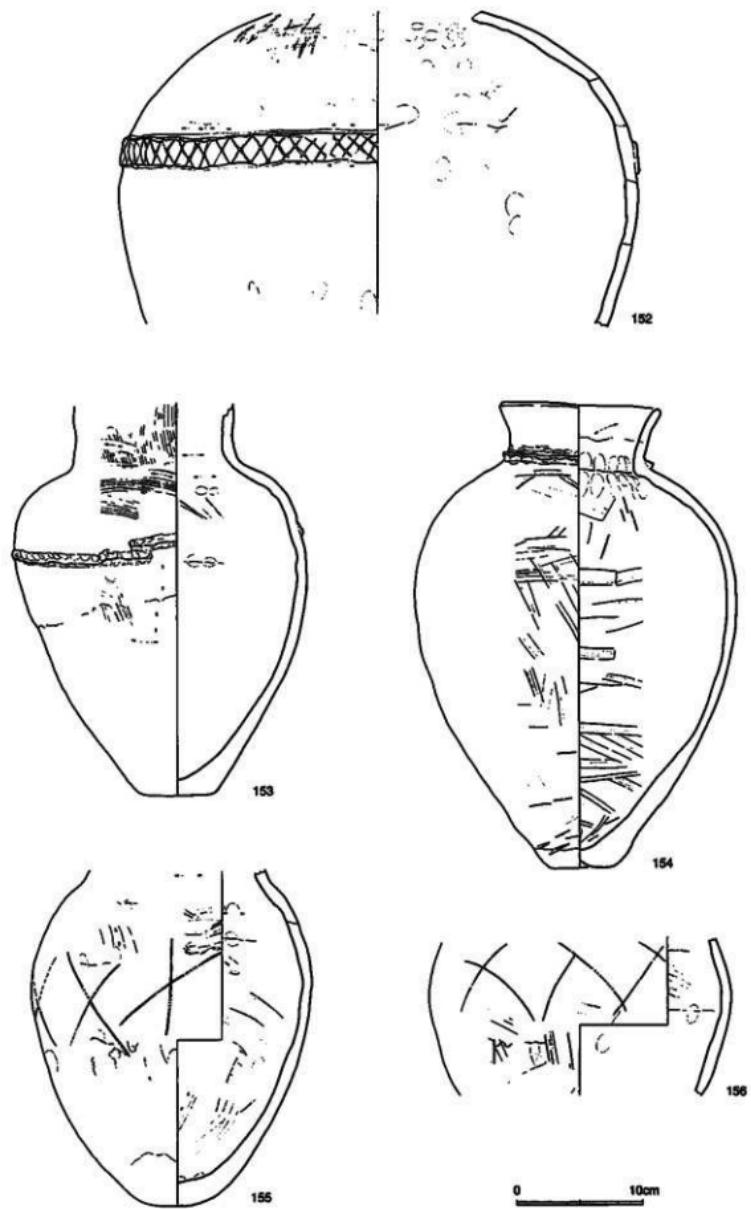


Fig.59 D地点SD4出土遺物(11) 古墳時代の壺 S=1/4



152



153



154



156



155

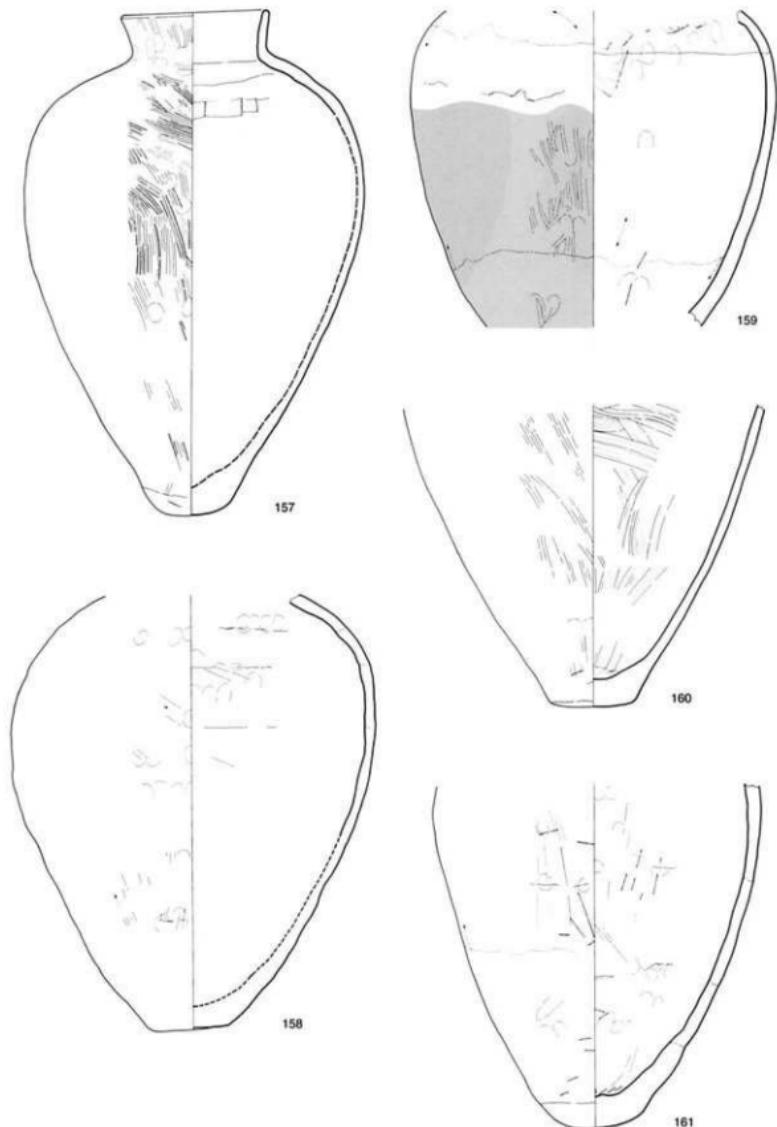
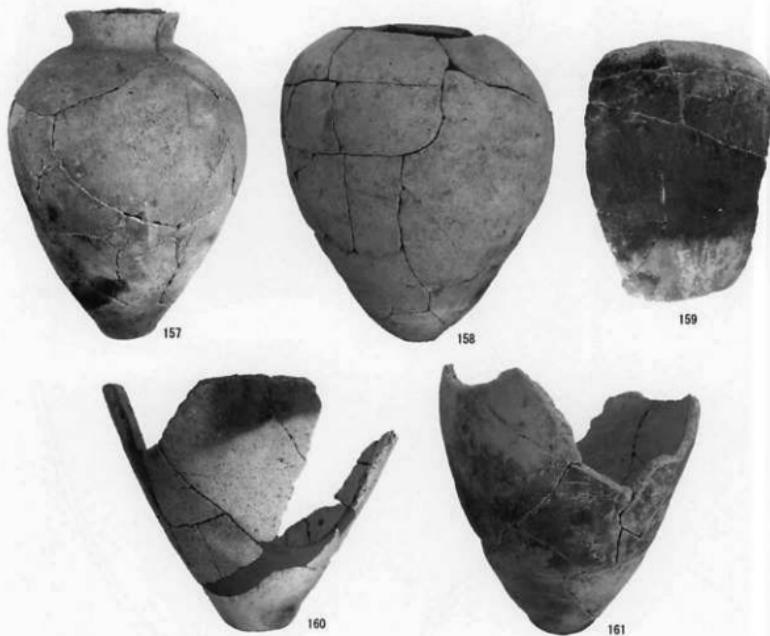


Fig.60 D地点SD4出土遺物(12) 古墳時代の壺 S=1/4



PL. 42 D 地点 SD4 出土遺物(14) 古墳時代の壺

Tab. 16 D 地点 SD4 出土遺物觀察表(9) 古墳時代の壺

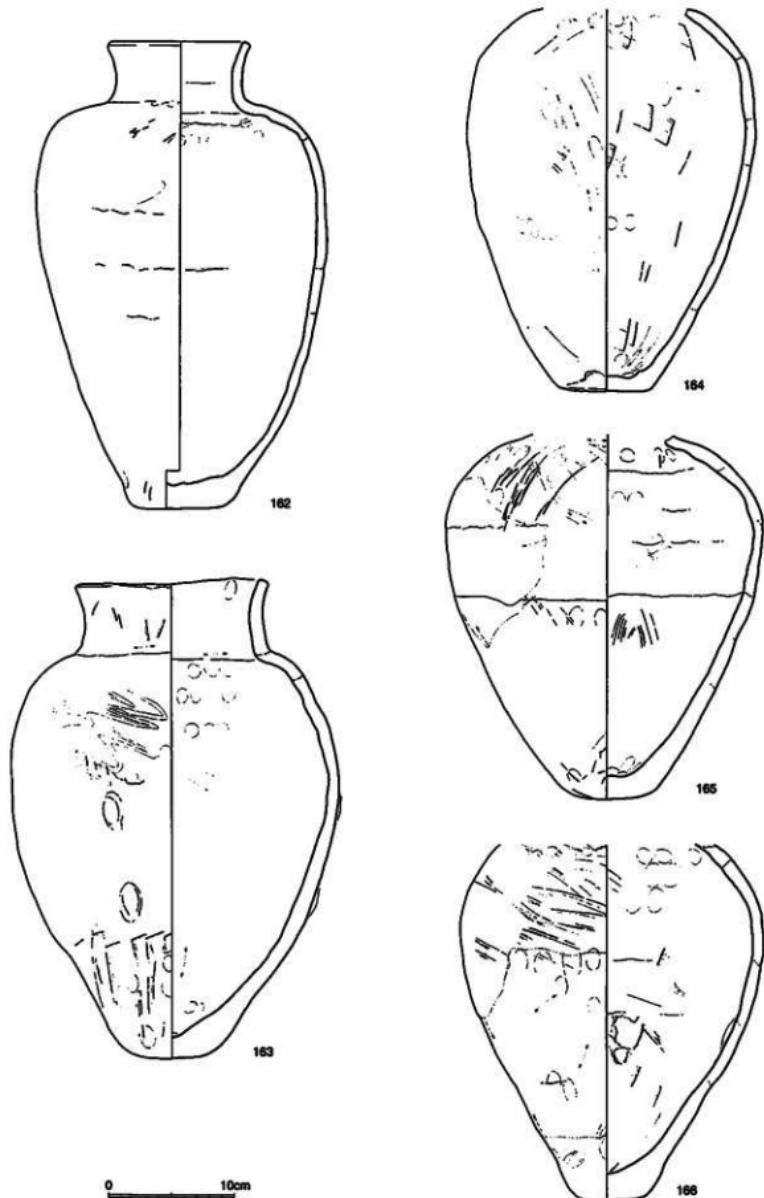


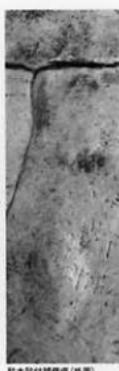
Fig. 61 D地点 SD4 出土遺物(13) 古墳時代の壺 S=1/4



162



163



粘土貼付焼物底(外面)



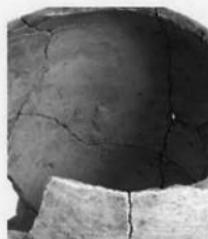
164



165



166



粘土貼付焼物底(内面)

PL.43 D地点SD4出土遺物(15) 古墳時代の壺

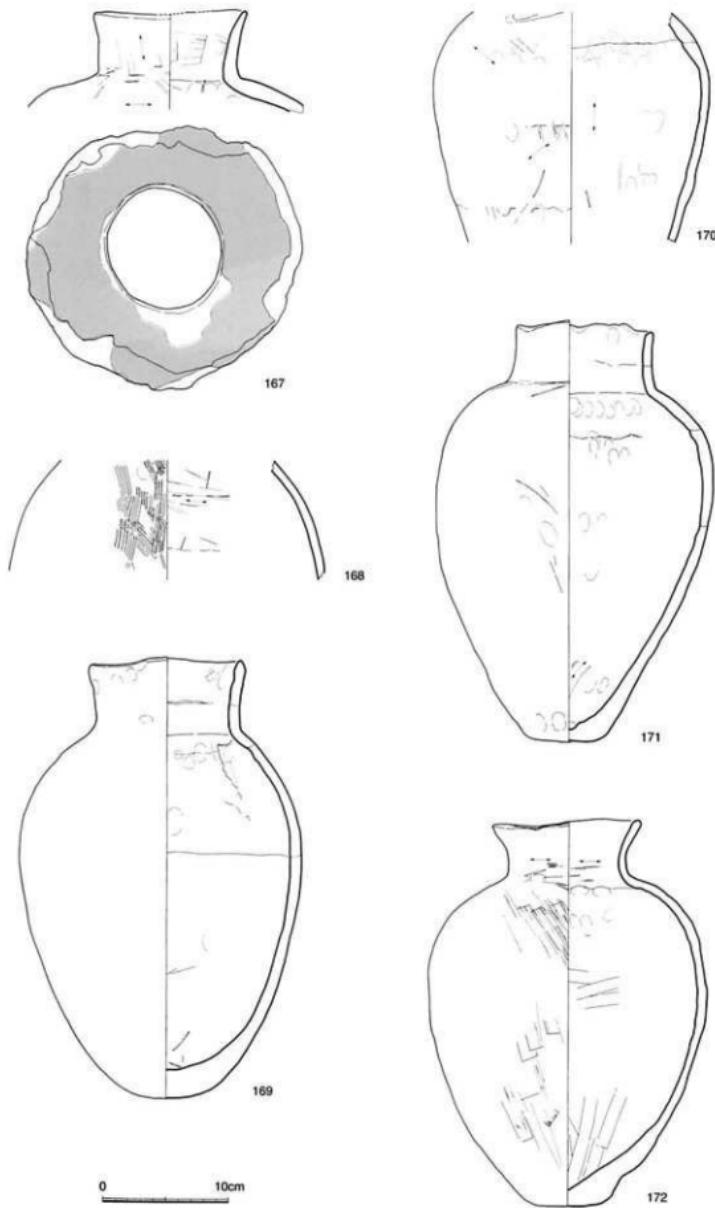


Fig. 62 D 地点 SD4 出土遺物(14) 古墳時代の壺 S=1/4



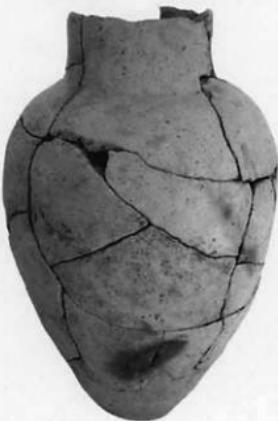
167



170



168



171



169



172

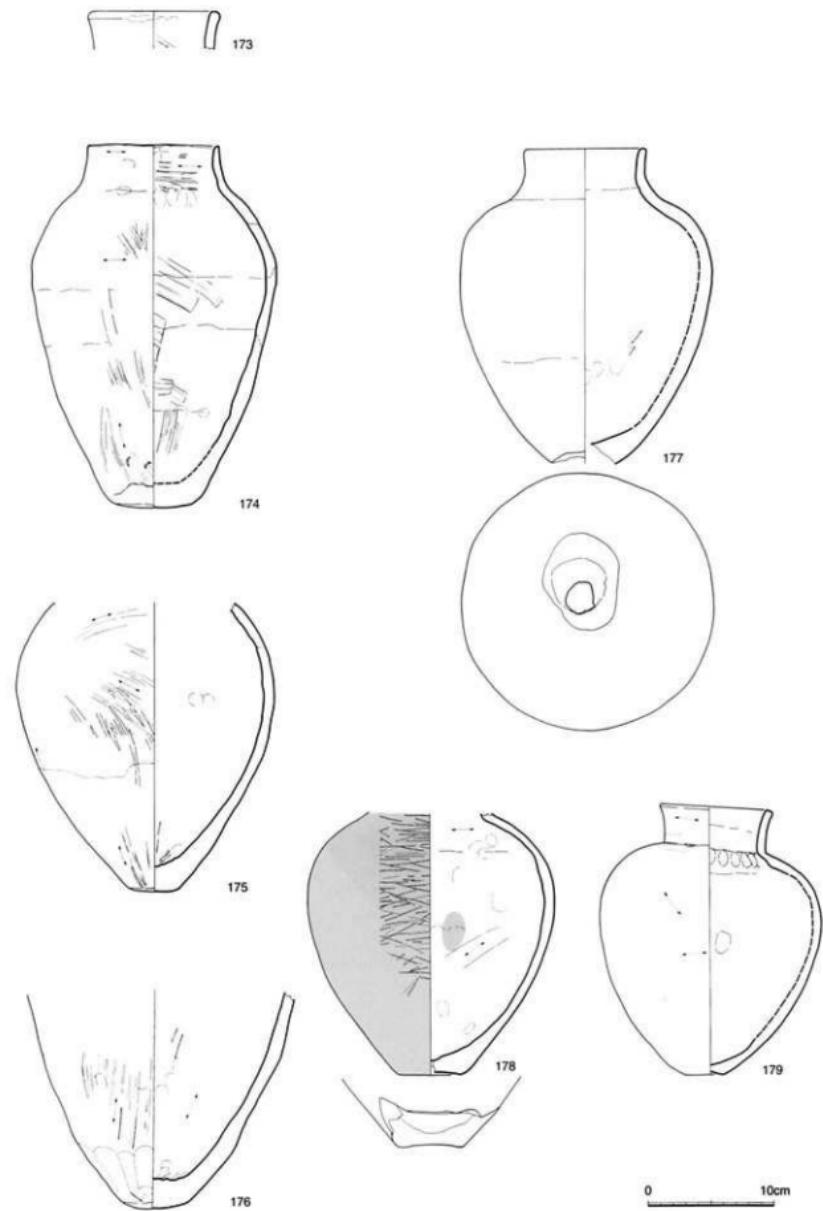
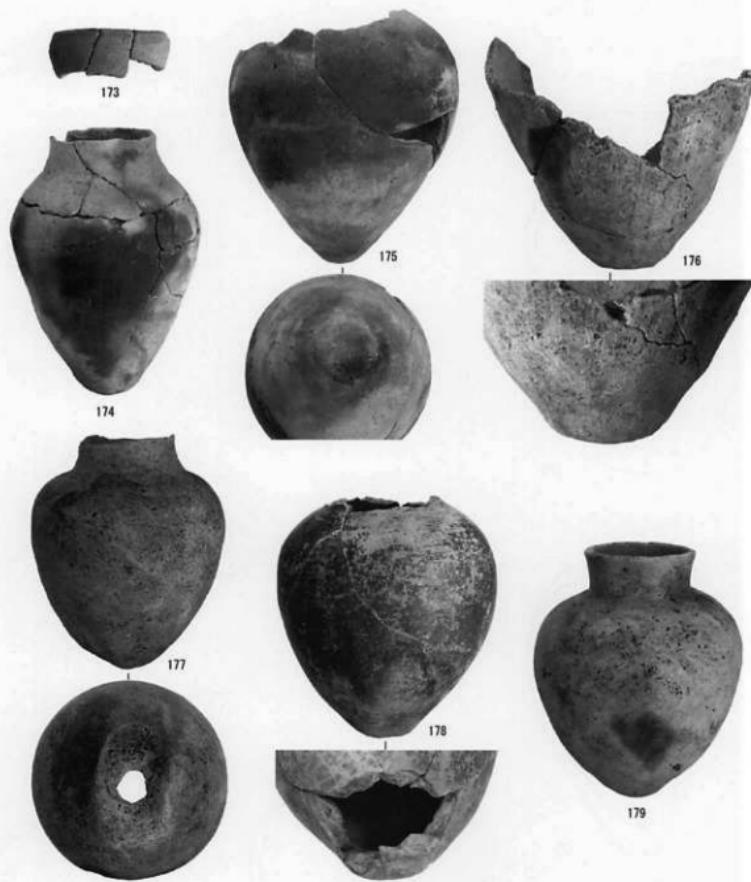


Fig. 63 D地点SD4出土遺物(15) 古墳時代の壺 S=1/4



PL. 45 D 地点 SD4 出土遺物(17) 古墳時代の壺

付録 都元町地 K・L・5・6 区（中央図書館 C・D・E 地点）における発掘調査報告

Tab. 17 D 地点 SD4 出土遺物観察表(S) 古墳時代の壺

品種	形態	器種	年代	色調	断面		調査	備考
					基材	器物の 多さ		
162 SB4 古墳 未定	外底: 深黄褐色、表面無釉、内底: 深黄褐色	3	陶土	褐色、深褐色、黑色、白色、青色、	3	外底: ハケ~ナデ、内底: ナデ	口径11.4cm、器高30.3cm、	
	器内: 黄褐色			角閃石、石英、白色斑、单色灰、			底径7.8cm、底盤最大径22.8cm、	
163 SB4 古墳 未定	外底: 深黄褐色、表面無釉、内底: に赤い黄褐色	3	陶土	褐色、石英、角閃石、单色灰、	3	外底: 口縁部ハケ(一)~ナデ(一)、	外底に補修用の泥地塗り付けを	
7/4、器内: 黄褐色	器内: 石英、角閃石、单色灰、			单色灰、单色灰、		脚部ハケ(一)~ナデ、底盤ハケ(一)	2箇所に施す。	
164 SB4 古墳 未定	脚部~ 外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色	4	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	4	外底: ハケ(一)~ナデ(一)、	口径11.4cm、器高30.3cm、	
底盤 8/4 に粗粒、器内: 深黄褐色/2に粗粒、	白化斑、单色灰、			白化斑、单色灰、单色灰、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	口縁付のみ、使用時の付合	
165 SB4 古墳 未定	脚部~ 外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色/2	2	陶土	褐色、石英、单色灰、单色灰: 石英	2	外底: ハケ(一)~ナデ(一)、	脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	
底盤 8/4 に粗粒、器内: に赤い黄褐色	单色灰、单色灰、			角閃石、白色斑		脚部ハケ(一)~ナデ	脚部付のみ、底盤全体に付合	
166 SB4 古墳 未定	脚部~ 外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色/2	4	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	4	外底: ハケ(一)~ナデ(一)、	脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	
底盤 8/4 に粗粒、器内: 深黄褐色/2に粗粒、	白化斑、单色灰、单色灰、			单色灰、单色灰、单色灰、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	脚部付のみ、底盤全体に付合	
167 SB4 古墳 未定	外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: に赤い	2	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	2	外底: 口縁部ハケ(一)~ナデ(一)、	脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	
~粗粒、器内: 深黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色/2	白化斑、单色灰、			白化斑、角閃石、单色灰、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	脚部付のみ、底盤全体に付合	
168 SB4 古墳 未定	脚部~ 外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色/2	2	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	2	外底: ハケ(一)~ナデ(一)、	外底にスミ付見、内底に補修用の	
底盤 8/4 に粗粒、器内: 深黄褐色/2	白化斑、单色灰、			单色灰、角閃石、白色斑、		泥地塗り付けあり、底盤最大径22.8cm、		
169 SB4 古墳 未定	外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色/2	3	陶土	褐色、角閃石、单色灰、	3	外底: ナデ、内底: ハケ(一)~ナデ	底盤付のみ、底盤全体に付合	
底盤 8/4 に粗粒、器内: 深黄褐色/2	白化斑、单色灰、单色灰、			角閃石、石英、白色斑、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	スミ付見、中央部付下方に分割	
170 SB4 古墳 未定	脚部~ 外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色/2	3	陶土	褐色、角閃石、单色灰、	3	外底: ハケ(一)~ナデ(一)、	直径最大径25.6cm、	
脚部下端 7.8cm/1	白化斑、单色灰、			单色灰、石英、单色灰、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、		
171 SB4 古墳 未定	外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色/2	3	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	3	外底: ハケ(一)~ナデ(一)、	底盤付のみ、底盤全体に付合	
7/3、器内: 深黄褐色/2	白化斑、单色灰、			角閃石、石英、单色灰、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	スミ付見、底盤全体に付合	
172 SB4 古墳 未定	外底: に赤い黄褐色/2に粗粒、内底: に赤い黄褐色	4	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	4	外底: 口縁部ナデ(一)、脚部ハケ(一)、	底盤付のみ、底盤全体に付合	
6/4、器内: 深黄褐色/2	白化斑、单色灰、单色灰、			单色灰、角閃石、石英、单色灰、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	スミ付見、底盤全体に付合	
173 SB4 古墳 未定	外底: に赤い黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色	2	陶土	褐色、角閃石、石英、角閃石、	2	外底: ナデ、内底: ハケ(一)~ナデ	底盤付のみ、底盤全体に付合	
7/3、器内: 深黄褐色/2	白化斑、单色灰、			单色灰、角閃石、单色灰、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	スミ付見、底盤全体に付合	
174 SB4 古墳 未定	外底: に赤い黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色	3	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	3	外底: 口縁部ナデ(一)、脚部ハケ(一)、	底盤付のみ、底盤全体に付合	
6/2、器内: 深黄褐色/2	白化斑、单色灰、单色灰、			单色灰、角閃石、石英、单色灰、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	スミ付見、底盤全体に付合	
175 SB4 古墳 未定	脚部~ 外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: 深黄褐色/2	3	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	3	外底: ハケ(一)~ナデ(一)、	外底付上部にスミ付見、	
底盤 8/4 に粗粒、器内: 深黄褐色/2	白化斑、单色灰、			单色灰、角閃石、角閃石、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	一部ハケ底盤によるナデ(一)、	
176 SB4 古墳 未定	脚部~ 外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: に赤い黄褐色	3	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	3	外底: ハケ(一)~ナデ(一)、	底盤付のみ、底盤全体に付合	
7/4、器内: 深黄褐色/2に粗粒、	白化斑、单色灰、			单色灰、角閃石、单色灰、		脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	スミ付見、底盤全体に付合	
177 SB4 古墳 未定	外底: に赤い黄褐色/2に粗粒、内底: に赤い黄褐色	5	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	5	外底: 丁寧なナデ、内底: ヒビオナニ	外底付とし一部底盤あり、外底に	
7/3、器内: に赤い黄褐色/2に粗粒、	白化斑、单色灰、单色灰、			单色灰、角閃石、角閃石、		ハケ(一)~ナデ	付合あり、底盤を底盤に欠損させている可能性あり、口縁付付合あり、底盤付のみ、底盤全体に付合	
178 SB4 古墳 未定	脚部~ 外底: 深黄褐色/2に粗粒、内底: に赤い黄褐色	1	陶土	褐色、角閃石、单色灰、	1	外底: ミガキ(一)~ナデ(一)、	底盤付のみ、底盤全体に付合	
底盤 8/2 に粗粒、器内: 深黄褐色/2	白化斑、单色灰、单色灰、			单色灰、角閃石、单色灰、		ハケ(一)~ナデ	底盤が欠損している、底盤に割れたものか、底盤付のみ、底盤全体に付合	
179 SB4 古墳 未定	外底: に赤い黄褐色/2に粗粒、内底: に赤い黄褐色	3	陶土	褐色、角閃石、石英、单色灰、	3	外底: 口縁部ナデ(一)、脚部ハケ(一)~ナデ(一)、	底盤付のみ、底盤全体に付合	
7/4	白化斑、单色灰、单色灰、			单色灰、角閃石、石英、单色灰、		ハケ(一)~ナデ(一)、	スミ付見、底盤全体に付合	

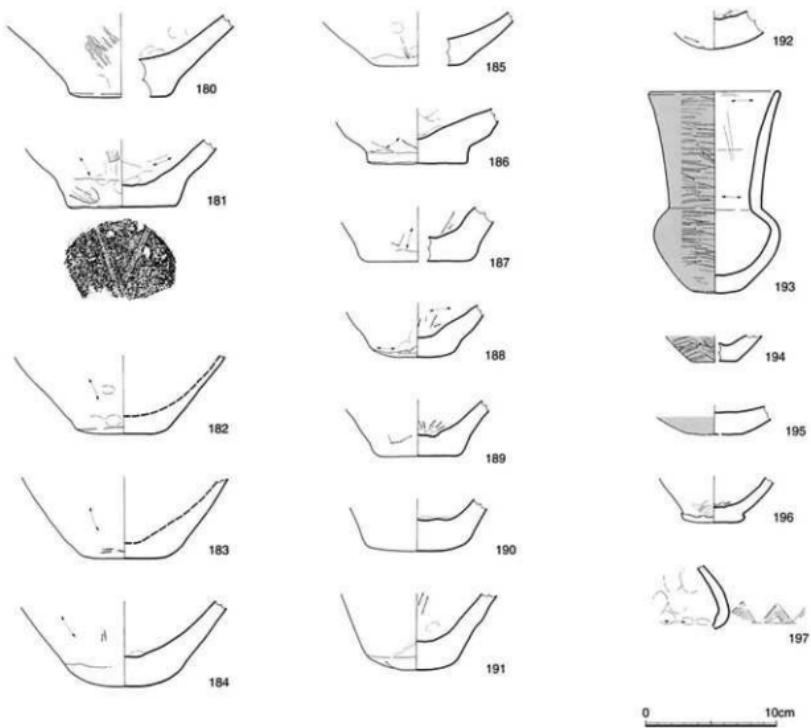
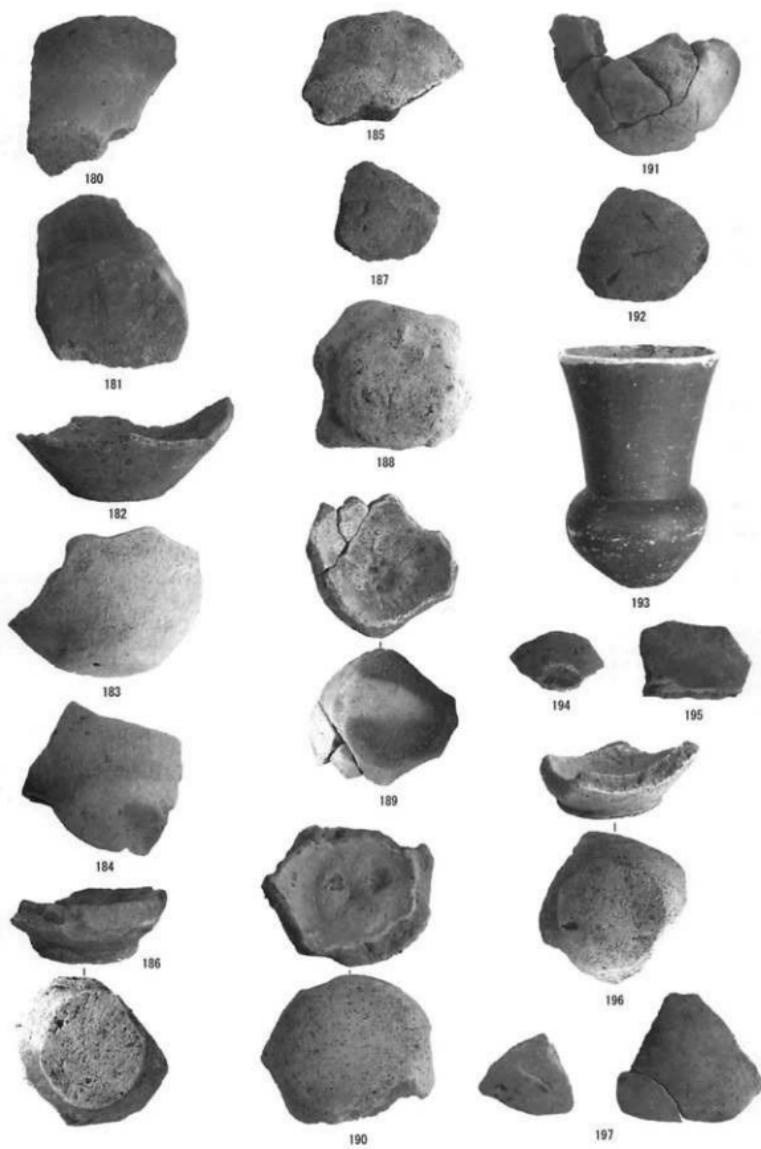


Fig. 64 D地点SD4出土遺物(16) 古墳時代の壺 S=1/4



PL. 46 D地点 SD4 出土遺物(18) 古墳時代の壺

付録 諸元回地 K・L-5・6区（中央図書前C・D・E地点）における発掘調査報告

Tab. 18 D 地点 SD4 出土遺物調査表(10) 古墳時代の表

No.	層	種別	番号	部位	色調	胎土		特徴	説明	備考
						粗粒材	砂粒の 歩き			
180	S04	古墳	壁	近郊	外壁: 淡黄1070M/4, 内面: 淡白1070M/3に細粒 調合: 混合2.0kg/L	白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色, 白:白色, 粉:白色, 黑:黑色,	4 外壁: ハケ(△), 内面: ハケ(△)/ユビ オサム。	外壁: ハケ(△), 内面: ハケ(△)/ユビ オサム。	底径: 6.8m,	
181	S04	古墳	壁	底面	外壁: 淡黄2.5V/4, 内面: 淡白1070M/2, 调合 2.0kg/Lに細粒	白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色, 粉:白色系, 粉:白色, 黑:黑色,	4 外壁: ハケ(△)/打ち込み底あり, 内面: 底面にワラ痕(鉛の痕), 下に ケズ・ビオサム。	底面にワラ痕(鉛の痕), 下に ケズ・ビオサム。	底径: 6.8m,	
182	S04	古墳	壁	底面	外壁: 淡黄1070M/4, 内面: 淡白1070M/4, 调合: 2.0kg/Lに細粒	白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色, 白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色,	3 外壁: ユビオサムニ-ダ(△), 内面: 刷毛痕が苦しい, 底径: 6.8m	底面: 刷毛痕が苦しい,	底径: 6.8m	
183	S04	古墳	壁	底面	外壁: 混合2.0kg/L/2, 内面: 淡黄1070M/2, 调合: 混合2.0kg/L	白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色, 白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色,	2 底面: ハケ(△)/打ち込み底あり(△), 内面: 刷毛痕が苦しい, 底径: 6.8m	底面: ハケ(△)/打ち込み底あり(△),	底径: 6.8m	
184	S04	古墳	壁	底面	外壁: 混合2.0kg/L/2/2.0kg/L, 内面: 淡黄2.5 V/4に細粒, 调合: 混合2.0kg/L	白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色, 白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色,	2 外壁: ハケ(△)-ナデ(△), 内面: 底径: 6.8m, 底面: ビオサム。	底面: ビオサム。	底径: 6.8m	
185	S04	古墳	壁	底面	外壁: 淡黄2.5V/2, 内面: 淡白1070M/2, 调合: 2.0kg/L	白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色, 白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色,	5 外壁: ユビオサムニ-ハケ(△), 内面: 底面, 底径: 6m 底面: ハケ	底面: ハケ	底径: 6m	
186	S04	古墳	壁	底面	外壁: 淡黄2.5V/2, 内面: 淡黄2.5V/4, 调合: 2.0kg/L	白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色, 白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色,	4 外壁: ハケ? 内面: ユビオサムニ-ナデ, 底径: 7.7m, 底面: ハケ	外壁: ハケ?, 内面: ユビオサムニ-ナデ,	底径: 7.7m	
187	S04	古墳	壁	底面	外壁: 混合2.0kg/L/2/2.0kg/L, 内面: 淡黄2.5 V/4に細粒, 调合: 混合2.0kg/L	白:白色系, 粉:白色, 黑:白色, 白:白色系, 粉:白色, 黑:白色,	3 内面: ハケ(△)/ユビオサムニ-ハケの 底径: 7.6m 打ち込み底あり。	内面: ハケ(△)/ユビオサムニ-ハケの 底径: 7.6m 打ち込み底あり。	底径: 7.6m	
188	S04	古墳	壁	底面	外壁: 混合2.0kg/L/2, 内面: 淡白1070M/2, 调合: 2.0kg/L	白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色, 白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色,	5 内面: ハケ(△)/打ち込み底あり-ユビオ 底径: 7.7m ニエ。	内面: ハケ(△)/打ち込み底あり-ユビオ ニエ。	底径: 7.7m	
189	S04	古墳	壁	底面	外壁: 混合2.0kg/L/2, 内面: 淡白1070M/2, 调合: 2.0kg/L	白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色, 白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色,	3 外壁: カズリ, 内面: ハケ(△)/ユビオ 底径: 7.6m ニエ。	外壁: カズリ, 内面: ハケ(△)/ユビオ ニエ。	底径: 7.6m	
190	S04	古墳	壁	底面	外壁: 淡白1070M/2, 内面: 淡黄1070M/2, 调合: 混合2.0kg/L	白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色, 白:白色系, 粉:白色, 黑:黑色,	4 外面: ナデ, 内面: ナデ-ユビオサムニ, 底径: 7.1m	外面: ナデ, 内面: ナデ-ユビオサムニ,	底径: 7.1m	
191	S04	古墳	壁	底面	外壁: 混合2.0kg/L, 内面: 淡白1070M/2, 调合: 2 .5V/2に細粒	白:白色系, 黑:黑色, 遊明粒 白:白色系, 黑:黑色, 遊明粒	2 外壁: ハケ(-)ーナデ, 内面: ハケ (ワーナー,	外壁: ハケ(-)ーナデ, 内面: ハケ (ワーナー,	底径: 6.8m	
192	S04	古墳	壁	底面	外壁: 混合2.0kg/L/2, 内面: にぼい2.5V 3/4, 调合: 淡黄1070M/2	白:白色系, 黑:白色, 白色粒 白:白色系, 黑:白色, 白色粒	5 外壁: ハケーナデ, 内面: ナデ(-)	外壁: ハケーナデ, 内面: ナデ(-)	底径: 6.8m	
193	S04	古墳	壁	底面	外壁: 混合2.0kg/L/2, 内面: 淡黄1070M/2, 调合: 混合2.0kg/L/2	白:白色系, 黑:白色, 中色 白:白色系, 混合2.0kg/L/2	2 外壁: (カキ) , 内面: ナデ(△), ニコ 底径: 6.6m, 高さ: 1.9m	外壁: (カキ) , 内面: ナデ(△), ニコ 外壁: (カキ) , 内面: ナデ(△), ニコ	底径: 6.6m, 高さ: 1.9m	
194	S04	古墳	壁	底面	底面: 混合2.0kg/L/2, 内面: 淡黄1070M/2, 调合: 混合2.0kg/L/2	白:白色系, 黑:白色, 白色粒 白:白色系, 黑:白色, 白色粒	1 外壁: (カキ) (△), 内面: ナデ	外壁: (カキ) (△), 内面: ナデ	底面: 壁面むら, 底径: 6.5m	
195	S04	古墳	壁?	底面	外壁: 混合2.0kg/L/2, 内面: 淡黄1070M/2, 调合: 2.0kg/L	白:白色系, 黑:白色	1 外壁: ナデ, 内面: ナデ	外壁: ナデ, 内面: ナデ	底径: 6.5m	
196	S04	古墳	壁?	底面	下部: 外壁: 混合2.0kg/L/2, 内面: 淡白1070M/2, 调合: 混合2.0kg/L/2	白:白色系, 黑:白色, 中色粒 白:白色系, 黑:白色, 中色粒	4 外壁: ナデ(△), 内面: ハケ(-)ーナデ	外壁: ナデ(△), 内面: ハケ(-)ーナデ	底径: 6.7m	
197	S04	古墳	壁?	底面	外壁: 混合2.0kg/L/2, 内面: 淡白1070M/2, 调合: 2.0kg/L	白:白色系, 黑:白色, 中色粒 白:白色系, 黑:白色, 中色粒	1 外壁: (カキ) , 内面: ナデ, ニコ 外壁: (カキ) , 内面: ナデ	外壁: (カキ) , 内面: ナデ, ニコ 外壁: (カキ) , 内面: ナデ	底径: 6.7m	

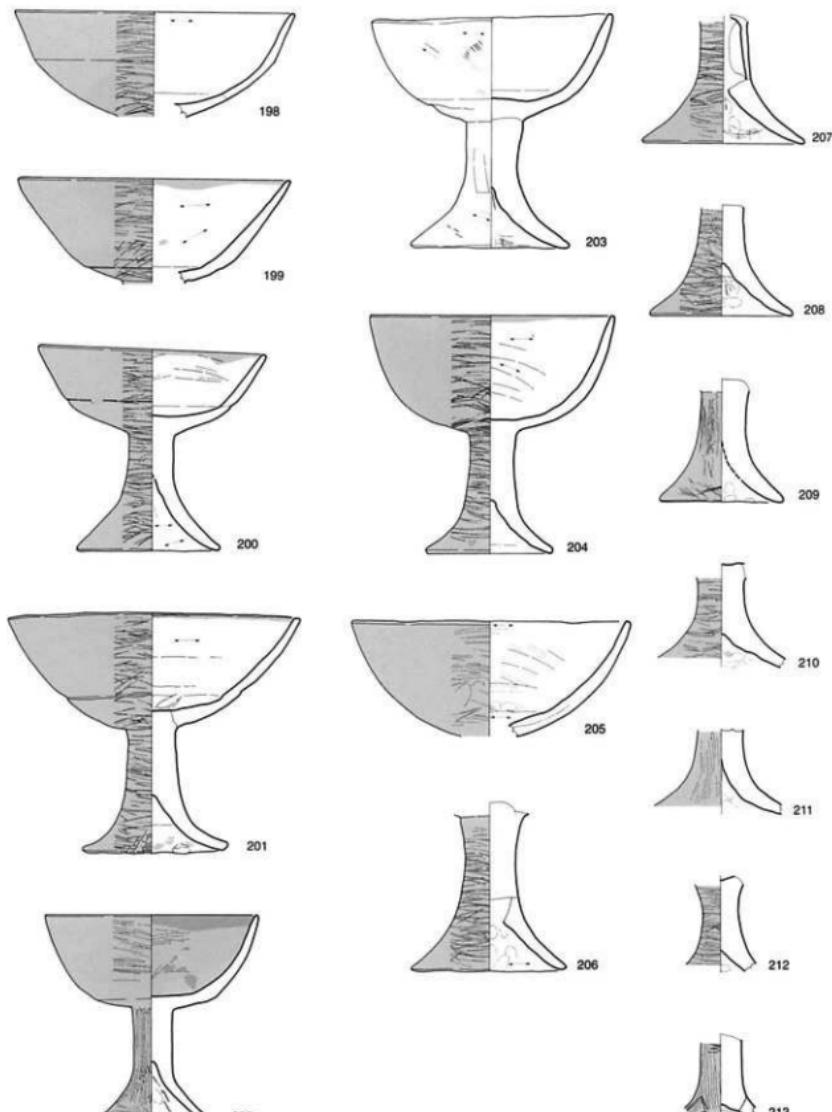


Fig. 65 D地点SD4出土遺物(17) 古墳時代の高杯 S=1/4



198



199



1



202



200



203



201



204

粘土粘付縫合痕(即接地痕)

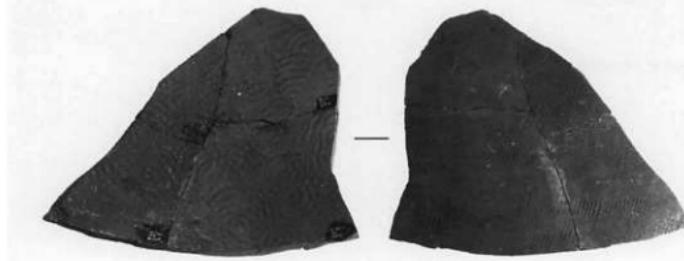


PL. 48 D地点 SD4 出土遺物写真(20) 古墳時代の高杯

付録 郡元团地K・L-5・6区(中央図書館C・D・E地点)における発掘調査報告

Tab. 19 D地点SD4出土遺物觀察表(11) 古墳時代の高杯

No.	層別	器種	部位	色調	胎土		形状の 多様	調整	備考
					混和材	砂率の 多様			
198 SD4	古墳	高环	杯部	外面:赤2,5YR8/8,内面:に赤い・橙7,5YR7/4, 器内:浅黄橙7,5YR8/4	粗砂:石英, 角閃石, 白色粘。	1 外面:ミガキ(-), 下部は(-)(/) 内面:丁寧なナダ(-)	口径22.2cm, 杯部高8.4cm		
199 SD4	古墳	高环	杯部	外面:に赤い・橙7,5YR7/4, 内面:に赤い・橙7,5 器内:白色粘, 粗砂:角閃石,	粗砂:白色粘, 粗砂:角閃石,	2 外面:ミガキ, 上部は(-)のみ, 下部は (-), 内面:丁寧なナダ(/)	外面赤色顔料塗布, 壁部欠損, 口径20.5cm, 杯部器高 8.2cm		
200 SD4	古墳	高环	完形	外面:赤10R5/6, 内面:に赤い・橙7,5YR7/4, 器内:に赤い・橙7,5YR7/4	粗砂:石英, 赤色粘, 白色粘。	2 外面:ミガキ(-), 腹部下部21(/)(/)	外面赤色顔料塗布, 口径18.6cm, 内面:ハケナダ(-)(/)		
201 SD4	古墳	高环	完形	外面:赤10R5/6, 内面:浅黄橙7,5YR8/4, 器内: 灰白10R8/1	粗砂:赤, 石英, 粗砂:赤, 石英, 角閃石	2 外面:ミガキ(-)(/), 内面:丁寧な ナダ, 口唇部のみミガキ(-)	外面赤色顔料塗布, 頭部外延 および杯部内壁に補修用の素地 貼り付けあり, 口径22.1cm, 杯部高11.5cm, 杯部 17.6cm, 杯部器高8.2cm		
202 SD4	古墳	高环	完形	外面:明赤橙2,5YR5/6, 内面:橙2,5YR6/6, 器内:灰白9/1	繊:灰色粘, 粗砂:白色粘	1 外面:ミガキ, 杯部は不明瞭, 腹部下端 (-), 内面:ミガキ, 腹部内壁 ハケ(-)→打つ込み低かみ	外面口径:16.9cm, 底径:9.7cm, 高さ:16.4cm, 杯部高4.4cm		
203 SD4	古墳	高环	完形	外面:浅黄橙7,5YR7/6, 内面:灰白10R8/2, 器内:浅黄橙10R8/3	繊:黑色粘, 粗砂:赤色粘, 石英, 白色粘, 角閃石, 粗砂:白色粘, 石英, 角閃石, 粗砂:白色粘,	3 外面:杯部ケタリ(/)(-)→ナダ, 腹部ケタリ(/)-ナダ, 杯部内壁:ミカ (-)→ナダ	口径18.6cm, 底径11.6cm, 器高 16.9cm, 杯部器高8.2cm		
204 SD4	古墳	高环	完形	外面:赤10R5/6(?)粗砂, 内面:黄橙7,5YR8/8, 器内:浅黄橙7,5YR8/3	粗砂:赤色粘, 石英, 粗砂:石英, 角閃石, 石英, 角閃石	2 外面:ミガキ(-)(/), 内面:丁寧な ナダ(/)	外底,赤色顔料塗布 口径18.2cm, 底径8.2cm, 器高 17.5cm, 杯部器高3.3cm		
205 SD4	古墳	高环	杯部	外面:赤10R5/6, 内面:に赤い・黄橙10R7/2, 器内:灰白10R8/1	繊:黑色粘, 粗砂, 角閃石, 粗砂: 角閃石, 白色粘, 赤色粘	2 外面:ナダ, ミガキ(-)(/), 内面: ケタリ状のハケ(/)(-)→ナダ(-)	外底,赤色顔料塗布 口径22.2cm, 杯部器高8cm		
206 SD4	古墳	高环	脚部	外面:赤10R8/6, 内面:に赤い・黄橙10R7/3, 器内:浅黄橙10R8/3	粗砂:白色粘, 粗砂:石英, 角閃石	1 外面:ミガキ(-), 内面:ナダ(-)	外底,底径12.3cm 脚部高13.1cm		
207 SD4	古墳	高环	脚部	外面:赤10R8/6, 内面:浅黄橙10R8/2, 器内: 浅黄橙10R8/4	粗砂:白色粘, 赤色粘, 角閃石, 粗砂:石英, 角閃石	2 外面:ミガキ(-), 内面:ナダ(-)	外底赤色顔料塗布 上部12厚約5mmで整形され, 一部のみ1.5cm厚になる。接着 箇所で縮れ, 底径12.3cm, 器部高 9.5cm		
208 SD4	古墳	高环	脚部	外面:赤10R5/6, 内面:灰白5Y4/1, 器内:浅黄橙 7,5YR8/4	繊:赤色粘, 粗砂:赤色粘, 粗砂: 角閃石, 石英	2 外面:ミガキ(-)(/), 内面:ハケ(?) ナダ	外底,赤色顔料塗布, 器高8.3cm, 底径11.4cm		
209 SD4	古墳	高环	脚部	外面:赤10R5/6, 内面:赤黄褐10R8/2, 器内: 灰白10R8/1	粗砂:角閃石, 石英	1 外面:ミガキ, 上部は(-)のみ, 下部は (/), 内面:ナダ	外底,赤色顔料塗布 底径9.6cm, 器高8.6cm		
210 SD4	古墳	高环	脚部	外面:明赤橙2,5YR5/6, 内面:浅黄橙7,5YR8/4, 器内:浅黄橙7,5YR8/1	粗砂:白色粘, 粗砂:赤色粘, 石英, 角閃石	2 外面:ミガキ(-), 内面:ハケ(?)→ ナダ(-)	外底赤色顔料塗布		
211 SD4	古墳	高环	脚部	外面:明赤橙2,5YR5/6, 内面:浅黄橙10R8/2, 器内:灰白10R8/1	粗砂:石英, 角閃石, 黑色粘, 白色粘, 粗砂:石英, 角閃石	2 外面:ミガキ(/), 内面:ナダ	外底赤色顔料塗布		
212 SD4	古墳	高环	脚部	外面:明赤橙2,5YR5/6, 内面:に赤い・黄橙10R 7/2, 器内:灰白10R8/2	粗砂:赤色粘, 粗砂:石英, 角閃 石, 白色粘	2 外面:ミガキ(-), 内面:ナダ	外底赤色顔料塗布		
213 SD4	古墳	高环	脚部	外面:赤10R5/6, 内面:壁2,5YR6/6, 器内:橙 2,5YR6/6	粗砂:白色粘, 石英, 角閃石	1 外面:ミガキ(/), 内面:ナダ	外底赤色顔料塗布 透かし(?)模様の切り込み54箇所 に施されている。上面縁に十字切, 下 部弧欠損のため全形は不規則。		
214 SD4	古墳	頭部	脚部	外面:灰白10R7/1, 内面:灰白10R7/1, 器内: 灰白10R8/2	粗砂:角閃石(/), 粗砂:白色粘	1 外面:凹輪ナダ, 内面:凹輪ナダ	透かし模様を残す。口径11.8cm		



Pl. 49 D地点SD4出土遺物(21) 須恵器大壺脚部片

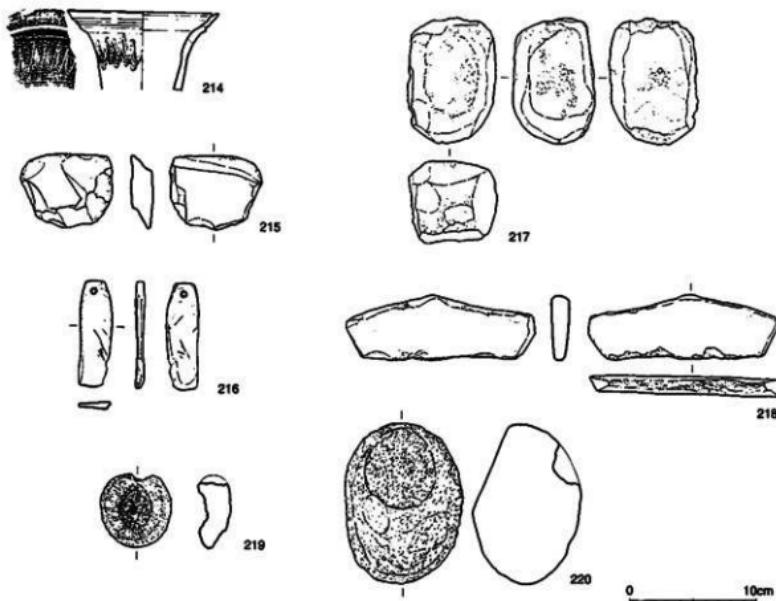


Fig. 66 D地点 SD4 出土遺物 (18) 須恵器と石器 S=1/4

Tab. 20 D地点 SD4 出土遺物観察表 (12) 石器

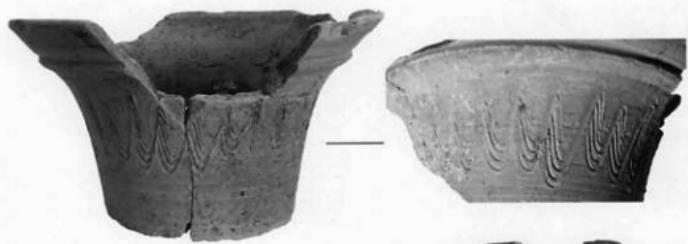
No.	形	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重計(g)	備考
215	SD4	セラミック	5.8	7.2	1.8	100.8	石縁の刃部か、
216	SD4	セラミック	8.3	2.5	0.7	21.0	上部に径0.4cmの孔を穿つ。表面ともに滑らかで、擦痕が認められる。
217	SD4	溶結凝灰岩 (押出済み)	9.5	6.8	6.2	566.0	磨石・研磨頭か。
218	SD4	溶結凝灰岩	14.7	5.1	1.5	159.0	一側縁部に敲打痕が認められる。
219	SD4	軽石	5.7	5.4	2.5	20.0	平面観は円形、中央部を加工?
220	SD4	軽石	12.4	9.3	8.4	250.0	上部に擦り面あり、使用痕か。

(⑦)須恵器 (Fig. 66, PL. 49・50, Tab. 19)

214はハソウの口縁部である。外面が若干摩滅しているが、外面に描画波状文が施されている。この他、大甕の胴部片と考えられる破片が1点出土している。

(⑧)石器 (Fig. 66, PL. 50, Tab. 20)

215は、扁平打製石斧の欠損した端部を転用したものと考えられる。基部方向の破面にも細かい剥離痕が認められる。216は、砥石である。穿孔が1つあるが、磨面は明瞭で、非常に薄い。217は、敲き石で、粗い敲打痕が4面に認められる。191は、扁平な5角形の石の長辺に敲打痕が認められるものである。219と220は軽石製品である。188はくぼみを持つもので、外面は磨って成形されている。189は、一面に、平坦面を持つもので、その部分は平滑である。



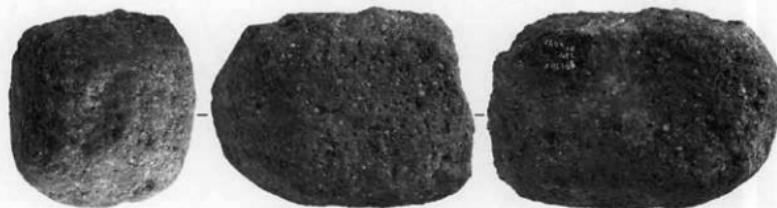
214



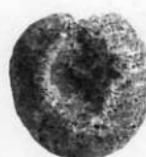
215



216



217



219



218



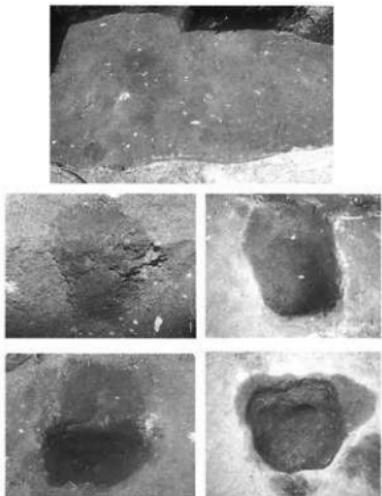
220

3) ピット (Fig. 7, PL. 51, Tab. 21)

ピットを21基と小ピットを検出した。ピットのほとんどはV層土を埋土としており、ピット壁と埋土との境界ははっきりしているもののが多かったが、規則正しい配列は認められなかった。また、隣接するP20・21などは、トンネル状につながっており、樹痕などの可能性があるものもある。ただし、小ピットも含め、全体的に東側にピットがほとんどなく、分布に偏りは見られる。

Tab. 21 D地点ピット一覧表

No.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土・備考
1	25	-	3	埋土はV層土
2	23	-	5	埋土はV層土
3	35	16	2	埋土はV層土
7	17	13	2	埋土はV層土
8	42	22	29	埋土はV層土
9	46	31	8	埋土はV層土
10	19	7	6	埋土はV層土
11	19	13	8	埋土はV層土
12	30	21	39	埋土はV層土
13	20	10	14	埋土はV層土
14	27	19	41	黒(7.5YR2/1), シルト質
15	20	12	7	埋土はV層土
16	26	22	25	黒褐色(10YR3/1), シルト質
17	18	12	26	黒(7.5YR2/1), シルト質
18	28	-	31	埋土はV層土
19	31	19	16	黒(7.5YR2/1), シルト質
20	26	15	15	黒褐色(10YR3/1), シルト質
21	20	9	16	黒(7.5YR2/1), シルト質
22	24	17	6	黒(7.5YR2/1), シルト質
23	24	14	30	黒(7.5YR2/1), シルト質



PL. 51 D地点ピット

上段: ピット検出状況。中段左: P17 中段右: P19、下段右: P14、下段左: P16

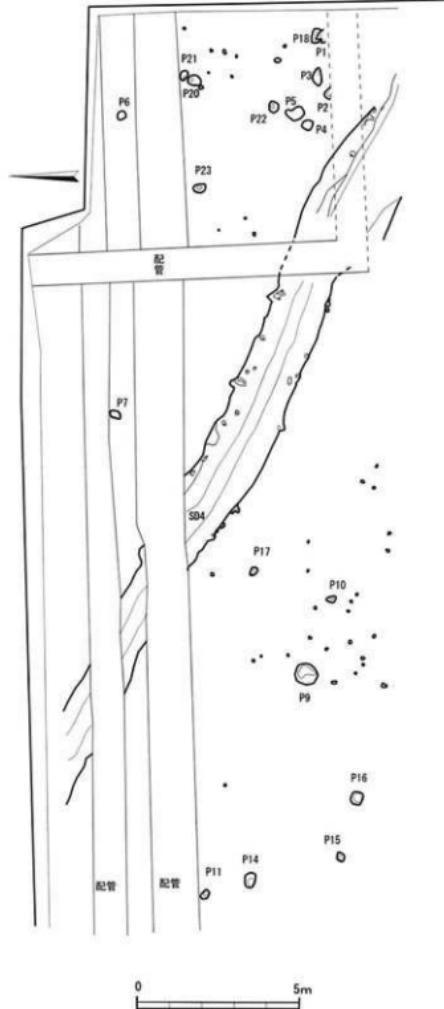


Fig. 67 D地点ピット

4 E 地点

4.1 層位 (Fig. 68)

基本層位として、1～5層を確認した。遺物を包含しているのは1～4b層で、5層以下は無遺物層である。

1層 灰黄褐色10YR4/2細砂～シルト。粘性なし。3mm大以下のバミスを少量含む。

2a層 灰黄褐色10YR4/2シルト～細砂層。2～3cm大以下のバミスを含む。粘性をやや帯びており、鉄分の浸透がみられる。

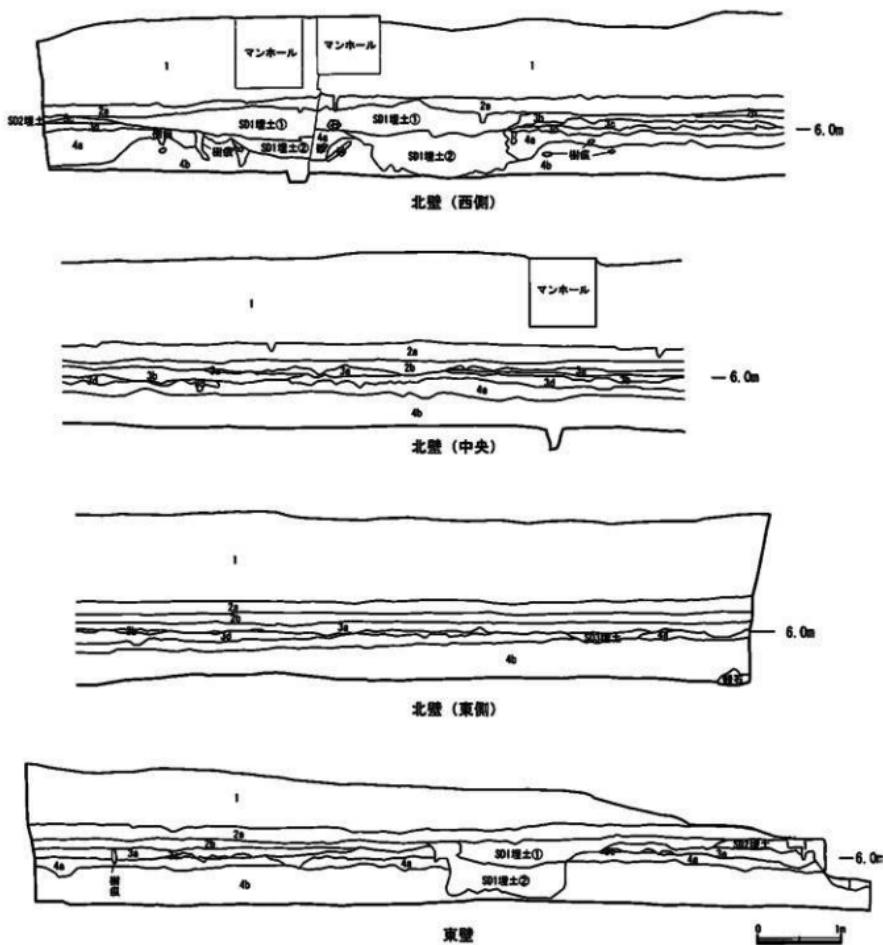


Fig. 68 E 地点層位断面図 S=1/60

- 2b層 にぶい黄褐色10YR4/3シルト～細砂層。粘性ややあり。1cm大以下のバミスを含む。水田層
 3a層 にぶい褐色7.5YR5/4シルト～細砂層。暗褐色7.5YR3/4シルトをブロックで含む。粘性ややあり。
 3cm大以下のバミスを少し含む。
 3b層 褐色7.5YR4/4シルト～細砂層。粘性ややあり。5cm大以下のバミスを含む。
 3c層 明褐色7.5YR5/8を基調とし、部分的ににぶい橙色7.5YR6/4のシルト。粘性あり。1cm大以下のバミスを含む。
 3d層 にぶい黄褐色10YR4/3シルト質砂。粘性ややあり。2cm大以下のバミスを比較的多く含む。
 4a層 暗褐色10YR3/4粘性あり。1cm大以下のバミスを少し含む。北壁は、黒褐色10YR3/2、暗赤褐色5YR3/3を呈するシルト層。粘性ややあり。非常に固くしまっている。1cm大以下のバミスを含む。
 4b層 黒褐色10YR2/2シルト。粘性ややあり。

4.2 2b層上面造構

2b層上面では、溝状造構SD1と歓状造構を検出した。歓状造構がSD1を切っている。また、歓状造構とSD1の軸方向が異なるので、この間に周辺の土地区画に関する方向が変更になったと考えられる。

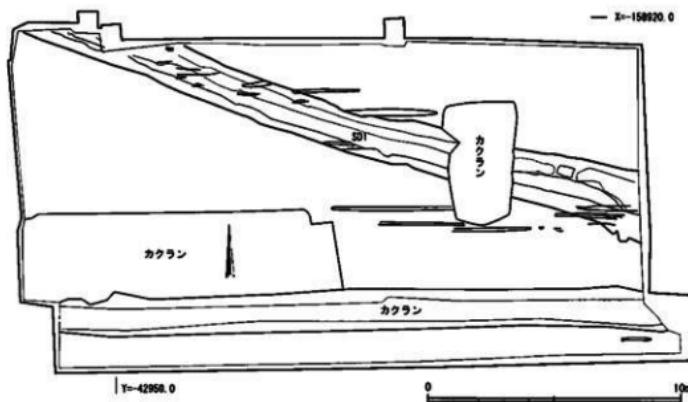


Fig. 69 E地点 2b層上面造構検出状況 S=1/200

1) SD1 (Fig. 70)

調査区北側に位置する溝状造構である。西北西から東南東にのびる。幅は約1.8mで、深さは70cmである。断面形は方形～台形状を呈する。埋土は、大きく上下二層(SD1-1, SD1-2)と、上層がさらに2層に分層できる。埋土は以下のとおりである。

SD1-1a: にぶい黄褐色(10YR5～6/3), 灰褐色(10YR6/3)を呈する細砂～シルトと, 明褐色(7.5YR5/6)・灰白色(10YR7/1)などを呈する粗砂層からなる。5cm大以下のバミスを含む。1.5cm大の礫を含む。

SD1-1b: にぶい黄褐色(10YR6/3)細砂～シルト。明褐色(7.5YR5/6), 灰白色(10YR7/1)を呈する粗砂層。

SD1-2: 灰黄褐色(10YR4/2)を呈するシルト層。下部はにぶい赤褐色(5YR4/3)を呈するシルト。粘性ややあり。水田層に類似。3cm大以下のバミスを少量含む。褐色(10YR4/6), にぶい黄褐色(10YR7/3)類似の細砂を含む。

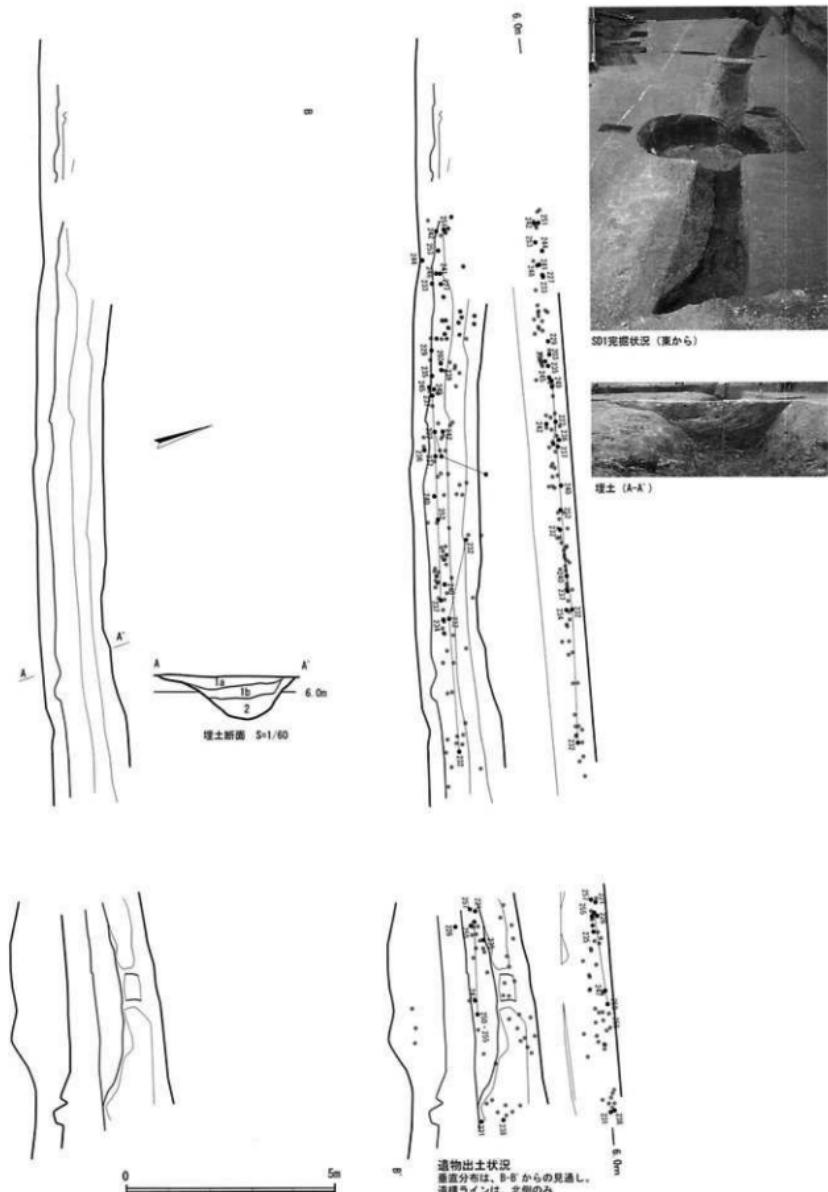


Fig.70 E地点 SD1 S=1/120, 断面のみ 1/60

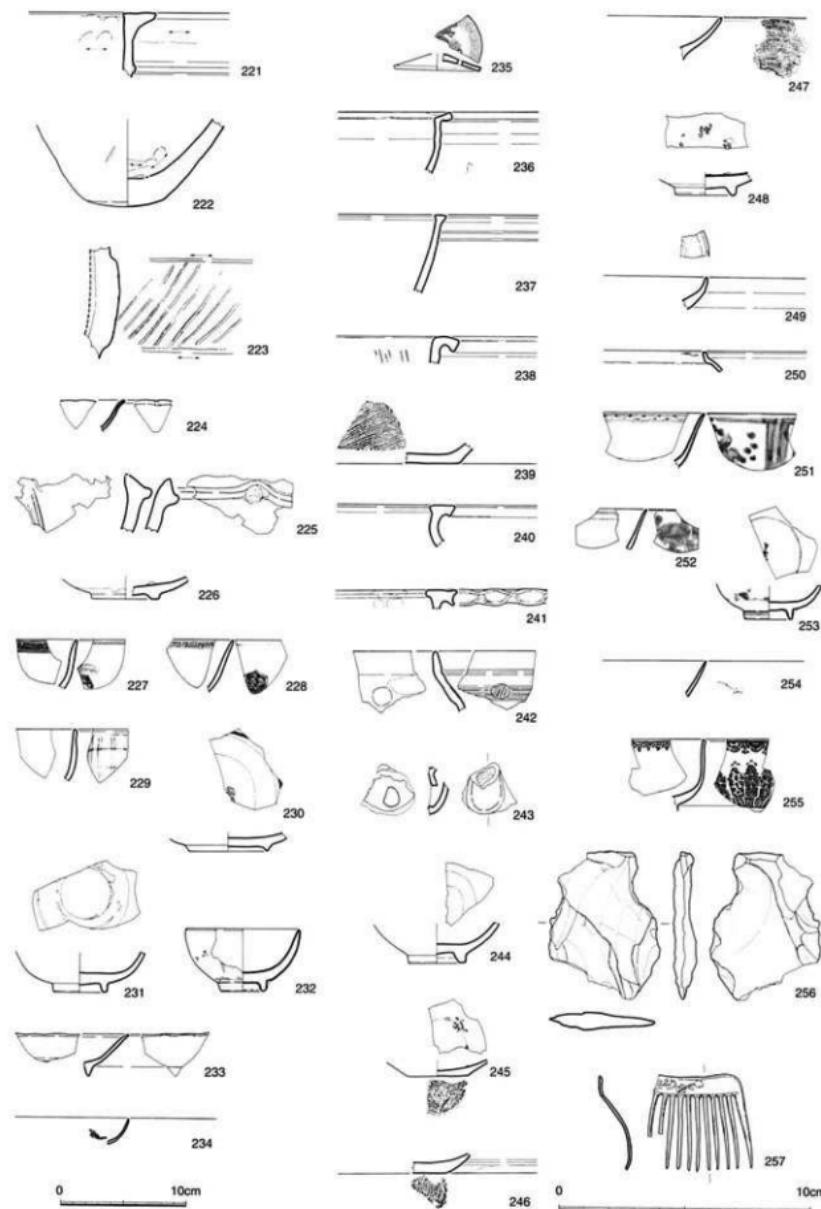
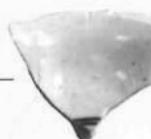
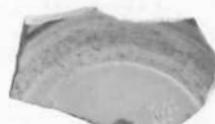
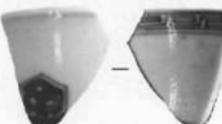
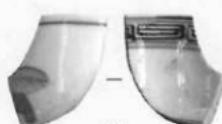
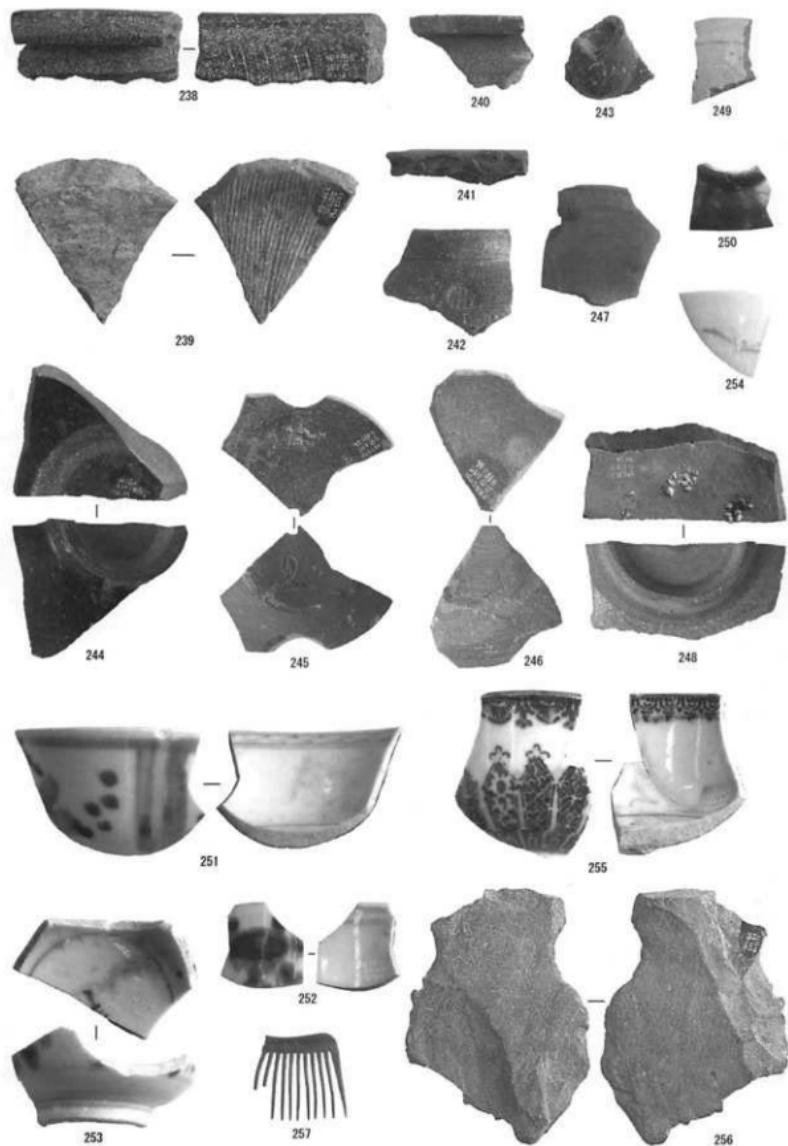


Fig. 71 E地点SDI出土遺物 S=1/4, 257のみ1/2



PL.52 E地点SD1出土遺物 (1)



付録 那元原地X・L-5・6区（中央図書館C・D・E地点）における発掘調査報告

Tab. 22 E 地点 SD1 出土遗物搜索表 (1)

SL	名	種別	基準	部位	色調	地土		耕作の参考	説明	備考
						耕和村	耕和村の参考			
221	S21	生井	便	口耕部	外表面:にじむ灰7, 内面:にじむ黄橙 10H4, 背面:にじむ黄橙10H4/内面:灰7, 灰7/4,	相手:白色地。青緑、石英、細砂:	4 外面:ナデ(→), 内面:ハイナデ ナデ(→)		耕和田実作1本	
222	S21	古坂	便	底部	外表面:にじむ黄橙10H4/内面:灰7, 灰7/4,	相手:白色地。青緑、石英、内面有 色地:白色地。相手:白色地。内面:	2 外面:ハイナデ, 内面:ナデ		底面5.1cm	
223	S21	古坂	便	底部	外表面:灰10H4/内面:相7, 灰7/4, 背面: 7.5H6/4	相手:白色地。相手:白色地。石英 有彩色:白色地。相手:白色地。石英:	4 外面:ナデ(→)ヨナデ, 内面:ヒカル のみ不透		植樹開拓。ハーフ工具により耕め 平行文字を走す。	
224	S21	古坂	便	底部	外表面:灰白10H4/内面:灰10H4/内面:灰 10H4/2, 背面:灰10H4/2, 底部:灰10H4/2, 背面: 10H4/2	相手:白色地。相手:白色地。相手: 白色地。相手:白色地。	1 全面施肥		日耕和田実作。中国地。	
225	S21	古坂	便	底部	外表面:灰10H4/2, 底部:灰10H4/2, 背面: 10H4/2	相手:白色地。相手:白色地。相手: 白色地。相手:白色地。	4 口引手ののみ追抜か。		口引手	
226	S21	記前	丘上?	底部	外表面:灰オーラー7/4/に筋斑, 底部:灰黄 2.5H7/2	相手:白色地。	1 高台地部。全体的に見入。		内面有:内土石混じる痕跡。 底面5.4cm	
227	S21	記前	丘	口耕部	外表面:透析, 底部:灰白7.5H8/1		1 全面施肥。		外表面:日耕和田に透析1本。詳細に 日本文を透かす。内面:口引手下に 宮文を透かす。底面に透析1本。 記前系10~19cm	
228	S21	記前	丘	口耕部	外表面:透明, 底部:灰白9H8/1		1 全面施肥。		外表面:日耕和田に透析1本。詳細に 大穴の不透明。内面:日耕和田に 透析文を透かす。記前系10~19cm	
229	S21	記前	丘	口耕部	外表面:透明, 底部:灰白9H8/1		1 全面施肥。		記前系に透析文を透す。	
230	S21	記前	丘	底部	外表面:透明, 底部:灰白9H8/1		1 既付込み透析。		記前系10~19cm	
231	S21	記前	丘	底部	外表面:透明, 底部:灰白9H8/1		1 既付込みの透析。		足込みに日々の日耕和田。既付込み 底面外側に葉落土の痕跡。	
232	S21	記前	小丘	完形	外表面:灰10H7/2, 底部:灰10H8/1	相手:灰	1 全面施肥。		同時に施用の花粉を撒く。花粉に 手引手の跡が残る。口引手5.6cm 底面3.5cm, 宮文5.6cm	
233	S21	記前	丘	口耕部	外表面:透明, 底部:灰白9H8/1 ~透析		1 全面施肥。		口耕和田透析1本。足込みに葉落土の 痕跡。底面3.5cm, 宮文5.6cm	
234	S21	記前	洋芋	口耕部	透明, 底部:灰白7.5H8/1		1 全面施肥。		白透したルメイ子田名。底面5.3cm	
235	S21	記前	急斜		透明, 底部:灰白7.5H8/1		1 未受付部のみ施肥。		足込みに豆が花粉と混じる 花粉を撒く。底面5.3cm, 宮文5.6cm	
236	S21	吉原	林	口耕部	透明:灰10H4/1に筋斑, 底部:灰黄9H8/1/2	相手:赤色地。白色地。相手: 白色地。透明	1 全面施肥。口引手上ののみ透析取る。		記前系10~19cm	
237	S21	吉原	林	口耕部	透明:灰2.5H7/1に筋斑, 底部:灰10H4/6	相手:白色地。黑色地。相手: 白色地。相手:透明	1 全面施肥。口引手上ののみ透析取る。		口引手下に2色の透析。 吉原系10~19cm	
238	S21	吉原	林	口耕部	透明:灰10H4/2, 底部:灰黄9H8/1/2	相手:白色地。黑色地。相手: 白色地。透明	3 全面施肥。口引手上ののみ透析取る。		吉原系10~19cm	
239	S21	吉原	林	底部	外表面:灰10H7/2, 底部:灰10H8/2	相手:白色地。相手:透明地。 底面:白色地。	2 内面:全面透析。		吉原系10~19cm	
240	S21	高岸地	壳?	口耕部	透明:灰オーラー7/2, 底部:灰10H4/2	相手:白色地。相手:白色地。 透明地	3 全面施肥。口引手上ののみ透析取る。		吉原系10~19cm	
241	S21	高岸地	林	口耕部	透明:灰10H7/3, 底部:灰黄9H8/4/2	相手:透明地。白色地。黑色地	3 全面施肥。口引手上ののみ透析取る。		外表面口引手に透析のひだり透	
242	S21	高岸地	土壤	口耕部	透明:灰10H7/3, 底部:灰10H7/6	相手:白色地。白色地。 底面:白色地。	2 全面施肥。外表面に細印あり。		透:吉代川系10~19cm	
243	S21	高岸地	壳	口耕	透明:オーラー7/2, 灰10H4/3に筋斑, 底部:にじ 10H4/4	相手:白色地。白色地	2 全面施肥。		吉代川系10~19cm	
244	S21	高岸地	林	底部	透明:灰10H7/2, 底部:青苔原地10H4/6	相手:白色地。白色地	1 全面施肥。外表面は亂れ地へ~高台内 部には		内面には月の貝殻が	
245	S21	高岸地	壳?	底部	透明:培養10H3/2, 底部:オーラー7/2, 10H3/2	相手:白色地	1 外面透析は赤り度。内面のみ施肥。		内面には月の貝殻が	
246	S21	高岸地	壳?	底部	透明:培養10H3/2, 底部:オーラー7/2, 10H3/2	相手:白色地	2 外面透析。		内面には赤り度。内面のみ施肥。	
247	S21	高岸地	小丘	口耕部	透明:灰10H7/4, 底部:灰10H4/4	相手:白色地	1 内面および外表面口引手ののみ施肥。		内面には赤り度。内面のみ施肥。	
248	S21	高岸地	壳?	底部	透明:灰10H7/4, 底部:灰10H4/2, 外表面:灰10H7/2, 10H3/2	相手:白色地	2 高台地部。		内面には赤り度。内面のみ施肥。	
249	S21	高岸地	林	口耕部	透明:灰10H7/3, 底部:灰黄9H8/2	相手:白色地	1 全面施肥。		内面には赤り度。内面のみ施肥。	
250	S21	高岸地	林	口耕部	透明:灰10H7/3に筋斑, 底部:にじむ赤透 2.5H6/3		1 内面上部~外表面。		足込みに日々の日耕和田。	
251	S21	高岸地	底地	口耕部	透明:透析:透明, 底部:灰白7.5H8/1		1 全面施肥。		足込みに日々の日耕和田。	
252	S21	高岸地	壳?	口耕部	透明:透析:透明, 底部:灰白7.5H8/1		1 全面施肥。		内面に直線による透け目。高台に2本 の透け目。	
253	S21	高岸地	壳?	底部	透明:透析:透明, 底部:灰白7.5H8/1		1 既付込み透析。		内面:既付込みの透け目。中央に2本の 透け目。	
254	S21	高岸地	壳?	口耕部	透明:灰10H7/4		1 全面施肥。		既付込み透け目。	
255	S21	高岸地	壳?	口耕部	透明:透析:透明, 底部:灰白7.5H8/1 ~透析		1		既付込み透け目。	

出土遺物 (Fig. 71, PL. 52・53, Tab. 22)

SD1からは、弥生土器、古墳時代の土器、中世（近代）の陶磁器、櫛、偏平打製石斧の他、鉄くず、ガラスなどが出土している。土器・陶磁器類は破片がほとんどである。実測できるものは36点であった。SD1からは、陶磁器が多く出土したが、これらについて、鹿児島大学法文学部の渡辺芳郎氏よりご教示いただいた。

221は弥生時代中期の壺である。山ノ口式の特徴を備えているが、口縁上面が立ち上がらず、水平であるのが異なる点である。

222～223は、古墳時代後半期の壺で、摩滅している。222はレンズ状に膨らむ底面で、223は胴部の幅広突堤部分である。223はヘラ描きによる斜め並行沈線文を施している。

224は白磁皿の口縁部である。口縁端部は輪花状を呈する。225は偏前焼の擂鉢口縁部である。内面に平行沈線が認められる。

226～235は肥前系の磁器で18～19世紀のものである。ある。226は皿の底部だが、見込みに胎土目積みが認められる。230・231には蛇の目釉剥ぎが、232は砂目が見込みにある。227～229は碗の口縁部、230～231は碗の底部である。234は非常に薄手のもので、酒盃かと推察される。

236～254は薩摩焼である。このうち、236～243は苗代川系、244～247は始良・加治木系、248～250は龍門司系で、ほとんどが18～19世紀のものである。また、251～254は薩摩焼系磁器の19世紀中ごろから幕末のものである。器種は、鉢・擂鉢・土瓶・碗・皿・小皿・仏飯具等である。

257は、櫛である。草花文を彫りによって施している。256は有肩打製石斧である。中ほどから欠損し、基部が残っている。基部も端部が一部欠損している。

Tab. 23 E地点 SD1 出土遺物観察表 (2)

No.	番	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重(㌘)	備考
256	SD1	ホルンフェルス	11.5	8.3	1.8	140.0	底部の一部、および刃部欠損。
257	SD1	不明				1.5	櫛、草花文を彫りによって施す。

2) 突状遺構

幅20cm程の溝状の浅い落ち込みが、22条認められた。いずれも東西方向を軸とし、SD1周辺に多いが、南東隅にもあることから、本来はほぼ全面に広がっていたのが、削平されたものと思われる。SD1を切つていて、埋土は2a層土である。畑の畦状遺構であると考えられる。

4.3 3層上面遺構

3層上面では、SK1～3・10～17の土坑と溝状遺構SD2・3、畝状遺構を検出した（Fig. 72）。SK1・3はSD2を切っている。溝状遺構とSK16・17、畝状遺構の軸方向は大体一致している。この方向は、2b層で検出されたSD1とも共通する。

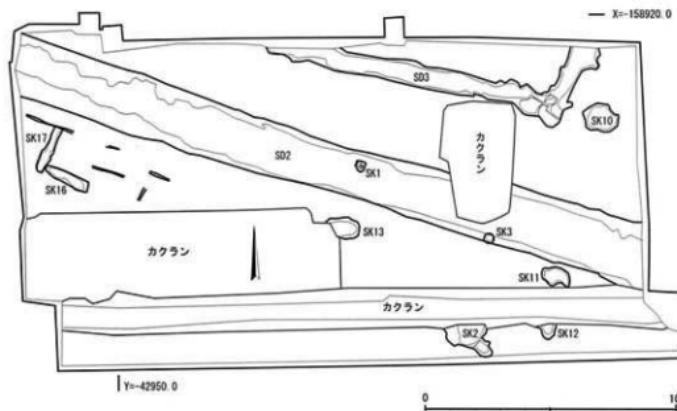


Fig. 72 E地点3層上面遺構検出状況 S=1/200

1) SK1 (Fig. 73, PL. 54)

調査区ほぼ中央に位置する。平面形は北西側がやや飛び出した円形状で、直径約40cmを測る。埋土は、にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト～細砂層である。

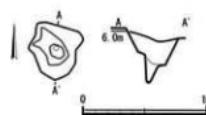


Fig. 73 E地点SK1 S=1/40

PL. 54 E地点SK1(北から)

2) SK2 (Fig. 74)

調査区北側に位置する。遺構北側はカクランによって削平されている。南側に長いひょうたん型を呈する。掘削されているが、長さ・最大幅とも160cmほどである。南側飛び出し部分が高い。埋土は、にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルトである。

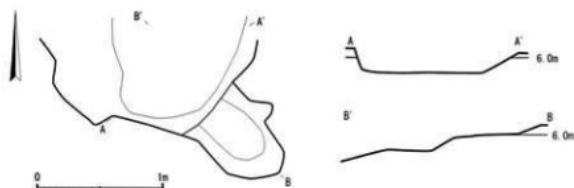


Fig. 74 E地点SK2 S=1/40

3) SK3 (Fig. 75)

調査区東側に位置する。SD2を切る。平面形は円形で、直径38cmを測る。深さは最深部で38cmである。埋土は、暗灰黄色(2.5Y4/2)の粗砂と細砂とシルトの混土で、やや粘性がある。

4) SK10 (Fig. 76)

調査区東側に位置する。平面形は梢円形を呈する。長径144cm、短径112cmを測る。深さは20cmである。埋土は2層土に類似する。

5) SK11 (Fig. 77)

調査区南東部に位置する。平面形は梢円状を呈する。長径115cm、短径66cmを測る。深さは24cmである。埋土は2層土に類似する。

6) SK12 (Fig. 78)

調査区南東部に位置する。遺構北側はカクランによって削平されている。現状で、幅87cm、深さ8cmである。埋土は2層土に類似する。

7) SK13 (Fig. 79)

調査区中央部に位置する。遺構西側はカクランによって削平されている。現状で、長径137cm、短径80cm、深さ9cmである。埋土は2層土に類似する。

8) SK16 (Fig. 80)

調査区西側に位置する。平面形は細長い梢円形で、SD1・2とほぼ並行している。長さ186cm、幅44cm、深さ4cmを測る。埋土は2層土に類似する。

9) SK17 (Fig. 80)

調査区西側に位置し、SK6と直交する。形状も類似した細長い梢円形で、北側は砍状遺構によって削平されているが、現状で長さ198cm、幅34cm、深さ8cmを測る。埋土は2層土に類似する。

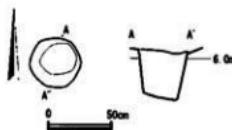


Fig. 75 E地点 SK3 S=1/40

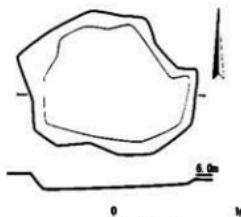


Fig. 76 E地点 SK10 S=1/40

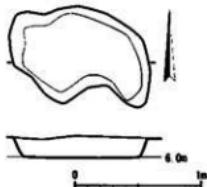


Fig. 77 E地点 SK11 S=1/40

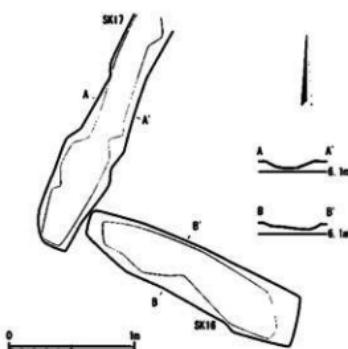


Fig. 80 E地点 SK16・SK17 S=1/40

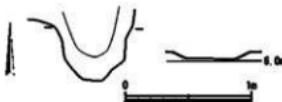


Fig. 78 E地点 SK12 S=1/40

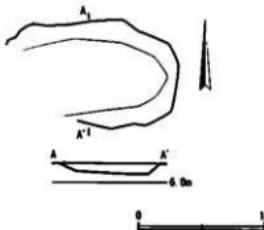


Fig. 79 E地点 SK13 S=1/40

10) SD2 (Fig. 8)

調査区北西隅から南東隅へ、斜めに横断するよう位置する。調査区外に伸びているが、現状では、長さ26.2 m、幅3.4 m、深さ約5cmを測る。北側はSD1に接しているが、部分的にSD1によって削平を受けているようである。埋土は、灰黄褐色10YR4/2細砂～シルト。粘性なし。3mm大以下のバミス少量含む。

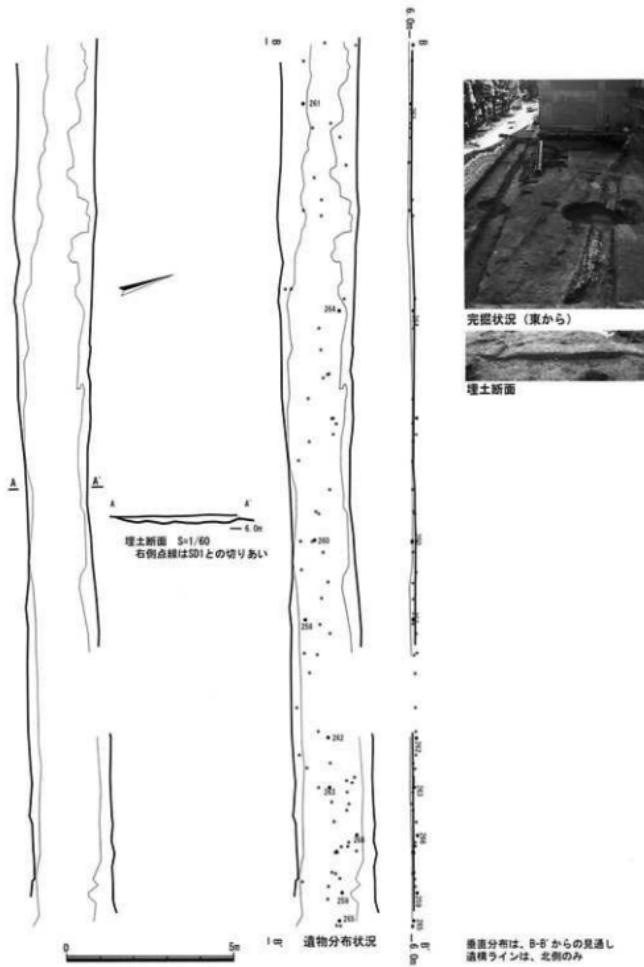


Fig. 81 E地点 SD2 S=1/150, 断面のみ 1/60

出土遺物 (Fig. 83, PL. 56, Tab. 24)

SD2 からは、青磁、白磁、陶器、土師器、土錘などが出土している。小さな破片が多いが、おむね中世の遺物で占められている。259～263は青磁・白磁で中国産である。264は陶器で、小壺の底部のようだが、産地・器種とも不明である。265・266は土錘で、二つともほぼ同じサイズである。

11) SD3 (Fig. 82, PL. 55)

調査区北側に位置し、両端とも調査区外に伸びている。ほぼ直角に屈曲している。幅は90cm、深さ15cmを測る。埋土は、灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂。粘性ややあり。4a層土、4層土をブロックで含む。5mm以下のバミス含む。マンガンの浸透が縱方向に見られる。

出土遺物 (Fig. 83, PL. 56, Tab. 24)

SD3 からは、小片の古墳時代の土器などが出土している。実測できたのは、1点のみであった。267は突帯だが、縁繩突帯で粗稚なつくりであることから、古墳時代の壺であると考えられる。

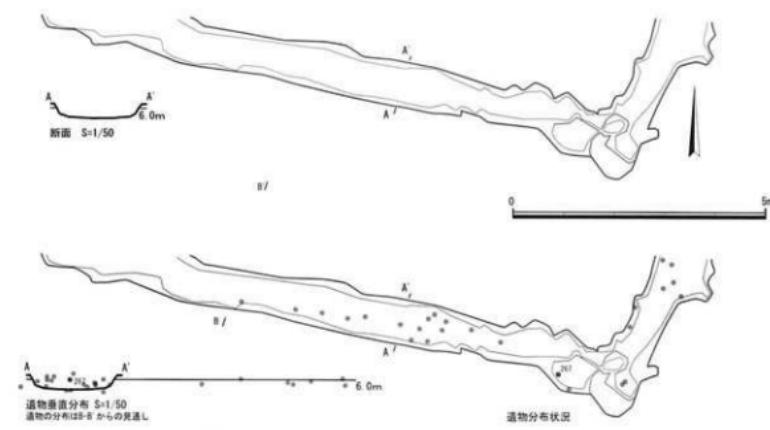
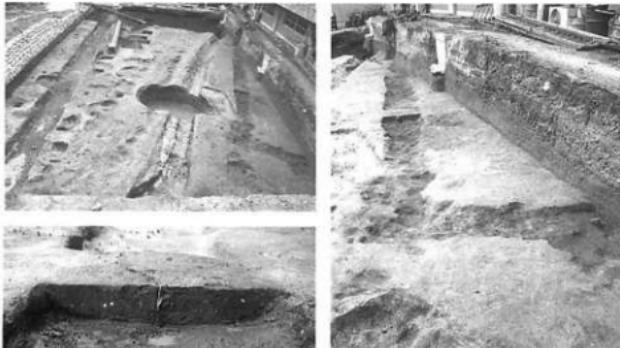


Fig. 82 E地点 SD3 S=1/100, 断面のみ S=1/50



PL. 55 E地点 SD2・3

左上：2b層道横窓状況。左上：SD3 埋土断面。右：SD3 実掘状況

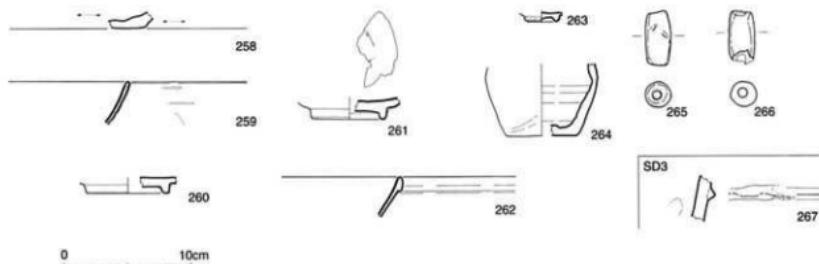
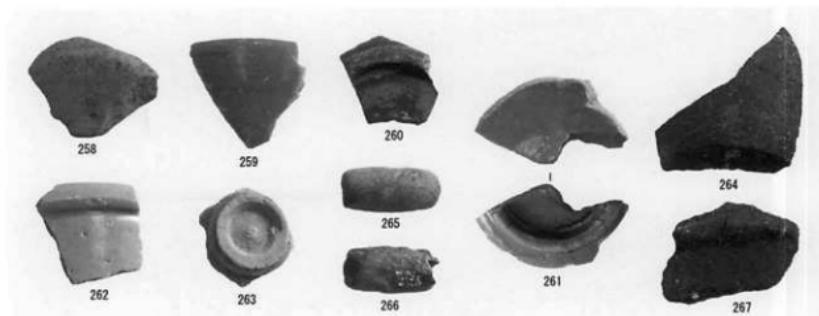


Fig. 83 E地点 SD2・3出土遺物 S=1/4



PL. 56 E地点 SD2・3出土遺物写真

Tab. 24 E地点 SD2・3出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	記号	色調	胎土		調整	備考
						高和材	砂粒の 多さ		
258	SD2	土師器			底部:外油7.5H7/6, 内面:底7.5H7/6, 器肉: 橙7.5H7/6	砂:白色粒, 黒色粒, 細砂:黑色 粒	1		
259	SD2	青磁			口縁部:釉裏7.5H6/1, 裏地:灰白5H8/1		1	外面:文様あり,	中国産
260	SD2	青磁			底部:釉裏7.5H6/1, 裏地:灰白5H7/1に 粗粒		1		中国産
261	SD2	青磁			底裏:オーリーブ灰10H6/2に粗粒, 葵地:灰白 5H7/1		1	内面:文様あり?	中国産
262	SD2	白磁			口縁部:釉裏:灰白7.5H7/1, 裏地:灰白5H8/1		1		中国産
263	SD2	白磁			底部:釉裏:灰白10H7/1に粗粒, 裏地:灰白5H6/1		1		中国産
264	SD2				底部:内面:灰白7.5H6/2, 5H8/2, 外面:12.5H4~5H4 2, 5H4/2, 器肉:灰白2.5H7/1	砂:白色粒, 細砂:白色粒 2	3		底地:器種不明
265	SD2	土師			橙7.5H7/6	粗砂:灰色粒, 砂:白色粒, 橙色 粒, 细砂:白色粒, 黑色粒	2		最大長:4.2cm, 最大幅2.0cm, 孔径0.6cm, 重量18.23g
266	SD2	土師			外面:灰白7.5H4/2, 器肉:橙7.5H4/3	砂:石灰, 黑色粒, 细砂:黑色粒 2	2	外面:残ずれ痕あり,	最大長:4.0cm, 最大幅2.0cm, 孔径0.65cm, 重量16.46g
267	SD3	吉墳	甕		外面:灰黃褐色10H4/2, 内面:12.5H4~5H4 6/4, 器肉:褐灰10H5/1	砂:白色粒, 粗砂:白色粒, 砂: 角閃石, 石英, 细砂:黑色粒, 透明粒	3	内面:ナデ	絶滅研究?1条

12) 断状構造 (Fig. 72)

調査区西側で、幅20cm、深さ約5cmの溝状の落ち込みが5条、平行もしくは直交して検出された。軸方向は西北西から東南東方向である。SD2・3やSK16・17と平行する。

4.4 4層上面遺構

4層上面からは、SK4・5・7~9とピット102基を検出した(Fig.84, PL.59)が、SK4は4a層上面検出、他は4b層上面検出である。なお、4a層掘削中に、調査区北側中央部で動物の足跡状の落ち込みを検出した。

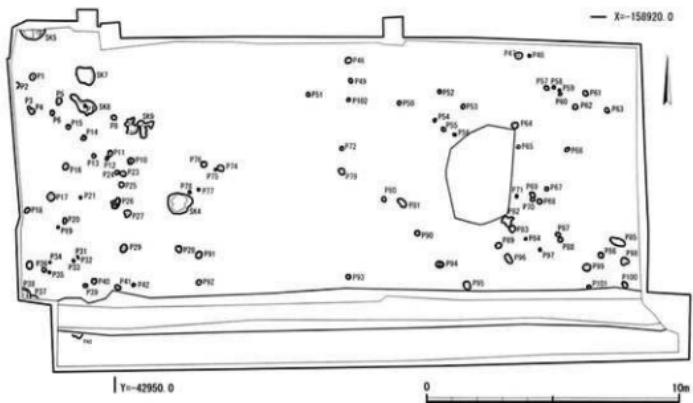


Fig. 84 E地点4層上面検出遺構 S=1/200

1) SK4 (Fig. 85, PL.57)

調査区南側に位置する。遺構南側はカクランによって削平を受けている。平面形はほぼ円形で、直径約90cm、深さ14cmである。埋土は、灰黄褐色(10YR 5/2)シルトを基調として、赤褐色(5YR4/6)シルトが混ざる。3cm大のバミスを含む。

出土遺物 (Fig. 86, PL. 58, Tab. 25)

埋土中より、弥生土器の破片が1点出土している。中期の壺の肩部で、突帯が4条認められる。非常に磨滅している。

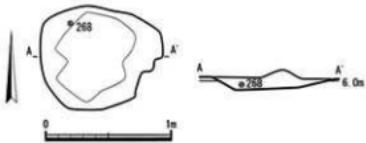


Fig. 85 E地点SK4 S=1/40

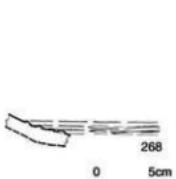
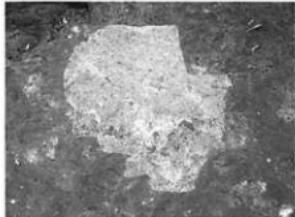


Fig. 86 E地点SK4出土遺物 S=1/4



PL. 58 E地点SK4出土遺物写真

PL. 57 E地点SK4
上：検出状況(東から)、下：完掘状況(東から)

Tab.25 E地点SK4出土遺物観察表

No.	種別	器種	部位	色調	地土		調整	備考
					面和材	砂粒の 多少		
268	SK4	陶土	底	内面:灰(10YR8/2),外底:10YR7/4 に相應,腹内:灰(10YR8/2)	磚,赤色粒,灰色粒, 白灰色粒,砂,白色粒, 石英,磁石;黑色粒	3	外底:ナゲ(-),内底:剥落	二角突起4条(現存)

2) SK5 (Fig.87)

調査区北西隅に位置する。北側は調査区外に広がっており、未検出である。現状で幅110cm, 深さ34cmを測る。平面形は、梢円形である。埋土は、4a層土である。

3) SK7 (Fig.88)

調査区北西隅に位置する。平面形は円形状を呈する。直径は約75cm, 深さ14cmを測る。埋土は、4a層土である。

4) SK8 (Fig.89)

調査区北西隅に位置する。平面形は一端が細い梢円状を呈する。底面は東側が深くなっている。埋土は、黒色(10YR7/1)シルトである。

5) SK9 (Fig.90)

調査区北西隅に位置する。平面形は、東西二つの飛び出しがあるもので、それぞれ底面が深い。東側が15cm, 西側が10cmの深さである。いくつかの造構が重なっている可能性もある。埋土は、4a層土である。

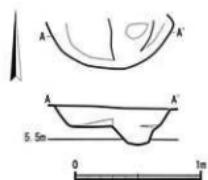


Fig. 87 E地点 SK5 S=1/40

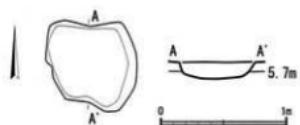


Fig. 88 E地点 SK7 S=1/40

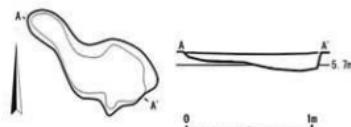


Fig. 89 E地点 SK8

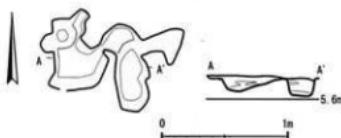


Fig. 90 E地点 SK9 S=1/40



PL. 59 E地点4層上面検出状況

6) ピット群 (Fig. 84, Tab. 26)

調査区は全面にピットが102基検出された。建物の柱跡と考えられる配列等は認められないが、全体的に北西-南東方向、もしくはその直交する方向に並んでいるようなものが多い。この方向は上層で検出された溝状造構や畝状造構の軸方向とも一致する。

Tab. 26 E 地点 4b 層上面検出ピット一覧

No.	大きさ(cm)	深さ(cm)	断面タイプ	埋土・備考	No.	大きさ(cm)	深さ(cm)	断面タイプ	埋土・備考	No.	大きさ(cm)	深さ(cm)	断面タイプ	埋土・備考
1	25-21	30	略円錐形	黒色(10YR 7/1)を呈する	29	34-26	31	円筒形	2段落ち	65	21-15	7	理土±4a層	
										64	26-23	21	理土±4a層	
				シルト質土	30	7	8	円筒形	理土±4a層	65	15-12	11	理土±4a層	
				粘性ややあり、	31	7	6	円筒形	理土±4a層	66	21-13	7	理土±4a層	
2	26-22	30	円筒形	理土±4a層	32	6	9	略円錐形	理土±4a層	67	16-13	12	理土±4a層	
3	13	16	円筒形	理土±4a層	33	9	10	円筒形	理土±4a層	68	22-17	16	理土±4a層	
4	24	55	円筒形	理土±4a層	34	7	9	略円錐形	理土±4a層	69	27-15	13	理土±4a層	
5	14-12	24	円錐形	理土±4a層	35	16	14	円筒形	理土±4a層	70	19-12	12	理土±4a層	
6	22-20	18	簡形	理土±4a層	36	27-22	29	円錐形	理土±4a層	71	14-9	11	理土±4a層	
7	24-20	12			37	25~	26~	円錐形	理土±4a層	72	17-13	7	理土±4a層	
8	14	11	簡形	理土±4a層	38	64	13	球形	黒褐色(10YR 7/3)	73	16-14	12	理土±4a層	
9	17	23	円筒形							74	26-21	14	理土±4a層	
				S8.9 内						75	11-7	18	理土±4a層	
				理土±4a層						76	25-21	39	理土±4a層	
10	25-24	22	円筒形	一部2段落ち						77	12-10	6	理土±4a層	
				円錐形						78	13-9	6	理土±4a層	
				理土±4a層	39	13	14	円筒形	理土±4a層	79	30-21	26	理土±4a層	
11	24-17	11	略円錐形	理土±4a層	40	21-18	21	円筒形	理土±4a層	80	22-17	13	理土±4a層	
12	15-13	16	略円錐形	一部2段落ち	41	21-16	43	円筒形	理土±4a層	81	43-21	26	理土±4a層	
				理土±4a層	42	17-15	10	円筒形	理土±4a層	82	41-21	19	理土±4a層	
13	17-14	14	円錐形	理土±4a層	43	50-47	21	円錐形	理土±4a層	83	42-25	1	理土±4a層	
14	17-15	8	略円錐形	理土±4a層	44	23	28	円錐形	理土±4a層	84	9	理土±4a層		
15	22-19	45	略円錐形	一部2段落ち	45	18-17	17	円筒形	理土±4a層	85	61-28	43	理土±4a層	
				理土±4a層	46	26-22	9	理土±4a層	理土±4a層	86	24-18	9	理土±4a層	
16	24	40	略円錐形	理土±4a層	47	30-24	10	理土±4a層	理土±4a層	87	17-14	24	理土±4a層	
17	27	27	簡形	理土±4a層	48	12-8	7	理土±4a層	理土±4a層	88	19-17	28	理土±4a層	
18	24-15	16	略円錐形	一部2段落ち	49	19-13	16	理土±4a層	理土±4a層	89	27-18	13	理土±4a層	
				理土±4a層	50	18-12	11	理土±4a層	理土±4a層	90	25-17	41	理土±4a層	
19	9	8	円筒形	理土±4a層	51	19-12	6	理土±4a層	理土±4a層	91	28-20	10	理土±4a層	
20	24	24	簡形	理土±4a層	52	16	7	理土±4a層	理土±4a層	92	22-16	6	理土±4a層	
21	10	17	円筒形	理土±4a層	53	20-14	7	理土±4a層	理土±4a層	93	19-17	14	理土±4a層	
22	7	8	円筒形	理土±4a層	54	16-11	11	理土±4a層	理土±4a層	94	31-20	18	理土±4a層	
23	19	21	円錐形	2段落ち	55	21-14	13	理土±4a層	理土±4a層	95	36-23	15	理土±4a層	
				理土±4a層	56	13-9	7	理土±4a層	理土±4a層	96	38-18	29	理土±4a層	
24	17	16	円錐形	理土±4a層	57	21-16	6	理土±4a層	理土±4a層	97	12-9	6	理土±4a層	
25	21-17	32	円錐形	理土±4a層	58	13-11	14	理土±4a層	理土±4a層	98	33-25	22	理土±4a層	
26	32-30	24	圓筒形	2段落ち	59	11-7	7	理土±4a層	理土±4a層	99	33-28	31	理土±4a層	
27	30-26	16	略錐形	理土±4a層	60	13-11	6	理土±4a層	理土±4a層	100	25-16	11	理土±4a層	
28	25-23	32	円筒形	理土±4a層	61	22-16	10	理土±4a層	理土±4a層	101	16-10	1	理土±4a層	
				理土±4a層	62	21-17	8	理土±4a層	理土±4a層	102	13	8	理土±4a層	



PL. 60 E 地点ピット実掘
左: P41, 右: P26
埋土確認のため、手前は掘削済み



PL. 61 E 地点 4 層上面検出ピット実掘状況 (東から)

7) 足跡状遺構 (PL. 62)

4a層掘削中に、調査区中央北側で足跡状遺構を検出した。形状は円形もしくは半円形のもののが多かったが、中には蹄の跡が明瞭にわかるものもあった。大きさは、蹄形のものが長さ約16cm、幅約10cmで、円形のものは直径約10cmである。深さは、1~3cm程度であった。(くぼみに入っている埋土は、明褐色~黄褐色(7.5~10YR5/8)粗砂で、2mm大のバミスを含んでおり、3c層に類似する。



PL. 62 E地点 4a層中検出の足跡

4.5 5層上面検出遺構

1) ピット群 (Fig. 91, PL. 63, Tab. 27)

調査区ほぼ全面にピットが182基検出された。平均的な大きさは、直径約20cmである。特に配置されているものは認められない。埋土は、4a層のものが多い。P218より遺物が出土している。

出土遺物 (Fig. 92, PL. 64, Tab. 28)

ピットからは、1点のみ遺物が出土している。269は高杯の脚部である。上部は、杯部との接合部で欠損している。非常に摩滅している。

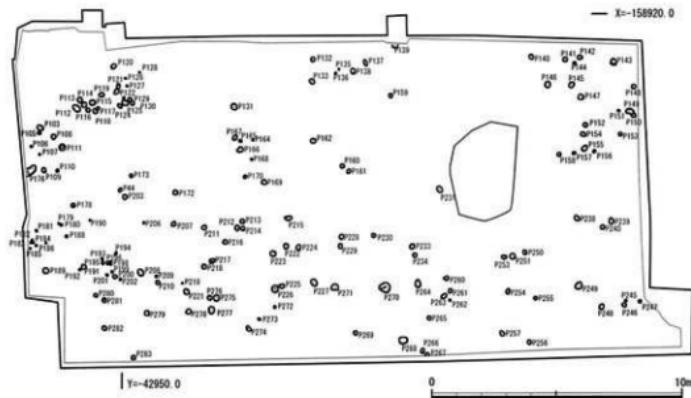
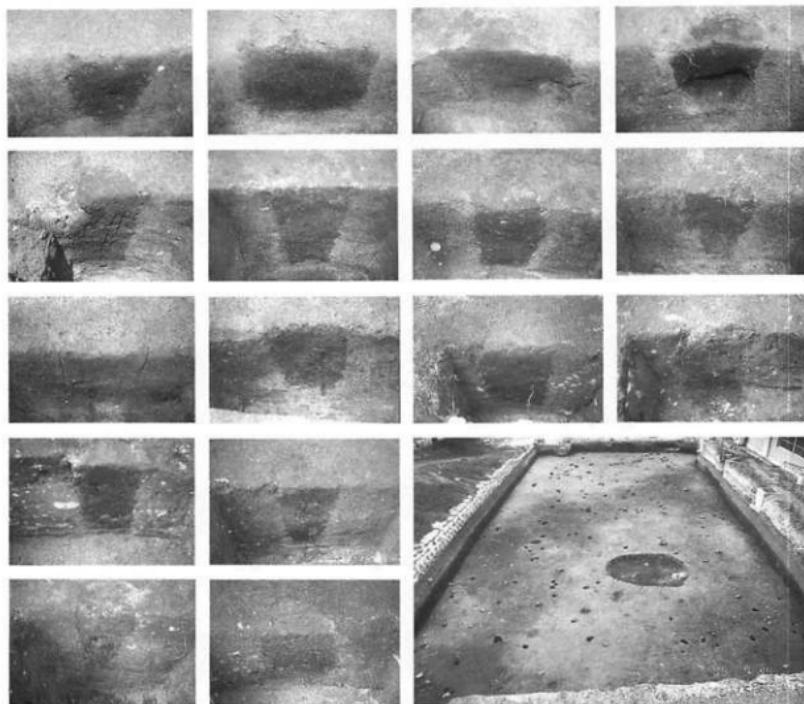


Fig. 91 E地点 5層上面遺構検出状況 S=1/200

Tab. 27 E 地点 5 層上面ピット一覧表

No.	大きさ(cm)	深さ(cm)	埋土・備考	No.	大きさ(cm)	深さ(cm)	埋土・備考	No.	大きさ(cm)	深さ(cm)	埋土・備考
103	27-20	21	黒褐色土	164	8-5	12	黒褐色土	225	21-13	13	黒褐色土
104	20-16	22	黒褐色土	165	14-8	4	黒褐色土	226	30-20	12	黒褐色土
105	14-9	7	黒褐色土	166	23-18	7	黒褐色土	227	29-24	22	灰色土
106	8-5	7	黒褐色土	167	22-15	7	黒褐色土	228	21-17	31	黒褐色土
107	8-5	9	黒褐色土	168	9-6	7	黒褐色土	229	21-14	28	黒褐色土
108	20-15	24	黒褐色土	169	21-17	39	黒褐色土	230	18-14	25	灰色土
109	18-14	13	黒褐色土	170	14-11	17	黒褐色土	231	29-19	19	灰色土
110	13-10	18	黒褐色土	171	25-17	12	黒褐色土	232	22-19	15	黒褐色土
111	28-21	31	黒褐色土	172	20-12	8	黒褐色土	233	23-19	12	黒褐色土
112	37-21	28	黒褐色土	173	15-12	12	黒褐色土	234	18-16	17	黒褐色土
113	22-21	15	黒褐色土	174	15-13	12	黒褐色土	235	11-10	14	黒褐色土
114	23-18	12	黒褐色土	175	19-15	14	黒褐色土	236	19-15	5	黒褐色土
115	24-18	9	黒褐色土	176	46~	8	黒褐色土	237	24-19	7	黒褐色土
116	19-15	14	黒褐色土	177			欠番	238	25-19	27	黒褐色土
117	14-10	10	黒褐色土	178	18-15	15	黒褐色土	239	24-17	22	灰色土
118	21-15	14	黒褐色土	179	8-6	5	黒褐色土	240	19-15	20	灰色土
119	21-15	31	灰色土	180	11-9	7	黒褐色土	241	16-11	7	黒褐色土
120	23-14	15	灰色土	181	11-7	3	黒褐色土	242	13-9	6	黒褐色土
121	20-10	10	黒褐色土	182	9-6	6	黒褐色土	243	18-15	15	黒褐色土
122	22-14	10	黒褐色土	183	7-5	4	黒褐色土	244	21-17	12	黒褐色土
123	11-7	3	黒褐色土	184	8-5	7	黒褐色土	245	10	11	黒褐色土
124	21-11	17	黒褐色土	185	8-6	8	黒褐色土	246	16-13	13	黒褐色土
125	27-18	17	黒褐色土	186	8-6	4	黒褐色土	247	13-10	6	黒褐色土
126	10-6	4	黒褐色土	187	8-5	5	黒褐色土	248	21-18	18	黒褐色土
127	8-7	3	黒褐色土	188	12-9	8	黒褐色土	249	29-23	25	黒褐色土
128	7-6	4	黒褐色土	189	10-9	10	黒褐色土	250	20-15	16	黒褐色土
129	20-16	5	黒褐色土	190	9-7	8	黒褐色土	251	23-19	19	黒褐色土
130	18-15	33	黒褐色土	191	22-17	28	黒褐色土	252	19-15	6	黒褐色土
131	25-18	33	黒褐色土	192	11-8	6	黒褐色土	253	22-15	18	黒褐色土
132	19-11	22	灰色土	193	11-5	3	黒褐色土	254	21-13	5	黒褐色土
133	24-16	12	黒褐色土	194	16-8	3	黒褐色土	255	14-12	22	黒褐色土
134	18-14	40	黒褐色土	195	14-7	4	黒褐色土	256	16-14	14	黒褐色土
135	10-4	6	黒褐色土	196	13-10	4	黒褐色土	257	21-15	14	黒褐色土
136	8-6	4	黒褐色土	197	8-7	5	黒褐色土	258	21-17	9	黒褐色土
137	26-13	19	黒褐色土	198	8-5	7	黒褐色土	259	19-16	13	黒褐色土
138	23-17	33	灰色土	199	11-8	7	黒褐色土	260	22-17	8	黒褐色土
139	22-	24	黒褐色土	200	20-13	9	黒褐色土	261	17-14	17	黒褐色土
140	19-17	16	黒褐色土	201	9-6	8	黒褐色土	262	10-7	11	黒褐色土
141	20-18	17	灰色土	202	10-7	9	黒褐色土	263	25-15	7	黒褐色土
142	21-16	29	灰色土	203	19-16	37	黒褐色土	264	30-19	11	黒褐色土
143	28-20	14	黒褐色土	204	29-20	12	黒褐色土	265	18-15	25	灰色土
144	13-12	12	黒褐色土	205	20-16	14	黒褐色土	266	23-15	10	黒褐色土
145	25-17	22	黒褐色土	206	10-7	9	黒褐色土	267	20-14	10	黒褐色土
146	25-21	32	黒褐色土	207	20-14	5	黒褐色土	268	34-20	16	黒褐色土
147	25-22	29	黒褐色土	208	26-21	40	黒褐色土	269	18-14	17	黒褐色土
148	20-17	26	黒褐色土	209	9-8	5	黒褐色土	270	45-36	13	灰色土
149	35-21	15	黒褐色土	210	19-15	8	黒褐色土	271	30-23	19	灰色土
150	19-15	15	黒褐色土	211	21-16	20	黒褐色土	272	11-8	6	黒褐色土
151	11-6	5	黒褐色土	212	21-17	10	黒褐色土	273	13-9	3	黒褐色土
152	16-14	19	黒褐色土	213	19-16	31	黒褐色土	274	26-14	28	黒褐色土
153	16-13	6	黒褐色土	214	17-14	22	黒褐色土	275	24-21	20	黒褐色土
154	22-16	10	黒褐色土	215	31-16	18	灰色土	276	20-16	23	黒褐色土
155	27-17	15	黒褐色土	216	18-15	6	黒褐色土	277	28-21	24	黒褐色土
156	14-9	5	黒褐色土	217	23-16	11	黒褐色土	278	23-21	25	黒褐色土
157	14-12	11	灰色土	218	19-16	13	黒褐色土	279	22-20	18	黒褐色土
158	16-14	18	灰色土	219	8-5	5	黒褐色土	280	17-12	17	黒褐色土
159	17-14	12	黒褐色土	220	9-8	4	黒褐色土	281	18-16	16	黒褐色土
160	19-15	17	黒褐色土	221	23-19	28	灰色土	282	20-14	12	黒褐色土
161	20-14	20	黒褐色土	222	23-17	10	黒褐色土	283	17-15	15	黒褐色土
162	24-15	10	黒褐色土	223	22-18	14	黒褐色土				
163	26-15	20	黒褐色土	224	23-15	17	黒褐色土				



PL. 63 E地点5層上面検出ピット

上段左からP100, P112, P103, P108, 二段目左からP130, P203, P119, P191, 三段目左からP278, P274, P213, P228, 四段目左からP169, P147, 五段目左からP138, P152, 最下段右：ピット完掘状況

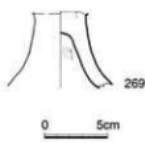


Fig. 92 E地点P215出土遺物 S=1/4



PL. 64 E地点P215出土遺物

Tab. 28 E地点P215出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	鉢上		調査	備考
						泥和材	砂粒の 多さ		
209	P215	古墳	高坪	脚部	内面:に深い黄褐色10R7/4, 外面:に深い黒褐色 10R7/4, 脇内:灰白色2, 9R8/1	細砂:黑色相, 白色相, 透明相	少々	外面:非常に丁寧なナデ。 内面:ハケ (-)・しづき痕あり	推定径深:8.1cm

5 まとめ

本調査区では、近代～近世、中世、古墳時代のものを確認することができた。大きく3つの時期にわたる遺構が確認できた。

5.1 遺構について

近代～近世については、D地点Ⅲ1層上面検出遺構や、E地点2b層上面検出遺構がそれにあたり、溝状遺構や畝状遺構、または穂積み跡と考えられる遺構も検出していることから、田畑に利用していたと考えられる。この時期に、遺構の主軸が北西～南東方向から東西方向へ変化しており、土地区画の大規模な変化がうかがえる。

中世の遺構としては、E地点のSD3がある。本地点北東100m先に位置する1999年度に実施した総合研究棟（文系棟）の建設に伴う発掘調査で、中世の烟跡が検出されており、これに関連する遺構かもしれない。

古墳時代の遺構は、本地点の主要な遺構となっている。C～E地点に、住居跡2軒、溝状遺構2条を検出した。昨年度報告したAB地点を合わせると、住居跡3軒、溝状遺構5条となる。

いずれも北西～南東方向を軸としている。住居跡出土遺物は少ないが、古墳時代後半期のものと考えられる。郡元団地内には、古墳時代後半期の住居跡群が3ヶ所で確認されている（Fig.94 I～III）。本地点は、住居跡群Iの南端にある。住居群Iの中心部では、住居跡が密集して幾重にも切りあっている状況だが、周縁部である本地点での住居跡の切りあい関係は見られない。

住居跡は竪穴住居で、平面形は方形を呈すると考えられる。検出されたSK5・6とも貼床を持ち、床面中央付近に炉と考えられる炭の層があった。床面からは柱穴は認められず、竪穴の外側にピットが配置されていた。床面の壁際に、幅5cmの細い溝が確認でき、壁板溝であると考えられる。全形は不明だが、これまで郡元団地で検出されている古墳時代の住居跡と特徴が類似する。

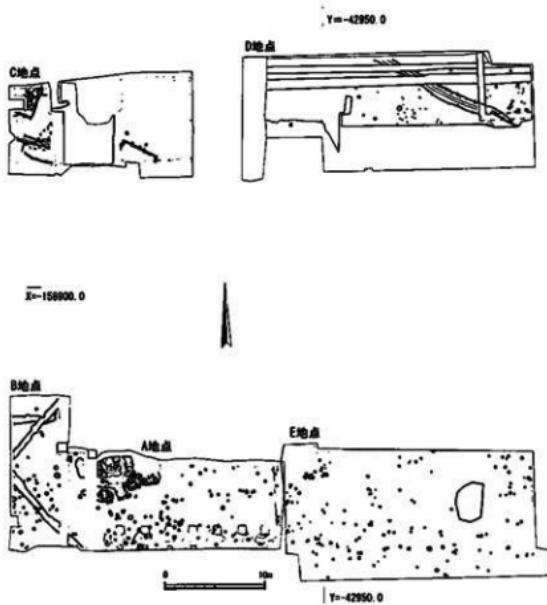


Fig. 93 古墳時代遺構の配置

住居跡からの出土遺物は少ないが、D地点SD4からは、多量の土器を中心とする遺物群がかたまって出土した。溝の全域で出土するのではなく、遺物がかたまって出土しているのは、長さ3mの範囲のみである。昭和55年には中央図書館と法文学部講義棟との間の掘削工事中に、ある程度まとまった古墳時代の土器が出土したらしい。SD4の延長線上にあたるので、溝内にいくつかの遺物が集積していたのかもしれない。

遺物はSD4が途中まで埋まっていた後、堆積しており、SD4の北側から南側に傾斜している状況であった。SD4北側では、1975年と1999年の調査で100基を超える住居跡が確認されており、その住人が使用した道具を廃棄したものと考えられる。A・C地点で検出された住居跡との関係は不明である。

土器群の接合状況をみると（Fig. 48）、多くの同一個体が散乱していることがわかる。北側と南側の破片が接合するものが多く、南へ傾斜する全体的な出土状況から見ても、廃棄された時点かその後に、一部の破片が下方の南側へ転がり落ちたものと推定される。一方、中には横方向に広く接合しているものもあり、廃棄の時点で分けられて置かれた可能性も想定できる。土器群の接合状況や破片のまとまり方（Fig. 46・47）を見ると、ポイント107-102ライン付近を境にして、東西に大きく2群に分かれる傾向も看取できる。東側は破片が比較的大きいのに対し、西側は破片が小さい傾向にある。しかし、これらに型式差などの差異を見出すことはできない。数個体を一度にまとめて廃棄したと考えられるまとまりもあることから、かなり短期間に廃棄した遺物群であると捉えてよいだろう。

5.2 古墳時代の遺物について

古墳時代の土器を中心とする遺物が多く出土した。特に、SD4出土遺物は、間層を挟まずにまとまって出土していることや、中には中子に重ねているものがあるなど、ある程度短期間に破棄されたものと考えら



Fig. 94 鹿児島大学境内遺跡郡元団地の古墳時代の造構配置状況 S-1/8000

れる。土器の形態や特徴も類似するものが多く、そのことを示唆しているものと考える。

壺は、いわゆる笠貫式のバケツ型に開く広口の口縁部で、脚台を持つが、サイズ・脚台の低さにバリエーションが見られる。ゆがんでいる土器を省くと、口縁部はあまり内湾せず、直線的に開く傾向にあり、笠貫式の中でも古い型式に位置づけられる。脚台内の天井部が、古い形態である平らかドーム状のものと新しい形態である下に飛び出すタイプの2種類が混在しているのもそのことを示唆している。なお、脚台内面の形態の差は、体部の底の作りを丸底にするか、平底にするかに左右されるようである。

突帯を施さず、その位置の器壁を肥厚させ、外面に粘土帶接合線を残すものについては、坪根（1986）が、突帯のルディメントとして捉え、新しい属性として位置づけたが、本地点の出土品をみると、小型のものにその属性が見られることが言える。サイズによる口縁部形態差と時期差を合わせて考慮する必要があるだろう。

鉢は、台付のもの、上げ底状のもの、平底のものなどがあるが、広口であるという特徴が共通している。なお、台付鉢の中には、火を受けたものもあり、小型の煮沸具として使用されている。

高杯は、杯部が直線的に外に開くタイプと、楕円形のものがあるが、脚部はいずれも棒状の上部に、下部はスカート状に広がる形態である。古墳時代後半期の特徴を備えているが、杯部が直線的に開く形態は、古い形態が残っているとも言える。ほとんどのものに赤色顔料が塗布されている。

壺は、有文と無文があり、サイズでは大きく4つに分けることができる（Fig. 96）。大型には有文が多い。幅広突帯を持つものこのタイプである。幅広突帯には、斜平行弦線文が施されている。なお、幅広突帯によく見られる竹管文を、幅の狭い1条突帯をつけた大型品に施している。本地点独特な壺としては、150が突帯は布目压痕を持つ細い刻み目突帯で、幅広突帯によく見られる鋸歯文のモチーフを作り出している。また、小型品だが、胴部に細沈線によって、直接X文を施しているものもみられる。

無文の壺は、口縁部が短いものが多い。胴部は、細長いタイプと球胴状のものがある。各タイプごとに、調整や色調も類似している。また細長いタイプは、粘土帶接合痕が明瞭に残るものが多く、その部分で破損しているものも目立った。

これらの遺物は、笠貫式土器の古い段階と考えられる。SD4からは、須恵器の壺の口縁部が出土している。摩滅していることもあるが、全体的に緩やかなつくりの印象を与える。須恵器編年では、MT15に比定でき、これまでの南九州での笠貫式土器と須恵器との併存関係に一致する。

なお、ひび補修と考えられる跡が観察された。これは、ひびが入った場所に細長い粘土を上から貼り付け、その上からナデつけているもので、内面・外面に間わらず、壺、壺、高杯、鉢とほとんどの器種で見られた。おそらく、焼成前に入ったものだろう。笠貫式土器は、調整が粗雑で器壁も厚く、この様式を作る人々は土器作りがあまり上手ではないというイメージがあるが、それを裏付けるような資料となっている。

使用に関する特徴としては、煮沸に使用する壺の内面が少し摩滅しているものが見られることである。ちょうど外面突帯付近から下の器壁が摩滅しており、煮沸する内容物をこのあたりまで入れたのではないかと考えられる。なお、外面が火によって赤変している部分の内面は、黒く焦げ付いているものが多い。台付鉢や、壺にも煮沸の痕が見られたが、これらの外面が赤変したり、ススが付いている高さを観察すると、サイズに関係なく壺に付着している高さとほぼ同じである（Fig. 97）。火にかける場所は、壺と変わらないことが推定される。

なお、SD4からは石器も出土している。砥石、石斧軒用の剥片石器、たたき石、軽石製品である。石材は、溶結凝灰岩やホルンフェルス・軽石であり、いずれも近辺で入手できる石材を用いている。

文献

坪根伸也（1986）「成川式土器少考—壺形土器における一試論—」『鹿大史学』第34号、23-40。

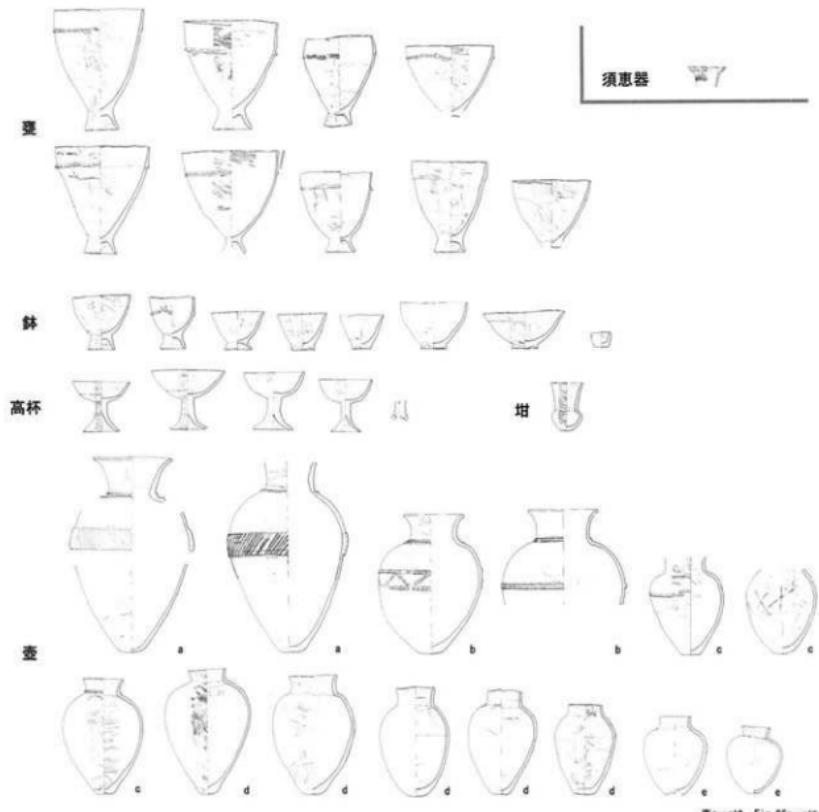


Fig. 95 D地点 SD4 出土の主な土器

壺a-eは、Fig. 96a-eに一致

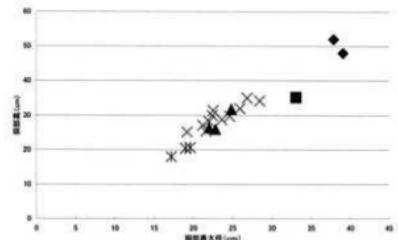


Fig. 96 SD4 出土壺のサイズ

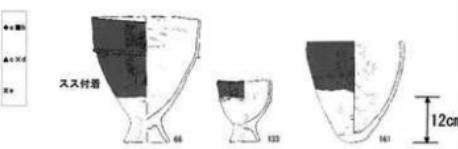


Fig. 97 壺と鉢に付着したススの位置

SUMMARY

This is the report of the archaeological excavations and surveys in Kagoshima University Korimoto Campus conducted by Kagoshima University Research Center for Archaeology in the fiscal year 2003 from April 2003 to March 2004. This volume also includes the report of the excavation from Area K·L-5·6 carried in 1993 and 1995 in Korimoto Campus.

Excavations in Korimoto Campus

The center made two rescue excavations in 2003. One is the excavation of the site in Area H-12·13 from March to August 2003 before the construction of Venture Business Laboratory(VBL). Eight ancient rivers were found. Rivers no.1 to 3 belonged to the Ancient to the medieval periods. Rivers no.4 to 8 are belonging to the late Yayoi to the late Kofun periods. We found about 40 wooden piles used as the irrigation facilities in Rivers no.4-7. A sample of the pile was dated cal AD 130 by C-14 dating. There found many shards, a stone reaping knife, arrow heads, and a whetstone.

The center also conducted a rescue excavation of the site in Area R-9 and 10 from June to July 2003 before the reconstruction of the gymnasium of Junior high school of Faculty of Education. Five houses that belonged to the late Kofun period (6-7 C) were found.

Surveys in Korimoto and Sakuragaoka Campuses

25 surveys were conducted by the center in two campuses. The survey at Area H-11·12 in Korimoto Campus revealed the same situation as that of Area H-12·13. This Area is so important to require the future wide excavation for the reconstruction of human activities in the Yayoi to Kofun period in this region.

Appendix : Excavation of Area K·L-5·6 in Korimoto Campus

The center excavated the site (Area K·L-5·6) of the central library before its extension from May to September 1993 and from May to August 1995. The excavation revealed cultural remains and artifacts in the second to the fifth layers there. Two houses, a ditch and many pits were excavated in the layer of the late Kofun period (6C). Many potteries and a few stone tools were found in the ditch. We think that these artifacts are thrown away from the north side of the ditch. Many houses of the late Kofun Period are concentrated in the north of the ditch. The villagers dumped many pots and a few stone tools in the ditch after using.

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報19

2005年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL 099-285-7270

印刷 斯文堂株式会社

鹿児島市南栄二丁目12-6

TEL 099-268-8211

Kagoshima University Research Center for Archaeology Report Vol.19

CONTENTS

Chapter

1 Report of archaeological research in fiscal year 2003 · · · · ·	1
2 Report of rescue surveys · · · · ·	6

Appendix

Report of the excavation at Area K·L-5·6 in Korimoto Campus · · · · ·	15
---	----

Published by

**Kagoshima University Research Center for Archaeology
2005**